武野野台地の一角に多摩川のつくった段上がある。西北に大岳山を望み、近くに多摩川が流れている。奥多摩の玄関口といわれる土地柄、都心にも近く、住む人は純朴そのものである。横田基地があるので、飛行機の爆音が響き、米人の姿、商店街などに異国風な面もみられる。〝福生〟――昭和四五年に市に昇格した新しい街である。

（『ふっさっ子』第二集より）

親と子

親と子で、ハイキング

「年頭にあたり」 （一九七二・一）

●おとうさん、おかあさん、ことしもまたお世話になります。ところで年頭にあたり、一言お願いもうしあげます。

中一　長沢　洋子

おとうさんとデパートに行きたい。いつもはおかあさんといくが、もち合せが少なくていいもの買ってもらえないもん。

中二　落合　幸子

中学校の上級ともなれば、学校の男のお友だちに誘われることだってあるわ。それを子どもだから早いとか、ひやかしたりしないで、ことしはもっと男女交際を自由にしてください。中学生が恋愛をしてはいけないんですか。いけないなら、なぜ中学生ではいけないのかよく話をしてください。

中一　女　子

うちの母はとしよりふけている。それなのにお化粧もしないしなりふりかまわずだ。自分はそれでいいだろうが私はみっともなくて困っちゃう。せめて、口紅ぐらいは、と思うのが子どもごころだ。

小六　松井ゆう子

おかあさんには、会社からもっと早くかえってきてほしいです。おとうさんには会社が休みの時は、少しは家のことに気をつかってください。一生けんめいはたらいていてくれるのに、こんなことというのはわるいけど、少し考えてください。

小六　野崎　浩子

大人も四十才を過ぎると考え方がかたくなる。マンガを読んでいると、なぜ勉強をしないのか、とおこる。夕方帰りがおそくなるとすぐブツブツ言う。マンガだって読みたい時があるし、子どもだって、夕方ほかの用事でおそくなる時だってあるのに。

中一　深沢　幸子

大人が悪いことをして、それをなくそうとしているのも大人だ。という言葉を聞いたことがある。全部大人が悪いとはいっていないが、すこしは思いあたるところがあると思う。ゴミをところかまわず捨てるのも大人だし、そのゴミでさわぐのも大人だ。だから、子どもを叱る前に、大人のそういう一面を考えてからにしてほしい。

中一　鳥山　寿子

最近の子どもは昔の子どもにくらべて外へ出て遊ばなくなったなんていうけど、そんなこと言うまえに、子どもが外へ出て遊べるようにしてもらいたいものだ。福生だって、どんどん自然が消えていく。川にきたないものを捨てる。自然をもっと大切にということを考えて！

中一　男子

ぼくの父と母はよくけんかをする。けんかの時は大きな声でどなる。この間のけんかの後、父がもう絶対におこらないからと言った。だがすぐにまたけんかだ。そしてぼくたち兄弟は、小さくなっている。

中二　男子

昨年末の期末試験は悪すぎた。それを父に見せたら〝なんだこの点は〟だと。どうせぼくは親の血すじをひいているんだよ。何もかも親ににているぼくを、なんでそんなにおこりたがるんだろう。

小五　清水　房枝

きょうも救急車やパトカーが家の前をとおっていく。頭がガンガンしてしまう。自動車は細い道など、なぜあんなにとばすの。

交通事故をみんなでなくすようにしていこう。

中二　女子

期末の勉強をしていても、ついテレビの方へ気がまわって困った。しらぬまにテレビの前へ行っている。母は「期末でしょう」とやけに大きく言う。頭にきた。そのくせ自分たちは楽しそうにテレビを見ている。

「日本一のおとうさん・おかあさん」（一九六九・一〇）

●うちのおとうさん、おかあさんの、じまんくらべです。

下里　恵子

おとうさんはおすしをつくるのがじょうずです。お客さんがくると、すぐおすしを作ります。だからおとうさんのおすしは、しんせきでひょうばんです。

おとうさんはきらいな物でも食べます。だからやせているけどじょうぶです。

おとうさんは、物をむだにしたり、めそめそするとおこります。だけどいたずらしてもおこりません。

だからだいすきです。

雨宮　貴子

うちのおかあさんは毎日しごとに行っている。朝八時十五分前に出かけて、五時ごろにかえってくる。おきゅうりょう日には、よろこんでにこにこしてかえってくる。その時、おこづかいを三百円くれる。

佐藤　守孝

うちのおとうさんは手品がうまい。とくにトランプ手品がうまい。それからおこるのもじょうずだ。そのこつは、いたずらをみても一回ではおこらない。三回ぐらいの時すごくおこるから、ぼくもびっくりする。

このあいだ、PTAのソフトボール大会で鍋二の投手をやった。決勝でまけたけど四試合連続で投げた。

細渕　輝夫

おかあさんは、近くの幼稚園ではたらいているけど給食の先生なんだ。なにをつくっても、幼稚園の先生にほめられる。料理がうまいおかあさんのおかげで、いつでもおいしいごはんをたべている。

田中　京子

うちのおかあさんは、勉強をやりなさいといわないから、いいおかあさんだ。

「まったくこのごろの子どもは」（その一）

（一九七三・九）

●りくつをつけるのがうまいですねえ。ああいえばこういうで感心してしまう。このあいだも私たち（母親たち）がこのごろ感じていることで、彼等に聞いてみたらこうなんです。

私から

（以下、ゴシック部分が私のことば。この〝私〟は、数人の母親に代わっての発言です）

1.『夏休みで暇ができたからでしょうが、テレビや週刊紙のくだらないのばかりみて困っているんです。』

子どもから

A子（中三）　くだらないものっていうけど、どんなものがくだらないものなの。私にはそこがよくわからないの。だからせめて夏休みぐらい、いろいろと読んだり見たりして理解しようとしているの。それに暇つぶしに見ようという時は、そういうものがちょうどいいものなのよ。

B子（中一）　お父さんなんか、ときどき見てそこらにおくから、つい暇な時、私も見ちゃうんだ。

C子（小六）　やっぱり世間のいろんなこと知りたいんだもん。それにはこういうもののいつも見てなきゃ。

D子（中二）　うちの母なんか、本読んでるふりすれば勉強だと思ってる。だけどそう勉強ばかりやってられないから、そっと週刊紙なんか見るの。

2.『うちの子は、女のくせに自分の部屋はちらかし放題で。あれで気持悪くならないのかねえ』

A子　女だから、なんて言われると頭にくる。ほかから見てみにくくても、私にはこれで快適なんだから。あんまりきたなくなれば、いくらなんでもそうじぐらいしますよ。

D子　勉強をやって、家の手伝いもときどきやらされて、そんな暇ないもん。家の用はぜったいやらせなけりゃあ、やってやる。

F子（中三）　世の中ざわつきっぱなしでみんな落ちつきないでしょ。公害なんかでよごれに慢性化もしちゃってるから、部屋が妙にかたづいては体に毒なのですよ。

　お母さんそんなこと言うまえに、台所やお茶の間、もっときれいにしてよ。友だちよんでも、私がはじかいちゃうわ！

E男（中一）　そう思っているのなら、だまってそうじぐらいやっといてくれればいいじゃないですか。

C子　かたづければいいんでしょ。女だから女だからって、女に生まれて損したな。

G子（小五）　はじめっから散らかしつけたでしょ。おそうじしてもどうってことないよ。このごろ、よごれている方が気らくなんだ。

3.『ちょっとお手伝いさせるとすぐに、こづかいちょうだいって、まったくガメついんだから。』

B子　昔は洗濯機なんかなくて母親は大変だったのよ。だから子どもの手伝いも必要だったんでしょ。今は機械でやれるんだから楽でしょうがないでしょ。それなのに私に手伝わせるなんてズルイや。だからおこづかい出すのあたりまえよ。

C子　家のことだから、手伝いするのはあたりまえだっていう態度されるからいけないね。それにこちらで言うまえに、おこづかいをさっと出してくれるように気がきく親ならいいんだけど。家の親なんかそういうことちっとも知らないんだから。

A子　子どもは親の使用人じゃなくて、同じ人間なんだから。それに、すぐねだるなんていうけど「百万円だの一千万円」なんて言うわけじゃなくて、ほんのちょっとのことなんだから。それをケチケチされたら、大人なんてみにくい動物だ、と思っちゃう。

F子　我々の本業は学問である。内職は賃金をもらうのです。

D子　親の教育が悪いのよ。小さい時からちゃんとしつけとけば、私だってもっとすなおだわ。今からそんなことって無理よ。昔は、ちょっとぐずればすぐにおこづかいくれたでしょ。それに、自分がやるのめんどうになるとかってに子どもを使おうなんて、親の悪いくせだわ。

E男　一か月のこずかいをいくらもわたしてくれないから、ガメつくなるんです。おわかりかな。

B子　今の世の中、ガメつく生きなきゃあ生きていけないもの。私たちが悪いんじゃなくて、世の中がそうさせているのです。

4.『夜はいつまでも起きていて、朝はすごく寝坊してて。昔はね、早寝早起きで、学校へいく前に庭はきぐらいやっていきましたよ。』

A子　夜おそいから、睡眠時間を必要なだけとるために朝おそくなる。これは健康上当然なこと。夜おそくなるのは、テレビが夜は特におもしろいから。そんなテレビをつけておくのを許している親の方が問題。自分たちもそんな時間はさっさと寝ればいい。

F子　夜、勉強しながら深夜放送を聞くのです。勉強をする、そして深夜放送を聞いて人生勉強もしている。一挙両得です。そんな子どもの苦労も知らないなんて、親なんてのんきなものだね。

D子　私だって、結婚して奥さんになれば、早く起きられるようになりますよーダ。それに、夏休みだからおそくまで寝ていられる。そんな楽しみ方をわかってくれなくちゃ、母親の資格

ないわ。

C子　昼間は、お手伝いもあって勉強がおくれるから夜おそくまでやる。そして疲れて、朝おそいともんく言われる。子どもはかわいそうです。

5.『このごろ、ことばづかいがあらくて男の子みたいで、みっともなくて困っています。』

C子　いいじゃないの。ことばづかいを女らしくなんていう法律があるの。

A子　私達の時代と親の時代とはちがうのよ。悪いことばと感じるのも、ずいぶんずれがあるのでしょ。それに親が言うようなことば使ってたら、「すかしてる」「近づきがたい」なんてレッテルはられちゃうのよ。

B子　学校へいくとみんなこんなことばなんだよ。そんなに心配なら学校へいかせないいんだね。でも私もお母さんのようなこと感じることある。家の隣の子、前はすっごくかわいくてなんでも言うこと聞いてたのに、学校に行きはじめたら乱暴なことば使って、にくたらしくなったわ。

G子　乱暴だってなんだって、人につうじればいいじゃないの。

E男　今は流行にびんかんでなければいけないのだ。ことば使いなんて、しゃべって意味がわかればいいじゃんか。男みたいなことばづかいって、話しやすいんだよ。

D子　このごろは、おしとやかな人よりも、あるていど、男っぽい方がもてるんだよ。

6.『昔の人は礼儀正しかったですよ。〝三尺下がって師の影をふまず〟なんて言ってたのに。このごろの子は、近くの大人にも先生にも、あいさつもろくにしないんですね。』

D子　あのね、今の子どもは意外と純情でもあるのよ。てれてしまうんだよ。

B子　大人なんか、あいさつをするとつづけて「あーら奥様、いつも子どもがお世話になりましてえ」なんて、道の真中で長話しちゃって見ちゃいられないわ。それより、心で笑顔を見せて通りすぎた方がいいと思うよ。

C子　しない人にはしない人の、何か理由があると思うよ。

E男　大人も子どもも同じ人間だもん。だから大人がやらないのに、こっちがしらばっくれるのはしかたないさ。

C子　あいさつなんてめんどうくさいわ。あいさつをしなくても、べつに何も困ることもないでしょ。気がむいた時にすればいいわ。

G子　そんなにあいさつがいいのなら、言ってやるわよ。言えばいいんでしょ。

7.『まったく今の子は物を粗末にすること。この間スカートを買ったばかりなのに、もうカッコ悪いからなんてしまいっぱなしで、また新しいのを買ってくれですって。昔は、姉のものを染めなおしたりしてだいじに使いましたよね。』

B子　古いねえ、今は新製品がつぎつぎ出て、そして洋服なんか、みんなたくさんもっておしゃれしているんだよ。子どもに人なみのカッコさせられないなんて、親のはじだよ。

C子　女の子だもん、人がいいの着てるとほしくなっちゃうよ。そんなこと言うんなら、お母さんだってどんどん買えばいいじゃん。わかったわよ、お金がないんでしょ。もうそのことば聞きあきたよ。いくら姉妹でも人のおふるを着るなんていや。時代がちがうんだから、わかってー。

A子　昔は物資が足りなくて、子だくさんだったりしたから。今はその反対でしょ。親の方がここらで「もったいない」という感覚を捨てなければいけないね。

D子　学校にいくと、みんないつもちがう洋服でくるもの。私だけいつも同じものなんて、みじめよ。

G子　今の世の中、流行においつけおいこせなんだから。古いものなんていやですよ。

話しあおうよ

「おれとおやじが、ぶつかっている事情」　（一九七〇・五）

●親子の断絶は、子どもが高校生になり、またはそこを卒業するころから、そして父親との関係に、目立ってくるようだ。そこからの問題は、新聞や雑誌などにかず多くとりあげられている。過日この町に住む若者のサークルの人たちと、数人のおとなたちでこの問題で話しあってもらった。

まず、つぎの三人の話から聞いて見てください。（記録山崎茂男）

まず自己紹介

A君　のんびりと大学へ行かせてもらって、そろそろ卒業も近いとなってきたら、おやじが、家の商売をやらせたいらしく、遠まわしに言ってくるんだ。

俺にはこれから自分で考えている教育関係の仕事がある。特別な資格をとっておこうと考えていることもあるし、こうした青年のサークル活動もやりたい。おやじの方はもう、最近の一・二年が待ち遠しいのですよ。「いいとしして、少しは仕ごとに関心を持ってもらいたい」と思っているらしい。俺の方は、ある時は徹夜で考えごとをすることもある。それで朝もだらだ

らしている。そんなことがいちいち気にいらないんだな。だけど、おやじの昔の話のなかで、自分でも若い時はかなり遊んだし、まわり道もしてきたと言っていた。ところが、今になると俺の生活指導がきびしいんだ。

おやじはまず結論で言ってくる。ああしろ、こうしろはくわしく出ない。おやじからすれば、俺が、おやじの意向にそっていくのが親孝行だ。俺からいわせれば、俺の自分の道をいくのが親孝行だ。そんなことを話しあっていると、「うんわかった」なんていって、少したつと、いいかげんにしろとなる。そこでけんかになってしまう。

そんな時に、自分でも遊んだりまわり道した若い時の、そんな感覚で俺たちと話ができないものかあ、と思うな。

B君 俺は高校卒業の時に、おやじともめて、家をとび出してきた。おやじは鉄道員だが、自分の経験で、鉄道がいいから俺のようにやれ、と言う。俺は鉄道は絶対いやなんだ。子どもであっても自分で決めたいしな。おやじにすれば、鉄道なら恩給はつくし、いろいろい点が多い。なんとかして息子にも堅実な一生を送らしてやりたい親心だよ。その体験をおしつけてくるわけだ。

俺はそんなことでごたごたしているよりはと飛び出してきて、夜働きながら昼間の大学を、

やっと卒業しました。

C君 俺のおやじはぶきみだったな。ほとんど何もいわねえ親だった。小学校へあがるまではきびしくてずいぶんやられた。それが中学へ入ったころからピタッととまった。これはへまなことをやれねえな、といつも思った。おやじは世間しらずで学問なんかまるっきりだめ。俺は中学卒業ごろにはおやじと一しょに酒のんだもの。それでも俺はおやじを尊敬していた。高校入試のまぎわになって、高校へはやれない、といわれた。前からそういう予感はしてたけど、それで少しやけになってくれたが、やくざになる勇気はなくてふらふらして家へ帰ったら、親父が手をついてあやまった。

俺がこんなことじゃいけねえなって、その時からまじめにかせいでいる。そしてこの連中と知りあって、いつも話を聞かせてもらってるんだ。

いばるな〝親父〟

A君 そのような俺たちの立場から、おやじたちに言いたいことなんだが。

親と子のお互いの生き方を今少しつっこんで、親が批判されたり、その意見をくつがえされたりしてもいいと思うんだ。子どもの自主的な判断力も強くなり、家庭の運営、決定が、父親であり親であるということでの、単独な判断ではできなくなってゆくんだ。家庭も、民主的な

共同集団としての機能を果たさねばならなくなってくるんですよ。親の現在の立場にしても、なぜこういう生き方をしてきたのか、といううらづけもはっきり説明してもらいたいんだ。
　ところが、ある時はごうまんで、そして、プライドばかり強く出して、おまえの言い分はへりくつだ、とはねつけるんだ。自分の考えを子どもになっとくさせようとする、話しあう姿勢じゃあないんだ。こっちはたしかに経験不足で、途中で失敗もするんですよ。そうするとすぐ、人の言うことを聞かないからだ、と云われる。
　我々は、二十才過ぎたらもう親と対等のつもりです。その意識ですぐに反発しちゃう。親だって、今の時代だ。親を踏台にする子どもを是とする親に、更に成人した子どもを踏台にして伸びようとする親になってもいいと思う。親の権威だ、とかいうケチなものにこだわっている。その反面、お互いを変に認めあって、おふくろ経由でなければ、話ができなくなったりしてくる。
　親は実体験を大いに含んだ生き方を子におしつける。子どもはちがった生き方を主張する。それを即、親子の断絶として理解することはまちがいだと思いますよ。だが、そこから、親子の断絶が始まっていくことは確かだよ。

D君　うちの場合だけど。

　このあいだ新聞をみていた親父が、どこかの小学校で〝君が代〟をうたわない、「これどう思うか」って言ってきた。こっちはいま起きたばかりでめんどうだから「このごろの小学生なかなかやるな」といった。
　そしたら親父は「なにい」とおこっている。「新聞だからくわしいことはよくわからないよ」とか言っておいたが、学生問題なんかおやじと論じると、いつもこんな調子になるな。戦前と戦後では教育環境もちがうし、そのことを親父に説明してもうけつけない。親父の時代はよくても、いまは悪くなっていることもある。社会の状勢に柔軟になれよ、というとけんかになる。

B君　さっき発言したA君の所だが、俺が奴の家にいって親父さんの話を聞いていると、奴のいる時といない時で、親父さんの話がちがうんだよ。
　奴の親父は俺を信用しているらしいな。だから、俺を通じて奴に言わせようとするわけだ。奴も、親父も俺が言っている時は、すなおに聞いているんだ。

わが子かわいさからだ！

（　）つきはおとなの発言者

（Eさん）　親父の側からも、何か言わしてもらいましょうか。

父親は自分の子どもを自分の所有物だと思っている。だから自分の思う通りにしたい。俺はこうして失敗した、だから損だよ、こうしなさいよ、という。子どもには何かやってもらいたい。ぼうけんもしてもらいたい、がそれは安全でなければならない。どの親だって子に願うのはそれですよ。

あなた方も親になれば、そうなると思う。家の中では、女親はわりとそういう実際の苦労がない。だからどうしても父親の方が、そこらでもきびしいわけですよ。

（**F**さん） 親子では断絶しても、これが外に向かった時は、自分の息子や親はぜったいのものになるんです。

戦争の時、私はまだ二十才前だった。隣りの人間が、一瞬の後に銃撃にあって死んでいく。その相手の敵の飛行機が目の前にあった。そんな戦場の中でも、そのころは一種のおもしろさを感じていた。しかし、今自分の子どもがその年代になってみて、戦争はこの上ないこわいものになってきた。

子どもの成長に気付いてヨ

A君 そんな時、親としては、戦争から、その後の時代をどんなに生きてきたか。そして今の生活に不満があるのか無いのか。そんな心の中まで聞かせて貰いたい話になると、かんじんの

所はすっと避けられちゃう。

（**F**さん） 避けるわけじゃないんだ。面倒なんだ。結局、はじめにD君が言ったような結果になってしまう。

（**G**さん） 私が娘のころ、夜おそく帰ってくると、母が駅まで迎えに来ているんです。それがなんだかしゃくにさわってね、そんなとき母をまいて家へ帰ってしまったものです。心の中ではとてもありがたかったのですよ、でもその時はそうした態度をとった。

今になってみると、ああして迎えにきてくれた母に、すなおに喜こんでやればよかった、と後悔しているのです。

すぐ〝プン〟とする子

（**H**さん） 大人になってくればくるほど、迷いごとが多くなってきます。洋服一つ買うにも、さてどれにしようかと迷う。子どものことだって同じで、自分の心の中で迷いだしたら自分でさえ決まらない。だから一軒の家の中で、親子の意見のくい違うのはあたりまえです。それを、今の子どもは、すぐにプンとされるので困ります。

C君 親の保護的な愛情は十分わかっている。自分が親になれば、やはりそうなるかな、という予測はあります。

（Eさん）若い人が、親の話を上手に聞いてやるのも親孝行になるんじゃない。ゼスチャーだっていいんだ。

D君　それはいつわりですよ。

「生活の知恵」を生かして

（Eさん）でも、おせばひけ、ということもあるだろう。若いうちからそんなことがうまくても、自慢にはならないだろうが。

（Fさん）親はなかなか急に考え方を変えるきっかけがわからない。いつまでも子どもの指導者でなければならないと思ってる。兄弟でもそうでしょう。一つちがいでも兄貴と弟という順序は厳然としていますよ。

D君　うちではまえには兄弟で当番制の議長を決めたりして、それで親も交えて話しあったりした。

このごろ、おやじが右向けっていっても、だんだん半分ぐらいの角度にしか向かなくなってきた。いままでがっちり親父がやってきたこの家が、そのがっちりがくずれかけている。これからどうやっていいか親父は迷っているようだ。いままでは親の経験を子どもが重んじてきた。しかしそろそろ子どもに主体性ができてきた。そこで、みんなでこの家をやっていくことが必要だろう、というんだが、親父にはそれはつらいことらしい。

（Eさん）そんなことで、子どもの成長とともに、家の中がむずかしくなってくる。子どもも外へ出て失敗もし、痛い思いを経験していって、だんだん世間を知ってくるだろうが。

皆さんがうらやましい

Iさん　わたしは小学二年生の時に母をなくして、あと父に育てられてきました。高校を卒業してから、父をふりきって上京してきたんです。ところが、今になってどうして父がもっと私にきびしく育ててくれなかったのかと、心で父を責めたりしました。でも、父にすれば、母のない子で意識して甘やかしてくれたらしいんです。

このごろ、父に孝行したいなあと思っていますが、こうはなれてしまっているので。ときたま父が上京してきた時、タバコなど買ってやると、とても喜びます。いくらけんかしても、毎日でも親と接していられる皆さんを、うらやましく思っています。（終）

「まったく、このごろの子どもは」（その二）　（一九七三・一〇）

●「女の子のくせに、まあ散らかし放題で……」とブツブツ言いながら、お母さんは自分で子ども部屋

を片付けてしまう。子どもは、少し親のガミガミをがまんしていれば、いつの間にか部屋はきれいになっている。この要領さえのみこんでいれば、このごろの親なんて甘っちょろいものである。
たしかに親の側には、こんな一面があるようだ。だが、それにしても前記の（七〜十四頁）意見は"ふざけている"だろうか。
いや、あれはこちらの質問に"へりくつ"を書かせたから、ああなったものの、実際にはみんなまとも過ぎるいい子です。言わせれば、あれだけのことをポンポン言うということです。
あなたは、どう感じましたか。

"びっくりしたワ"

○"ふっさっ子"だから子どもも気楽に書いたと思いますが、かなりびっくりさせられました。
○PTA新聞などに、あのままが出たとするとショックです。
○いや、今は子どもたち同志の話を聞いていると、もっとはっきり言っているようだよ。

× ×

くだらないテレビや雑誌……について

○今の子はテレビやマンガを通してでないと仲間のつきあいができない。とにかく見ておかないと一人ぼっちを感じちゃうんだろう。
○私はこの項では子どもの言い分どおりだと思いますね。

お手伝いとこづかい……

○お手伝いにすぐこづかいをねだってガメついというけど、私はあの項では、子どもに賛成します。おとなはお金の要求に対し、せびるとか、きたない感じを持っている。子どものいい分はすなおに聞いてあげたい。ただ、子どももそれを要求するには、その手伝いが大人にも通じる、きちんとしたことをやらせなければいけないでしょう。
今の親は楽をしているのだから、という言い分に対しては、母親が家にいて、朝から夜までこれだけの仕事で大変なのだからと、表にして子どもを納得させるぐらいにしないと、今の子どもには言いまかされてしまうでしょう。
○うちでは兄の方が牛乳配達のアルバイトをやっています。そして給料を貰ってくると、妹におこづかいを分けてやっている。朝いそがしくとび出していくから、妹には兄のそのふとんの始末をさせるんです。それを妹が気持よくやってあげなければ、兄に対してすまない、ということを家中で話しあうんです。

礼儀正しく……ということで

○このごろの子どもは、うちへなんか遊びにきて玄関で、〝おじゃまします〟っていう。ていねい過ぎるとも感じるな。

○人がやるからまねをする。ということからかもしれないですね。こういうことで親が子どもにしつけるには、そのことばや形だけでなく、心の問題をだいじにしたい。だから、多少言葉は乱暴でも、心がこもっていれば暖かく感じられるでしょう。

「まったく、このごろの子どもは」（その三）　（一九七三・一〇）

●（その一）の〝子どもの意見〟の中から二つだけ、おとなから、子どもに聞いてみたいのです。

一つは、ことばづかい。

『もし悪いことばがあたりまえになってきて、あなたのお母さんが「おい、おめえたち」なんてやったら、どうですか。』―（一二頁）

中一　女　子

○そりゃあいいきぶんじゃないと思うヨ。デモサ、そのコトバの感じによってだヨネ。たとえばよそのおばさんに「オッス」なんてのはやだナ。アタシもサロが悪いけどサ、よその家での

礼儀みたいなもんはわきまえてるもんネ。でも、親子で友だちみたいに話せたりするんだったら（それなら相談しやすいや）お母チャンが口の悪いのも、チョッピリ、さんせい！

中一　女　子

お母さんがそんなことばづかいだったら、お母さんでなくおばさんって感じになっちゃうから、そんなのはいやです。

「じゃあ、あなたたちは」って聞かれたら、どう答えていいかわからないや。

中二　女　子

その人がらは言葉使いなんかにあらわれるのは、確かだと思う。まして、自分の母親にそんなことをされては、子どもまで変な目で見られると思う。

中一　女　子

私が家で乱暴な言葉を使うと父が「外では使うのもしかたないが家では許さない」と言う。それと同じでお母さんは家では乱暴な言葉を使ってもいいけど、外では使ってほしくない。（できたら家でも。急に人がきた時なんかはずかしいもん。）

中一　女　子

母親は、女の子の手本なのです。子どもに好かれる言葉づかいをしてください。

二つはおてつだいと、こづかい

『こちらで言うまえに、さっとおこづかいを出してくれるような気がきく親ならいい。と言っている

親から言われなくても〝すすんで手つだってくれるような、気のきく子〟になってください。』

C子さんに。（一〇頁）

中一女子

でも、お母さんなんか子どものころは、どうだったの。お手伝いが好きな子だったの。だから自分の子どものころをよく思い出して、言ってほしい。

中一女子

こういう言われ方が一番いやです。ひっぱたいてでもやらせる、こわいお母さんの方がいい。

中二女子

気をきかすなんて、経験のない人にはできないことでしょ。だからそういうことはすべて親のまねをすることでしょ。うちの子はだめだ、と思ったら、やっぱり私がいけないんだわ、と思う親であってほしいな。

中一女子

きげんのいい時は自分からお手伝いしようと思う。でもその反対の時が多い。「お手伝いしてよ、よその子はみんなしてるわよ」なんて言われ方、いやな気持。

中一女子

たまに気がむくと自分からやる。でも私は鈍感だから、あれもこれもやってほしいと思っているとしても、言われなければわからない。そのせいかな、あまりおこづかいもらえないのは。

意見全体について

一父親

○とにかく今の子どもは自分中心であり過ぎると思う。お手伝いはする気持ちはある、でも、テレビを見ている時はいやだと言う。あいさつなんか気がむいた時にやればいいわ、とか。そして最後には、時代がちがうよって言う。親がまたおどおどしちゃって、そうかそうか、なんておどしにのっかっている。まず親がしっかりすることだ。

（一九七三・八）

「親の学力」

●今まで夏休みの宿題をよく手伝ってくれた父と母が、ことしは宿題というとしらんふり。そういう時、父と母のようすをどう思いますか。

教えてもらいたいと思った時教えてもらえないと、お父さんやお母さんは、学校で勉強のとき、さぼっていたんじゃないのかなあ、と思う。

六小四　細淵美由紀

このごろお酒をのみすぎて、少しバカになったのかな。

一小三　矢沢　成尚

宿題でわからないところがある時、父や母に聞く。そうすると「わかんないね」という。だからわたしは、父や母のほうがわたしより頭が悪いな、とおもう。

六小四　太田　光子

おかあさんなんか、むかし戦争なんかで勉強していなくてわかんないのかな。それとも、わたしたちのことばかり心配していて忘れちゃったのかな。

六小四　堤　けい子

いそがしくてだめなんじゃないのかな。やっぱり学年があがってむずかしくなったのかな。

一小三　山形　孝子

夏ぼけのせいで、問題の意味もなにもわからないのがかさなってしまって、しらんふりをしているのだと思うな。

六小五　今井　繁

母に聞くと、父に、という。父はそうするとすぐにお店に出たり新聞を見て、あとであとでと言う。だからさいごには姉に教えてもらうことになる。

一小四　奈良　示子

うちでは父が見てくれるけど、まちがえることがある。そして、自分のやったのがあっている時など、きっとむかしの先生の教え方が悪いのだな、と思った。

瑞四小　荒井由紀子

（一九七四・三）

「おかあさんのおせじごっこに？」

●うちの子はだめなんですよ。おたくの正ちゃんは、とても優秀なんですね。こんどの通信表もすばら

しいんでしょ」なんて、おかあさんが近所のおばさんと話をしている。それを聞いている君の気持はどんなだろう。

小四　高橋　尚毅

あんまりいい気持はしない。だってそれを聞いたおばさんがまたちがうおばさんに言う。だからよくない。ぼくがまったくだめな子どもに思われてしまう。

小四　堀江　浩二

あれはみんなおとなのおせじだよ。おせじのいいあいいって感じがわるい。

小四　小林　正実

子どものことを、勉強はだめなんだと言って、よその子をほめるけど、そのおばさんも、ほんとは自分の子どもをほめてほしいから言っているのだ。

小四　野中佐江子

おとなは子どもを、バカだなんて言うけど、わたしたち一生懸命やっているんです。宿題がわからなくておとうさんに聞くと、それを見た父が、四年生もむずかしいんだな、と言っている。そして、たまにはおまえの本で勉強をしよう、と言います。おとなはたまにだけど、子どもは毎日むずかしいのをやっているんです。

小四　吉沢　広美

うちの子はだめなんです、なんて言っているけど、心の中ではほめていると思う。

小四　村瀬　龍治

ぼくはあまり頭がよくないようだ。だから、正直に言ってもらいたくない。あまり正直に言われてしまうと、ぼくははずかしい。

小三　田野倉節子

ときどきおせじなんか言っちゃって、言われた方はうれしくてにこにこしちゃって、「それほどでも」なんて。ほんとのことならまあいいけど、おせじで言うのは聞きにくいなあ。

小四　波多野久子

ときどき、おかあさんどうしが子どもの話をしているのを聞くけれど、ほとんどのおばさんが口では言わないけど、子どもをじまんしているように聞こえるときがある。だから、にくらしくなるときがある。

小四　清水　伸樹

ぼくはあまり頭がよくないから、ほめられることがない。ぼくはもっと悪い頭にしてやろうと思う。でもこれより悪くすると中学にいってこまる。よし、勉強をして、ほめてもらうよう

にがんばろう。

小四　徳永しのぶ

わたしは、おかあさんたちのそんな話を聞いてはらがたってしまう。話がおわって帰ってきたおかあさんにもんくを言うと「あれはじょうだんだよ」と言う。通信簿の話は言わないで。

小四　板橋　良則

おとなは、あいての子をほめておいて、自分の子を勉強させようとしている。子どもにはいいめいわくだよ。

小三　小林　貴子

うちのおかあさんも、よそのおばさんといっしょに「うちの子もえらいでしょ」と言えばいいのにと思います。

小四　村木　章恵

べつにほんとのことじゃないから、気にしないことです。

「よそのと……くらべて」

（一九七二・六）

●〝よその誰々さんにくらべて、お前は〟ってよく言われますね。そういう調子で、あなたの父母について言ってみてください。

うちでは父はおこりんぼだ、母もまけずに気が強い。だからよくケンカをする。気の強い二人がケンカをするものだから、こっちはたまったもんじゃないよ。いつも奥の部屋にひっこんで息をつめている。

中一　女子

こんな二人なのに二十年間もいっしょでいるんだから、フシギだなあ。世の中、ほんとうにうまくいってマス！

小六　男子

ぼくがおそくまでかかって宿題をやってると、父は、学校から帰ってきたらすぐやっておきなさい、なんて言う。学校から帰ってすぐには少し遊びたいのですよ。自分が小学生のころはどんなだったの。

中二　女子

家の近所のおばさんはとてもマンガに理解があって、いいマンガもあるよ、って言っているのに。家の母は全然そういうことがないんだから。マンガはぜったいくだらない、と決めつけているのがくやしいんだ。数あるなかにはくだらないのもあるけど、胸にジーンとくるのもあるんだから……。

たまにはマンガでもいいから本を読む気になって、子どもを理解する気にならなけりゃあ。

中一　女子

うちの父は私たちには「早く起きて学校におくれないようにしろ」などと言ってるくせに、自分では、みんなが朝食をしている時に、グウスラ、グウスラ寝てんだもん。まったくなさけ

ない親でやんなっちゃう。

中二　女子

うちの母は、友だちがきてもお菓子やのみもの持ってきてくれないの。よその家へいくとたいてい、そこのおばさんが何か持ってきてあいさつをしてくれるのに。うちのかあさんもちょっとは他の人をみならって、あいさつぐらいできなくちゃあ。

中二　女子

うちでは、月のおこづかいが五百円。よそでは最低でも千五百円ぐらいはもらってるよ。だから私は買いたいものも買えないしお金もたまらないわ。この前交渉したら、「じゃ七百円にしようか」だって。もう少し、せけんの話を聞きなさいよ。

中二　女子

うちの父はプロレスが好きです。だけど子どもが、ほかの番組を見たいって言えば、ふつうの親ならチャンネルをまわしてくれるのに。うちの父ときたら家族みんながいやだという番組でも、自分が見たいと、どうしてもゆずらないの。よそのおじさんたちにくらべたら、子どもみたいなところがある。

小六　女子

母上様、父上様、かくごはよろしいですか。（ふだんのしかえしですよ）
Aさんのおじさんは、せいも高くてやさしい。それにAさんの名前をよぶ時は、A子ちゃんとよんでいる。うちではB子とよびすてだ。このてんをあらためてほしいわ。私だって一人の人間だから。親だからといってよびすてではいけないと思います。

中二　女　子

Cさんのおじさんは、タバコを吸うのをやめたんだって。どういうわけかおとうさんはお酒をやめられないのね。これくらいのことをしっかりやれなくて、子どもたちにとやかく言うシカクはないと思うのでアリマス。

小六　女　子

うちの父は、毎朝会社に行くときは、母に起こしてもらうんです。魚釣りに行くときは、ハヤーク自分で起きるんです。たまには○○さんのおじさんのように、早く起きて庭はきぐらいしたらいいと思います。

中二　女　子

うちの母は、私が弟と口げんかをすると「もっと女らしくしなさい」と言う。でも口げんかをする時ぐらい、いいたいことを言わしてください。それでスッキリするんだから。

中二　男　子

ぼくも母から、だれがどうのこうの、なんて聞かされる。でも、ぼくの父や母のことは言いたくない。だって世界でただ一人しかいない父と母なんだもの。

「親は口のきき方を知らない」（一九七三・二）

●ある中学生は、親をこんなふうに見ています。

一中　渡辺　清美

☆私は親にしかられたり注意されたりすると、口をとがらしすぐに口ごたえする。けれどもあとで冷静になって親の身になって考えてみると、叱られるのがあたりまえのようなことを自分がしていたのに気がつく。そして私はまたどうして、注意されたことをすなおにうけとめられないのかと不思議になる。
反抗期なのかな。
☆でも親の言うこと、注意などがすべて理くつにあっているとは決して思えない。たしかに、今まで私の経験していることよりもはるかに多く親たちは経験し判断のしかたも知っている。

しかし世の中はどんどん新しい時代にヘンシンしている。親が昔「これが一番正しい！」という常識を頭にねりこんでいたとしても、それはこれからの世の中では通用しなくなっていくかもしれないのだ。けれども親は常に自分の方が正しいと思っているようだ。そして子どもがその線からはずれたようなことをするとガミガミ言う。子どもは新しい時代に生きているのだから、その親の常識とかいうものにすぐ反発する。その子どもの考えを親は口ごたえときめつけてはねつけてしまう。

　私が親の立場だったら、その時子どもの言い分を口ごたえだときめつけないでよく聞いてやる。もしかしたら「なるほど、今の子どもはこんなことを考えているのか」と勉強させられることがあるかもしれないし、ちょっぴり反省する面もあるのではないかと思う。

☆親は口のきき方を知らない。

　親は子どもに対して口のきき方がへただ。たとえば私が勉強している時に「清美、勉強をあとにして手つだえ」と言うことがある。私が親だったら「清美勉強中にわるいんだけど、ちょっと手つだってよ」と言う。そうすれば私だって「ええ、いいわよ」と手つだう気持になるのだ。そういうことがへたで、チャンチャンバラバラになることがよくある。

●だけど、おかあさんの言い分はこうなのです。

　清美はとても親思いで、あかるいすなおな子です。この勉強のこと以外で親子のいいあいはありません。本が好きで、小学生の時、自分で絵と文を書いて一冊のマンガ本をつくったりしたこともあります。中学生になってからは、家にいる時は、机に向かって勉強しているか、本を読んでいるかです。女の子だから、母親の手つだいをしなさい、とかいうような考え方は私はしていません。体のためによくないのではないか。一日のうち何時間を勉強ときめ、あとは手つだいとか遊びにというようにさせた方がいいのでは。と親心でそんな気づかいをしているのです。

　それを毎日思っているものですからつい口ぐせに「勉強よりも……」なんて言います。清美はそこで「またか」と言うことになってしまうんです。

「ずうっと先のことだけど……」（一九七一・九）

中二　女　子

●皆さんがおとなになって家庭をもった時、父母と一緒に生活することを、どう思いますか。

親は絶対に別の方がいい。人間関係はとてもむずかしいんだから、好きな者どうしが一緒に

生活するのでさえ気を使う。そこへ親が入ると生活がうまくいかないと思う。
それに、夫の親なんてなったら、なんでもいちいち気を使うことになってしまう。

中一　女　子

一緒のほうがいい。ただおとうさんは今でも口うるさいからいやだ。おかあさんなら、赤ちゃんが生れた時なんか、少しはめんどう見てくれると思うから、それにるす番だってたのめるでしょう。

小五　女　子

私は父母と一緒にいたい。父母が病気になった時でもいつもかん病ができる。もしどうしても父母といっしょにいられなかったら、福生の中の近くに住んでいたい。

中一　男　子

住む家が、貸家だったりアパートだったら、一緒に住むのは気がすすまない。自分の家だったら、一緒に住んでもいいと思っている。

小六　男　子

ぼくは別の方がいいと思う。旅行などに行く時、父母だけ家においていくのも心配だ。一緒につれていくと、のそのそして人を困らせたりしてどうもじゃまになるし、それだけめんどうをみなければならない。それに費用もよけいにかかってしまうからもったいない。いろいろ考えると別の方がとてもいいと思う。

中一　女　子

やはり一緒でないほうがいいと思う。父はすぐ人のことをバカというし、母はますますいじ悪ばあさんみたいになる気がする。だから私は相手になる人に、悪いいんしょうをあたえることになると思う。

中一　男　子

ぼくは一緒がいい、いままでそだててくれたし世話になったんだもの。だからこんどはぼくが働いて、おこづかいもたくさんあげたい。

小六　女　子

ずうっといっしょにいた父母とは、いつまでも一緒にくらしたいと思う。ただ、今うちにおばあさんがいるけど、おかあさんなんかにガミガミ言ってる。そばにいる私なんかもあたまにくることがある。だから私も大人になってからいちいち子どもあつかいしてせわをやかれるようなら、一緒にいてほしくない。

中一　男　子

父母がいつも仲良しならいっしょにいてもいい。だけど家ではいつも父母がけんかばかりしている。それでぼくたちはいつもいやな気がする。これからもいまのようじゃ、一緒にいるのはぜったい反対。

家で

うまくうつしてネッ。（珠算学校で）

「お正月のおたのしみ」　（一九七三・一）

●お正月で、みんながもっとも楽しみにしていることは、どんなことですか。

おかあさんが、だんになっているいれものに、いろいろなごちそうをつくってくれる。そのならべかたが、まい年ちがってとてもきれい。

二小三　越川智恵子

大師様（拝島）にいくとき、おこづかいをいっぱいもらえてすきなものが買える。そして、おとうさんやおじいちゃんがふだんよりやさしいから。

二小三　斎藤奈津子

おぞうにをたべること。あと少しで三十キロになるから、たくさんたべたい。

二小五　佐野　博子

習字がやっと二段になったので、おばあちゃんにかきぞめを書いてあげる。

二小三　亀田　尚

正月でいちばんたのしみにしているのはお年玉だ。お年玉をもらえばこづかいがふえる。それですきなものが買えるからさ。

一小五　山本六里子

それと、おとうさんたちとあそぶことだ。いつもはあまりあそんでくれないから、とってもうれしい。

二小三　竹村　幸子

元旦にお宮まいりにいくことです。七五三のときの、こもんのきものをきておばあちゃんといきます。でもそれには一つだけじょうけんがあります。それは、つうしんぼがあがってなきゃならないのです。

五小三　野島　寿久

友だちをよんで、こまをまわしてあそぶのと、かわらのどてで、たこのきょうそうをするのがたのしみです。

二小四　志村まさみ

お正月には、あたまをゆってもらって、きものをきておばあさんたちにあいさつにいくと、「きれいよ」なんていわれるんだもん。お年玉ももらえるけれど、それはおかあさんにいっちゃうの。でもわたしのものだもの。

二小四　伊東　成実

お正月は勉強のことをかんがえなくていいからうれしい。しんせきであそんでいるから、やらなくてもいいのだから。

二小三　森田　恵子

わたしはお正月はしんせきの家にいって、そこの子とバドミントンやトランプをやります。そのあとお年玉ももらえます。

五小四　斎田　弘

おそくまでおきていてテレビのすきなのを見られるから。お年玉はあんまりもらえないけど、もらわないよりはいい。

「さあー勉強しなさいよ」

（一九七三・五）

●「もう〇年生になったんだから今までみたいじゃだめですよ。一生懸命勉強するんですよ。テレビも少しにしなさい。たくさん勉強しなかった日は、夕ごはんのおかずへらしますよ。」なんておかあさんが言っているとします。皆さんその時の心の中を聞かせてください。

一小五　山本万里子

「あとでするからネッ。」と言ってごまかす。

（それでもしつこくいわれたら）

「おこっちゃいけねえ、おこっちゃいけネエ。」

（それでもしつこかったら）

「こんな子どもが多いのも、それは日本のじょうしきです。」

一小五　増子みゆき

「バッカじゃないから平気よ。」

一小六　古川美津子

子どもはこんなことを言われるとなおいやになる。子どもはもっとゆうゆうと遊んだりするのが一番いいと思う。親のいうことなんかなにからなにまで聞いていられない。自分たちだって勉強なんかしていないのに。親は、子どもの気もちというものを勉強してください。

一小五　藤山　禎三

家の親はおこってばかりいておっかない。言うことを聞かないとぶっとばされる。だから親の言うことはよくきく。それでもおかあさんはおこる。そしておとうさんにいいつけるから、ぼくはまとめておとうさんにおこられる。

一小五　森田　英俊

それなら夕ごはんたべないよ。それで学校の給食をブタのように食べて夜はいつもがまんするよ。

一小五　吉行　一敏

そんなら勉強するよ。一時間だけだよ。早く一時間が終わらないかなあ。一時間というのはなかなか長いなあ。あああ……

二中一　A　子

ぶつぶつ言いながら、私の部屋へいって、それから頭にきちゃってふくれる。そうすると、おかあさんが入ってきて、「どうせわたしが悪いんでしょ」と言う。

四小六　平原日出子

「あとでやるよ」と言って子ども部屋にはいる。いつも少しやるとあきるから、マンガの本を読んでいる。おかあさんがときどき見にくるから〝サッ〟と本をかくす。

一小六　B　子

なにを言われても知らんふりをしている。

四小五　田中　建二

ぼくは勉強するのに、おとうさんなんか日曜日は寝ているばっかりで、どこにもつれてってくれないんだから。

一小六　C　男

そういうこと言われても困るんだ。六年になるといそがしくて家へ帰るのだっておそいし、つかれてんだから。

六小四　水島　篤子

母はひるま家にいないから、そういうことは言わない。そのかわり夜は、「勉強をやらないと寝させないよ」とかきついことを言う。その時の母の顔は「オニ」のよう。わたしはその母の顔にヨワいのだ。

「デラックス机」　（一九七一・四）

●時計も鉛筆けずりも温度計もついている。そんなデラックス机があるという。弟や妹がいて、それをほしいと言われたら、賛成しますか。

牧野　治昭

そんな机はいらないと思う。だいいち時計などがついていても、家の時計を見ればすむし、鉛筆けずりがあっても、小さい子ではそれで遊んでしまうこともある。机は勉強するためにあるものだから、よけいなものはいらない。

森田　順子

ああいう机はいい。スタンドや時計がついていない机だったら、やっぱりそういう物を買って机の上に置くようになる。そうすると机の上がせまくなるから、全部そろっている机がいい。

沢田　智子

私の弟はことし入学する。この机はいいですよ、と書いた手紙がたくさんくるけど、母は買う気はないらしい。私は自分でほしいと思うけど、あれはこわれやすいんじゃないのかと思う。

馬越久美子

私は絶対に買わせない。そんなぜいたくな机では、机ばかりに見とれてしまって勉強がみにはいらない。それにわたしがもっていないものを、妹などがもつとしたらにくらしい。でも私にも買ってくれるというのなら、はなしはべつだ。

佐野　恵

机というものは本来勉強するための机であって、余分なかざりは必要ありません。机はさっぱりと広く使える物が一番よいと、私の経験から考えています。もし必要を感じたら自分で工夫してかざることです。

根岸　勇

うちの母は「時計なんかついているより、壁の時計を見た方が首の運動にもなる」と言う。ぼくもまったく同感だ。小学生なんかでは、そんなデラックス机だってすぐにあきてしまう。

鈴木　智明

冬には、勉強は机のところでやると寒いので、そんな時はみんなコタツにきてやるのだろう。机はあまり使わないと思う。

小林美智子

スタンド、本立て、鉛筆削りなどがついていて便利だと思う。それに年ごとに身長にあう机にで変えられるし、勉強も楽しくなる。だけど、机、本立て、それぞれ別に買った方が安いかな。

高崎　明子

何しろ、こういう机で勉強している人は幸せだなあ。

デラックス机なんてむだです。買ってもらってめずらしい時はちゃんとやっても、しばらくたてば、たたみの上に寝ころんでやる、なんてことになるのじゃないかな。

伊藤令依子

いい机があって頭がよくなるわけでないし、机なんてどんなだっていいんだ。もしそんな机を買うのなら、弟に私のお古をあげて、私が買ってもらう。

中沢　恭子

ほんとは私もそういうのがほしい。私が使っているのは木の机。私は友だちのを見て、ほしいなと思った。私がおつとめしたら、弟にはぜひ買ってやりたいと思う。

「試験勉強中に耳ざわりなお客さん」（一九六八・九）

●学校の定期試験が近づいて、A君は今夜も猛勉強です。そこへおとうさんのお客さん。勉強部屋と障子一枚の隣の座敷から、お客さんの声はつつぬけです。なかなか帰ってくれそうもありません。さあ、どうしますか。

中学　女子

わざと勉強がわからないふりをして客の所にいって親に聞く。「あしたしけんなんだから早く教えて」とか言う。それがいえなければ、その日はすぐ寝てしまって、朝早く起きてやる。

中学　女子

客が帰ってから、親にもんくを言ったってはじまらない。父や母だって、つきあいがあってお客にいえないだろう。おとなの話がおもしろそうな時、聞いていて一緒に笑ったりする。そうすれば気軽になる。

中学　男子

勉強をやめてしまう。あとで試験の点が悪くても、もんくをいわれたら、あの時がいけないのだ、といいわけができるからかえってつごうがよい。

中学　女子

教科書を大きな声を出して読んでやる。

中学　女子

お客さんの間は、外へ出て運動などやってくる。時々外に出てあばれたり、運動したりするのもきぶんてんかんによい。

中学　女子

せっかく来た人に、不愉快な思いをさせたくない。その時は国語だったら漢字を習うとか、数学だったら計算問題をやるとかして、どうにかがまんする。
それが、勉強部屋のない子の運命さ！

中学　女子

お客さんのいる部屋にいっていっしょにお菓子など食べたりする。そうすれば父か母がしかるにきまっている。そうしたら「うるさくって勉強できないんだ」という。そうすればお客さんは帰るか声を小さくする。そして、「このお菓子食べなよ」と言ってくれる。そしたらうれしいな。

中学　女子

そばで弟に、大きな声を出させる。そこで私が、「うるさいわよ、おねえさん試験勉強しているんだから静かにしてね！」とこんな調子にやる。そうするとお客も、「あっ！試験勉強やっていたのか」と思って、小さい声になるだろう。

中学　男子

ぼくには一人のへやがあるけど、客間のとなりだからうるさい。うるさくてもそれくらいはがまんしなければいけないと思う。もう中学生なのだから、それくらいのことに気をちらさな

いでやるようにつとめている。

中学　女子

お客さんがきている時は、ラジオの声を大きくして、話が聞こえないようにして勉強するといいのです。

＝おとなの意見＝

「鍵のかかる勉強部屋」

（一九七三・四）

●四月には中学生になる息子がいる。その息子から、或る日大きな注文をされた。「おとうさん、ぼくだけの勉強部屋をつくってよ。戸にはカギをつけて、ほかの人が入れないようなのだよ。そうすればぼくは、もうれつに勉強しちゃうから」
さて、あなただったらなんと答えますか。

加美二　持田　伝治

「もうおまえも中学生だから自分の部屋がほしいのも無理ないと思う。でも鍵をかけると、お友だちの時、お母さんがお茶など持っていくのに不便だし、お父さんだっておまえの友だち

を知りたいこともある。鍵をかける必要はないんじゃないかな。」と感情的にならずに話しあい納得させるようにします。そして親の目のとどく所に開放的な勉強部屋を造ります。

熊牛　井上

「中学の二年間の様子を見てからそれによって造ってやるよ。だけどカギのつく部屋はだめだぞ。お父さんやお母さんが、お前の勉強している所を見られないからな。」

福栄　吉田

一、お父さんとしては何んとしても希望をかなえてあげたい。
二、それには経済的な事がある。
三、部屋にカギをかける様な事は絶対反対である。親子が生活する中で、なぜ部屋にカギが使われなければならないのか。良く話合いをして対話の中にカギをかける様にすることです。

牛浜二　豊山　次郎

「カギのかからない部屋でも、お父さんが勉強部屋に入る時はノックをして入るのだから、安心して勉学に励みなさい。」と子どもと話しあいます。このごろの新聞などによると、独立勉強部屋での悪事が多いようです。我家では、夕食時に家族一同できょうの学校でのできごと、だれかの買物のこと、などをみんなで話しあっているので、このようなことでもすぐに話しあって決められると思います。

A

〃かぎのかかる勉強部屋〃ということがおかしい。こんな答を聞かせろということがおかしいのだ。勉強は自分自身のことだ。どんな所でも、やる気があればやれる。

熊牛　浜田　徹

親子だから、希望や意見は率直に云え。しかし、自分の勉強と引きかえに物をねだる態度は本末転倒しとるね。第一、勉強は誰が、誰のためにやるのかね、考えてみたまえ。〃君自身のことではないか〃次に「ぼくだけの」とか「ほかの人が入れない」などという考えは、自分だけのからにとじこもろうとする宿がりみたいな根性だ。「その日」がきたら勉強部屋をつくってやろう。それまで、大勢の人の中で勉強してこい。特に、自分より秀れた人の中でだ。

牛二　B

ぜいたくを言うものではありません。土地があればプレハブの勉強部屋でもつくってあげられるけど、それも出来ないし、二階をつけたすには、お金がたくさんかかるし、今のままでがまんしなさい。

本町六　C

なにを甘っちょろいこと言ってるんだ。ぼくだけの部屋なんて、自分を何さまだと思ってんだ。昔はな、ミカン箱の机にリンゴ箱の本箱で、子守りしながら勉強したんだぞ。それなのにおめえたちはなんだ。中学へいかせてもらうだけでもありがてえじゃねえか。おめえだけ勉強部屋つくって入ってえて、ほかのもんはお勝手だけで暮らすのか。このバカたれ。

志茂二　小林マチ子

この家は貸家だからだめだなあー。狭い部屋だけど机が置いてあるのだから、おまえが大きくなるまで、これでがまんしておいて。

志茂一　D

いつまでも子どもだと安心していられない、子どもの成長や変化を暖かい目で見守ることも親の役目だ。勉強部屋としてつくれないまでも、カーテンで仕切って部屋風にして自分なりに整とんするのも楽しいだろう。子どもの非行化防止からもカギはつけない方がいいと思う。しかし誰も入れない部屋で、一人考える力を養い、想像力を造り出すのも必要なのかもしれない。

本八　伊佐　金治

子供の成長につれいずれはと思いますが、この物価高では。

A

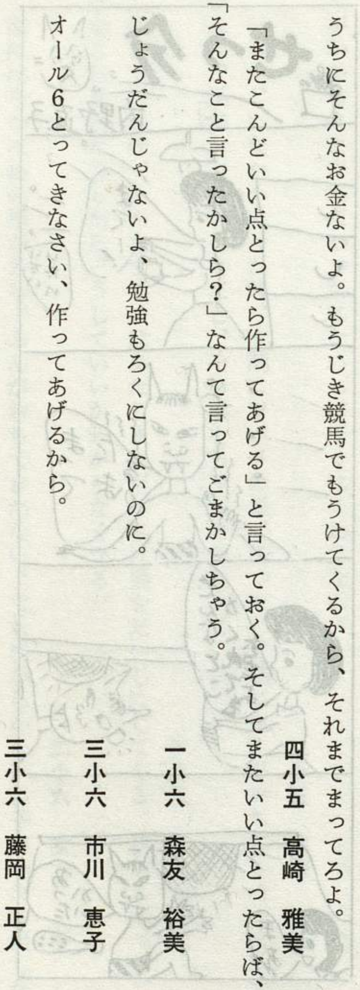
「カギのかかる勉強部屋」（一九七三・四）

●このことで、あなたが〝おとうさん〟だったら何と言いますか。

三小六　清水　雅子

バカ！おまえ、うちがびんぼうだからって、いやみを言うことないだろう。

一小六　伊藤　正美



うちにそんなお金ないよ。もうじき競馬でもうけてくるから、それまでまってろよ。

四小五　高崎　雅美

「またこんどいい点とったら作ってあげる」と言っておく。そしてまたいい点とったらば、「そんなこと言ったかしら？」なんて言ってごまかしちゃう。

一小六　森友　裕美

じょうだんじゃないよ、勉強もろくにしないのに。

三小六　市川　恵子

オール6とってきなさい、作ってあげるから。

三小六　藤岡　正人

いまはなにもかも高くなったからなあ。おまえがアルバイトでかせげるようになったら、お父さんが三分の二ぐらい出してやるから、それでつくれ。

四小五　町田　和子

ありそうでないのがお金なんだよ。

三小五　村野　学男

なに言ってんだ。そんなものつくるより、自動車を買った方がましだぞ。

「つばめの巣」

（一九七二・八）

●きみの勉強部屋の軒先に、つばめが巣をつくった。ふんをされたりするといやな感じだ。きみはその巣をこわそうと思いますか？

五小五　佐藤　貴

母が言ってたけど「つばめが家に巣をつくるのは、えんぎがいいことなんだ」って。人にふんがかかることとなんてめったにないし、ぼくはこわさない。

二小五　栗原　桂

いつか、いなかへいった時、玄関にツバメの巣があった。玄関にふんがおちてくる。でも家の人は、巣がおっこちそうだと、その巣をちゃんとなおしていた。

二小五　三浦かつ江

生きていれば、ふんをするのはあたりまえだ。私は巣をだいじにしてやる。私たちだって、家をこわされたりしたらどうしていいかわからなくなる。

二小六　女　子

家には今つばめの巣がある。ふんがおちてきたない。でも巣からかわいい子がかおを出した

のを見てから、巣をこわすなんて考えたことがない。

二小四　女　子

私はげんかんだといやだ。うらの方ならいい。うらなら人がこないし家の人ならがまんしてもらう。巣はこわしたくない。

五小六　男　子

ぼくは愛鳥クラブなので、つばめをかわいがりながら、よくかんさつをする。

五小六　男　子

ぼくはこわすと思う。だってお客にわるいし、それにきたない。だからこわすか、あまりめだたない所へ移動させる。

二小六　男　子

つばめが小さいうちはこわさないでおいてやる。大きくなったら巣をぶちこわす。

二小六　男　子

巣はつぶしたほうがいい。勉強部屋の近くなんかにつくられると、くさくなったりして勉強もやる気がなくなると思う。

テレビ

いい番組・悪い番組

（一九七二・五）

●妹や弟に、とても見せたいテレビ番組。見せたくない番組、それらについて聞かせてください。

いい番組

「ありがとう」というのを見たら、こういう時に〃ありがとう〃と言えばいい、というのをやっていて、わたしもそれを、まねするようになった。

小五　斎藤　静枝

「れんそうゲーム」見ていると頭がよくなるし、おもしろい答も出てきて楽しい。

小五　吉田　峰子

「理科教室」学校では、じっけんのできないものでも、やって見せてくれる。

小五　男　子

天下ごめん。江戸時代の生活や、そのころのお話がよくわかるし、とってもおもしろい。

小五　佐藤　貴

小五　比留間サツキ

わたしはよく見ているけど、「ケーキ屋のケンちゃん」がいいと思う。人のことをよく考えたり、人に親切にしてあげるのがとてもいい。

小五　川原　幸江

「かしの木モック」悪いことをすると人間になれない。小さい子にも、いいこと、悪いことのくべつがよくわかるのでいい。

小六　森田由紀子

「野性のきょうい」野性のあたりに住む人や、動物の生き方がよくわかる。それに世界にはどんな動物がいるか、というようなこともわかる。

小五　菅沼　啓子

「わんぱくフリッパー」がいいと思う。海でおぼれそうな人を助けたり、いろいろなげいもできる。天才イルカだからみんなに見てもらいたい。

小五　岡野のぶ子

わるい番組

「こがらしもんじろう」というのは、ようじを長くしたようなものをふいたりする。これをまねして目にあたったりしたらたいへんです。

小六　岡田　美香

「仮面ライダー」のへんしんなんていうのに、みんながワイワイさわいでいる。なんであんなのが人気があるのかな？

小五　女　　子

「天才バカボン」というマンガはくだらなすぎる。さいごの歌に、見ないとしけいだ、というのがある。なんでそんなことを言うの。

小五　久保　光之

ときどき、おばけの出てくるのをやる。それを見ると、なんだか、よなかにおしっこにいけなくなるからいやだな。

小五　女　　子

キスをするとか、女の人がはだかになって男の人に見せるというのがある。あんなエッチなのはお父さんやお母さんに見せたくない。

小六　女　　子

私は「ハレンチ学園」はとても悪い番組だと思う。だけど学校などで、みんなが見てきて話をするのでつい見てしまう。

小五　男　子

仮面ライダーのへんしんベルトやライダーセットなど、デパートで売り出すのはよくない。

私の好きな番組

◎一番多かったのは

●日曜日から土曜日まで、毎日きめて見ている番組を、突然、五分間のうちに書いてもらった。

小四　A　男

（日）いなかっぺ大将、サザエサン、ミラーマン、シルバー仮面、遠山の金さん（月）水戸黄門、マンガの国、ウルトラマン、プレイガール、マッハゴー（火）ウルトラマン、マンガの国、マッハゴー（水）オバケのQ太郎、気になる嫁さん、ウルトラマン、マンガの国、マッハゴー（木）ゲゲゲの鬼太郎、ケーキ屋ケンちゃん、マンガの国、ウルトラマン、マッハゴー（金）ウルトラマンエース、ハッチャキマチャアキ、ウルトラマン、マンガの国（土）ニューヨークパパ、仮面ライダー、八時だヨ全員集合

◎一番忙しい日は

小三　B　男

（木）ゲゲゲの鬼太郎、柔道一直線、奥様は十八才、ケーキ屋のケンちゃん、ありがとう。

四時半から「柔道一直線」が始まり、九時に「ありがとう」が終わるまで、B男はテレビの前にすわりっきりなのだろう。

小学三、四年生が主体のこのクラスの子では、NHK番組のものは一つも見えない。プレイガール、キイハンター、ラブラブショーなど、おとな向けのものを、毎日見ている子もあるようだ。

「ちょっぴり不満です」（一九六九・九）

中一　女　子

おかあさんは、私の友だちがうちへ遊びに来ているときでも、私のちょっとした失敗をすごくおこる。そんなとき、とてもはずかしい。

中二　女　子

おこづかいについて、友だちに聞いてみると、ほとんどの人が毎月きめられた日にもらっている。私の場合、こづかい日になってもくれないとさいそくをする。でもなんだかんだと理由をつけてくれない月がある。どうしてくれないのかというと、私が最近、ほとんどお金を使っていないからだ。なぜ使わないのかというと、ある目的があって貯金しているのだ。このことは、父母には話してあるのだ。今月はどうなるかわからないが、絶対もらいたい。

中二　女　子

私の家の食事は、ほとんど家族がばらばらで食べます。いつもいっしょになれないのは父であり、日曜日でさえ、いっしょに食べることが少ないのです。一日一回ぐらい、家族全員で、おしゃべりをしながらごはんを食べたいと思います。

中一　女　子

わたしの家では、父はきれい好きすぎます。わたしが机の上をきたなくしていると、すぐかたづけたり机の中にしまったりする。こういう時、注意をしてくれるだけにしてください。

中一　女　子

私はきょうだい二人で、四年生の妹が一人います。妹ではケンカをするぐらいで、何かの時の相談相手にはなりません。その点、姉がいたり、兄がいたりする家の人を、うらやましく思います。

中二　女　子

「自分のものぐらい責任をもってかたづけなさい」
「これからやるところよ」
こんな会話が毎日のことになってきた。耳にタコができるようだ。前はそんなではなかったのに、母はこのごろ私に注意バッカリ。

「便所のそうじ」

（一九七〇・九）

●わたしは毎週、日曜日と木曜日にお便所そうじをします。どうしてするようになったかというと、母が病気だからです。ごはんたきは父がしてくれるが、そのほかのいろいろな用事は、わたしがしなくてはなりません。……以下略

（母と子—蒼生社刊より）

このような時、君だったらお便所そうじをしますか。

ぼくはときどき家のそうじをやっている。ふとんも全部ぼくがしいている。だから便所そうじも、おかあさんができない時なら、やってあげてもいい。

小六　新井　一彦

トイレそうじなんて、私はやりたくない。でも、おかあさんが病気になったりしたら、気が変わるかもしれないな。ふだんでも「やりなさい」ときつく言われればやるかもしれないが、自分からすすんではぜったいにやりたくない。

小五　竹中　広美

私の母はよそへはたらきにいっているので、家のそうじは私がやっている。トイレのそうじも、私はしかたなしだけど、やっている。

小六　沖津　幸江

まえに母にやれと言われたことがあるけど、ようじがあるからと逃げた。トイレそうじなんてカッコ悪い。子どもは勉強のことを考えているべきだ。

小六　女　子

だれだってトイレはやりたくない。それを母はがまんしてやっている。だから母に「トイレのそうじやろうか」と言った時、「それよりも部屋のそうじをしてよ」と言い、やっぱり母がトイレをやっている。

小五　女　子

私の家は水洗なのでやってもよい。やれと言われればそのつもりだけど、母に言われないからやっていない。

中二　女　子

便所そうじなど、ぜったい親がやればいいのだ。まして男の子にやらせるなんて、とても考えられない。そりゃあやればいいと思うけど、くさくてたまらないよ。それでやる気がしなくなる。便所そうじは女がやるものだ。

小六　男　子

女子だけがやるもの？

●さあ、小六男子君のこの意見……どう思う。

女ばかりにやらせるなんてナンセンス。いまは女性上位時代よ。男の子にも練習させておいた方がいい。

小六　女　子

だいたい家のそうじなんて女がやるものなのに、便所そうじまで男にやらせることはない。そんな中途はんぱなことはきたない。学校のそうじの時は、男は便所そうじをよろこぶけど。女はいつもかんたんな仕ごとが多いので、そのくらい喜こんでやらなけりゃあ、お嫁さんになれないぞ。

小六　男　子

昔からそういうことは女がやるものときまっているのに、いまさら変えることはない。

中二　男　子

お手洗いは女子だけが使うものじゃない、男子だって学校のそうじでやっているはずだ。学

中二　女　子

校でやれて、家でやれないなんておかしい。

「車」

（一九七一・二）

●おとうさんが言った。「車をもっていても事故などで心配が多いから、もう車を売ってしまおう」そこでみんなは？

ぼくは反対だ。ぼくの家はおとうさんが運転しているが、うちのおとうさんは絶対に事故なんてしないよ。ぼくもうちの人も、みんなおとうさんを信用しているもの。

森田　哲哉

ぼくは冬休みにしんせきへ自動車でいったら、一月一日そうそうに、事故をしちゃった。広島県の竹原市で、おとうさんがセンターラインを越してむこうの車とすこしぶっかってしまった。だから、うちでは車はよしたほうがいいと思うよ。

小三　男　子

おとうさんがやめようと言っても、私はやめるのはいやだ。だって車がなくなれば、これか

勝目　直美

らいいところへいけなくなる。

小四　男　子

ぼくは自動車がほしい。うちではおとうさんが車に反対と言ってるけど、ぼくは早くおとなになって、自分でうんてんしたい。

北島　一幸

前に、おとうさんが交通事故をおこしたことがあるので、もう運転してほしくない。このあと交通事故なんかおこして、家のだれかが重いけががなどしたら困る。もうぜったいに運転してほしくない。

出水川　弘

交通事故は、車ばっかりが悪いんじゃないさ、人だって悪いんだ。とびだしをしたりするからだ。でも車の人で、酔っぱらい運転をする人が困るんだ。うちではそんなことをしないから、あった方がいいよ。

田村　智宏

冬休みに右向いて左という、交通事故のテレビを見た。本当に車なんかいらない、と思った。もしも、家で事故にあったらどうする。だから車なんかなくていい。

木村　昭夫

ぼくの家には車なんかない。お父さんは車にのれるのに、おじいさんがだめだという。でもぼくも車なんかいらない、都会のスモッグ、交通事故、あれも車の責任じゃないのかな。もしお父さんが車を買うといったら、ぼくはだんこ反対する。

＝むかしばなし＝

狐の嫁入り

昔の人から話を聞くと、本当にそんなことがあったのかなあと、ふしぎに思うことがある。狐にばかされた、なんていう話はたくさん聞く。狐の嫁入りというのもそんな話だが、実際にそれを見たという人は、少なくなっている。

町田　一三

俺が子どもの時に、川崎（羽村町）の薬師様に芝居があってそれを見にいった帰りに、たしかに折立の方向に見えたな。ちらちらとついたり消えたりしてな。昔の人は、狐の嫁入りは狐が芸をしている、と言っていた。

もう二十年前ぐらいになるが羽村のせきの向う岸の丸山という所で薪作りをしてたが、その

ガケの所で狐を見ましたよ。もう今じゃあいねえだろうね。

橋本　孝蔵

子どもの時、家の人たちと羽村のお祭りに行って帰りに見ました。大正十年ごろです。折立の方向にちらちらとしていたのを今でも覚えていますよ。

坂本浩太郎

大正の末ごろです。私が一年生にあがるころ、家へカゴをつくる職人さんがきていた。その人が夕食をして家へ帰ろうとして表へ出た。そしたら折立の方向に、狐の嫁入りが見えるといった。家の人がみんな外へ出ていった。私はこわくて表へいけないで家でふるえていたのを覚えていますよ。

しつけ

おおきいでショ。（つくし保育園にて）

「食事の前に〝いただきます〟」　（一九七一・七）

●ごはんを食べる前に、「いただきます」をいつも言いますか。そういうことで、あなたのお家はうるさい方ですか。

小五　女　子

わたしはいつも言う。だって言わないとなんだかへんなかんじがする。父や母はいつもそのとき「ハイどうぞ」と言ってくれるので、その日が楽しくなる。

樋口けさみ

うちでは、かぞくみんなが言ってから食べます。わたしはもう小さい時からなので、くせになっていて、ごはんの時はかならずいいます。

山崎　知巳

ぼくはいつも言う。でも、なぜ言うのかは、うちで食べるのはいつもただのごはんを食べますよ、というあいずみたいなものだ。

田中　英巳

ぼくは、かぞくのみんなに、いただきますという気もちで言う。言わないとちゅういされる。

松野　幸子

うちでは父や母はやかましくないが、言わないで食べるとへんなかんじがする。食べる時、かしこまってないとしかられるのは、なんだかふゆかいだ。

小五　女　子

いつも言う。だれにともなく言う。言わないで食べちゃってから「いただいてます」と言うこともある。

小五　女　子

わたしもみんなに「いただきます」と言う。だれもへんじをしてくれないとなんかいも言ってやる。そうすると父や母にちゅういされる。あとでくやしくなる。

小五　女　子

わたしは妹と声をそろえて「いただきます」のあいさつをしている。ごはんの時、父や母はうるさいことは言わないから、いつもおいしく食べられる。

小六　男　子

べつにそんなこと言わない。言ってもなんにもならないよ。うちはごはんの時はテレビ見な

がらだってなんにも言わない。

学校の給食の時は言ってるけど、どういういみで言ってるのかわからないな。　小六　男子

うちではごはんを食べる時間がみんながちがうんだ。だからだれに言っていいかわからないからなにも言わない。　小五　女子

うちでは「いただきます」も「ごちそうさま」も言わない。だいいちめんどくさいし、父や母からは〝言え〟とは言われてない。

でもわたしは私のこどもには言わせる。へへへ　小五　男子

ぼくも「いただきます」と言うこともあるけど、兄さんなんかにひやかされてしまう。だからはずかしくていいにくい。　小五　男子

ぼくはおかあさんの方をむいて「いただきます」と言うのに、おあがりともどうぞとも言わないから、あたまにきてしまう。

幸繁　武司

ぼくは言うときもあるし言わない時もある。言うときはなんとなく言って、言わない時は、おかずがうまそうもない時。

＝おとなの意見＝

「朝のマンガに」　(一九七〇・四)

●過日の新聞に次のような投書がのっていた。

「朝起きるなり子供はテレビ。食事よりもマンガに熱中、注意すると、友人も見ているからと、登校時間ギリギリに走って出かけていく。マンガが悪いというのではないが朝のテレビについて、関係局の方々なんとかならないか」

さて、この文について、あなたのお考えを聞かせてください。

母(四十二才)

幼児の母親としては、子どもをテレビの前におとなしくさせてくれるマンガに感謝して、その間に家事を片づけているかもしれません。それにマンガの内容も悪いものではありません。

内容が悪いので局に抗議するならわかりますが、この場合は家庭のしつけの問題だと思います。朝の時間に限らず、テレビの視聴についての規制は、親が重大決意をもって取組まなければならない問題だと思います。テレビ局は視聴率第一主義で必死になっています。それに対して、親がいいかげんでは、一億総白痴化といわれたテレビの魔力からのがれることはできないでしょう。時間を決めて見ることにし、消す時間が来たら、子どもがどんなに泣きわめいても、消してしまうことだと思います。

父（三十八才）

現在のようにテレビが生活の中に溶けこんでしまうと、そこにテレビがある限り、誰でもなんの抵抗もなく、かつ自然に受入れてしまっている。

〝朝は見せない〟とか〝しつけをして〟と言っても、恐らく子どもに対しては無理なことだと思う。

母（三十五才）

家の子どもも起きるなりテレビにスイッチを入れる。顔を洗いに行くとテレビが見えないので、自然に着がえが先になる。マンガを見ながらの着がえは三十分もかかる。そこで毎朝ながらの私の一喝に、仕方なく洗顔してくる。さて食事という時には時間がない。ごはんを丸のみ

にして跳び出していく。こどもにとって、テレビマンガの魅力に勝つものはないらしい。

母（三十二才）

弟、妹がいたりすると、ついスイッチをひねる。なかなか家庭でやめさせるのはむずかしい。見せないでフクレる顔を見るより、つい見せてしまう。テレビをなくしてもらわないかぎり仕方がないことです。

母（三十四才）

うちでは時間いっぱいに起きるので、テレビなど見ているひまがない。そのかわり、ラジオをかけている。さわやかな音楽と五分間隔ぐらいに時間を知らせてくれるので、子どもにとっても便利のようだ。もしテレビを見たがっても、私は断固として禁止する。テレビは見だしたらきりのないもの。最初から見なければ、見たい欲望も何もない。

母（四十才）

時間がきても起きないで、やっと起きてきたと思うとごはんを食べながらテレビマンガ。忘れものなどないかと云われても空へんじ。やっと登校したと思ったら忘れ物でひき返してくることもあります。こんな時、テレビ局へ投書でもしようかと思うこともあります。

母（三十七才）

「朝からテレビを見ていると、学校で勉強ができないよ」
子どもは「…………」
「さあご飯だよ、テレビをとめな」と云うと、声を小さくして見ている。そのうち父親が起きてきて、「朝からなんだ、うるさい」父親のいうことはすぐきく。

母（四十才）

一日中、子どもなりの神経を使うのですから、朝っぱらとはいえ、広がる夢を追い楽しむマンガが悪いと思いません。遊ぶとき、勉強、食事と、テレビとのけじめをしっかりつけなさいと、言っております。

母（三十五才）

「それでは仕度ができるまでテレビを消しますよ」というと「すぐやるからつけといて」とたのむ。だがあいかわらずだらだら。つい大きな声も出してしまう。どうしても、五、六年生になりマンガを卒業するまでは、しかたがないとあきらめている。

母（四十才）

朝はぜったいに見せないでおります。このごろでは保育園の子もあきらめております。朝は、頭の中がすっきりしている状態で登校させるのが、すべての点で良いと感じております。

父（三十九才）

うちでは、テレビの隣りにラジオ（FM）を置き毎朝七時半ごろから聞く習慣にしました。テレビを見ながらでは、テーブルのよごれ、食事の姿勢などきりがなく悪い。その上、親の言うことに耳も借さなくなり、親と子の立場が逆になることもある。非は非とし、善は善の区切りをし、少しでも話しあって理解しあっていきたいと思う。

「夏休みとお手伝い」　（一九七二・九）

●長かった夏休み。あなたはその間に、お家のことなどで、お手伝いを何かやりましたか。

音小四年　伊藤　勝啓

ぼくは朝ごはんの時、お手伝いをする。ときにはいやだなあと思うけど、足と手がかってに働き出してしまう。ぼくはそれをふしぎに思って、「なぜだろう」と考える。きっとそのお手伝いがすきになっているのだ。ときどき「おこづかいちょうだい」と言う。「お金をもらったらためておこう」と思うけど、ほしいものがあるとつかってしまう。だからぼくは自分のやっていることにときどき不まんになってしまう。朝お手伝いをしているのを、ほんとうにおかあ

さんはよろこんでいるのかなと思う。こんどおかあさんにそれを聞いてみよう。でもあまりよろこんでくれないのなら、お手伝いをいやになってしまうだろう。

おとうさんがいつか「食うばかりがのうじゃない、食べおわったらすぐ、しょっきをあらいなさい」といった。おとうさんはその日だけしかあらわなかったが、わたしはそれからおとうさんのもあらってやった。おとうさんはいつも「ありがとう」という。だからつぎの日もあらってしまう。そして、おてつだいはいいなあ、と思った。

三小三年　徳永しのぶ

わたしは妹のこもりをしました。妹はきかんぼうです。わたしはまい日一回はおこります。妹はかわいいかおをしているのになんでいたずらなのかわかりません。そんな妹でもとてもかわいいと思います。

三小三年　野中佐江子

わたしは弟をつれておつかいにいきました。弟はおみせにはいるとなにか買ってといいます。わたしはおかあさんにきいてこなかったのでなにも買ってあげられません。こんどはおかあさんにきいておこうと思いました。

三小三年　越沼由佳

ぼくは毎朝、うえ木に水をやった。おとうさんはうえ木がすきなのに朝ねぼうだから、うえ木に水をやれない。だからぼくにたのみます。ぼくがわすれたらおとうさんがだまってやることになっている。このあいだ自転車を買ってもらった。だけど自転車をしゅうりするものがほしくなった。うえ木のおてつだいちんをほしいが、まだそのことはいえない。でもぼくはうえ木に水をやるのはすきだからやっている。

四小四年　細谷祐一

わたしはおちゃわんあらいのてつだいをしています。こないだ一つちゃわんをわってしまいました。でもわたしはちゃわんをあらうのはすきです。おつかいはあまりすきじゃありません。夕がた、わたしがテレビを見ているときと、おつかいにいってというからです。

三小三年　田子美幸

（多摩子ども詩集より）　（一九七〇・六）

「いたずらぼうず」

わたしの大すきな、いたずらぼうず、

それは弟だ。
薬をタンスの引き出しへいれて
こまらせたり、
おもちゃの刀で
ふすまをやぶいたり、
わたしのえんぴつをとって、
かべへいたずら書きをしたり。
とても手におえやしない。
でも、笑ってかくれながらやるのが、
とてもかわいい。
おこって手をふりまわすと、
「かんべん、かんべん」
と言ってにげる。
本気でおこるとすぐなく。

●この詩の中の〝幼児としつけ〟について、あなたの意見を聞かせてください。

中一　男　子

しんせきに、四才の女の子がいる。ぼくの家に遊びにきて、出した食べものをつかんで捨てる。ぼくの母がしかると「このやろう」とか「ちくしょう」などという。だから、このまえぼくが〝愛のむち〟をくれてやった。スカーッとした。ぼくは、これからもこのようにするつもりだ。

中一　女　子

こんなことであまりおこらないで、明るくのびのびした子の方がいいと思う。小さい時からあまりきびしいと、暗い子になってしまう。明るい子の方が、だれとも仲良しになれる。いたずらには、その時に良い悪いの判断をつけさせるようにしていけばいいと思う。

中一　女　子

わたしだったら、ビシビシひっぱたいてしつける。うちでは全部そんなにやられてきた。悪いことをして、両手両足をしばられて押入れに入れられたこともあった。雨の日に、はだかで外へおい出されたりした。でもこれからはコンピューターでしつける方法もある。

中三　女　子

悪いことをするおとなは、小さい時、他の人がやってることができなかったので、大きくな

ってやりだすということもある。

きびしすぎても自由がなくなる。自由がないと悪いことをする。自由といっても他の人の迷惑を考えられればいい。その人の迷惑がわからない子が多くなっているようだ。きびしさの中で、自由もある。そんなしつけがいいと思う。

中二　女　子

家の妹と弟のばあい、としがはなれていないせいかすぐケンカになる。上の方は暴力で、下の方は「教科書をやぶく」が口ぐせだ。そんな時、父母はだいたい上ばかりしかる。

「年下をいじめちゃだめ」

「年上の人にさからうな」

そうきめつけて、その場にはあやふやなはんだんをしている。親とか先生ってものは、ただしかるだけでなく、子どもの性質をしってなけりゃダメ。そんなこともわからずガミガミだから、私だってそうとう、ふてくされているよ。

小六　女　子

こんなとき、あまやかして口でいうだけではだめ。だからといってなんでもダメダメといってはおくびょうになる。

そこをおしえていくのが親のやくめでしょ。

ぼくだったら、なかまになって一緒にやってしまうだろう。

でも、大きいいたずらはしない。「いたずらってもんは、このていどにするんだ」とおしえてやるつもりだ。

中二　男　子

妹が小さいとき、かべにいたずらがきしたり、柱にシールをはったりした。私も小さい時、そんなことをして父母におこられたので、妹がやっているのを見るとおこった。このごろはもうやらない。やっぱり小さいうちにしつけをした方がいいんじゃない。

中二　女　子

二小六　福田　和江

いたずらぼうずの弟がいたら、
どんなことになるだろう。
家中が、毎日のように、
大さわぎするだろう。
そんなときでも、

弟はしたを出して笑う。
とってもかわいい、弟の顔がうかぶ。
どろだらけの手足に、きずだらけの顔。
私の部屋をしょっちゅうあらし
なんでもメチャメチャにしちゃうだろう。
そんな弟でもいい。
いたずらっぽく笑う
弟が、ほしい。

「女の子らしさ」

（一九七一・一〇）

●うちではごはん時、おとうさんとお兄さんは、あぐらをかいて食べる。わたしがそれをまねして食べていると、おかぁさんが「女の子らしくしなさい」という。なぜ、女の子らしくなんていうのかな。

小五　河村　年也

ぼくはやっぱり女の子のあぐらはいやだな。家の妹もよくあぐらをかくが、そのたびに母に

おこられる。その時妹は「なんでおこるの」ときくと、「女の子は、よその家へいってあぐらをかいたらおかしい」と言う。ふだんからそうしないといけないのだ。

小四　梅原　律子

女の子はちゃんとすわったほうがいいと思う。だって女の人があぐらをかくと、下着がみえてはずかしいもん。

小四　浅海　弓子

男子ならあぐらもいいけど、女子がそんなことばかりしていると、お嫁にもらう人がすくなくなると思うのでやめたほうがいい。

小四　安楽ますみ

わたしの家でもやっぱり、「女の子があぐらなんかかいてよその家にいった時どうするの」と母が言う。自分でもきをつけなけりゃあと思うけどついやってしまう。あぐらのほうがらくなんだね。

小五　大越　力也

女の子は上品なほうがいいのであぐらをかくのはよくないと思う。このあいだテレビで、女の子もはいって〝ざぜん〟をくんでいた。こういう時はいいと思う。

ぼくは、女の子であぐらをかくなんてエチケットをしらないんだなと思います。そういうこともしらない女の人はいやです。

小五　宮沢　義雄

小四　竹井　誠

男子は男らしく、女の子は女らしく、すわる時は正座すればいいと思う。うちでもおねえさんだっておかあさんだってすわる時はいつも正座だ。正座したほうがきれいに見えて いいので

す。

小五　井梅小百合

私は、女でもあぐらをかいてもいいと思うけどな。だって女の子だって男の子のように足がしびれるんだし、しびれるのはいやです。それを男の子だけしびれるなんていうのはふこうへいです。

小五　土屋　昌宏

女だってあぐらをかいてもいいと思う。ぼくの妹もときどきおとうさんのまねをしてあぐらをかくときもある。べつにそんなにわるいことではないと思う。

小四　石川　慶也

さいきんの女の子はすこしなまいきで、あぐらなんかかいているがそんな必要はない。あぐらをしたくてもがまんして、女らしくしなければいけないのだ。

小五　山木　好男

ぼくも女の子があぐらをかいてもかまわないと思うけど、もしおかあさんがごはんの時なんかあぐらをかいてたら、やっぱりいやだなあ。

＝おとなの意見＝

「女の子らしさ」

（一九七一・一一）

●この〝子どもの意見〟に対する〝おとなの意見〟です。

我家には二人の女の子がいます。三才と六才なので、まだ〝女性〟とは認めてもらえないでしょうが、やはり母親にしてみると、女の子らしくあってほしいと思います。

ゴロリとしていた父親が思わず〝プー〟をすれば「おとうさん!!」と私以上のきつい調子で父をしかります。そんな時〝女の子〟を強く感じますが、いまのところそれ以上には望みません。食事の時も足をくずすていどで、二人ともあぐらをかくことはないようです。

やはり私に似て〝この子たちは〟なんて、親バカを発揮中です。

志茂　小　川

二児の母親として私も我が子があぐらをかいたら注意します。食事の作法も、正しい姿勢の方が見た目も美しいし、食物をこぼすこともなくてよいでしょう。女らしさとは、正しい礼儀作法を身につけている女性のことではないのでしょうか。

牛浜　中　川

私の田舎では私が小さいころの冬には、一家の食事、休息、だんらん等すべて、いろりを中心に行われました。父親は大黒柱のそばの横座に、母は父の左側にすわって食事の盛りつけをし、客座には姉が座りたきぎをくべ、私達は父の反対側に正座しました。木を燃すのですから時には火がはねたりしました。しびれもしました。でも足をくずすと「なんです女の子のくせに」と強くしかられ、すぐ正座しないと火ばしでこづかれました。

このような昔の生活の中で、その家風やしつけを自然に身につけさせられてきました。

熊川　寺　田

毎晩、お風呂の中でオヤジから「名月赤城山」など聞かされているわが三才になる娘に、妻いわく「先が思いやられる」そうな……。そんな教育のせいだろうか、ボーイフレンドをいじめている時のわが子のそぶりになんとなく〝女の子らしさ〟を感じる時がある。

「強く明るくしとやかに」とはわが家の娘に抱く、親の願いである。

本町　鈴　木

小学校四年生くらいになったら、テレビの前でも、いすにかける時でも、ヒザッコゾをくっつける気持に心がけさせています。すべて身だしなみとおしえています。〝女らしさ〟とは、すなおな気持とさとしています。

本町　高橋

〝女の子らしさ〟というようなものは、本来その子が生まれながらにしてもっているものであろうと思います。女の子として、自分が人前ではずかしさを感じてくれれば、自然にこうしたお行儀的なものは、そなわってくるものと思います。

「それはいけないこと、やめなさい」と言われて、さっとそれをやめられる、〝すなおさ〟に一番女の子らしさを感じさせられます。お行儀正しく見えてもまわりの人に気分悪さを感じさせるようではいけないのでしょう。

「珠算学校の授業中〝ばつ〟として立たせることで」（一九六九・一二）

●授業中うるさい人は、山崎先生がすぐ「立ちなさい！」といいます。そのことで皆んなの意見は。

小五　男子

たたされた時は、はずかしい。でも自分がわるいんだ。こんどからちゃんとやろう。

小五　女子

そりゃあたたされた時、たたした先生がにくくなる。だけどあとで自分が悪いと思えば、しかった先生は、いい先生だなあと思う。

小五　女子

立っている人を見るとかわいそうに見える。なきそうな顔をして下を向いてそろばんをやっているすがたを見ると、いっしょに立ってやりたくなる。でも、それは自分がわるいのだから、立ってはんせいすればいいのだ。立つのがいやならしっかりやればいい。

小五　男子

ぼくはたたされたことがあるが、立たされる人はだいたいきまっている。そういう人は外に出してしまえばいい。ぼくもたたされた時は、あたまにきて先生をやっつけたい。

小五　女子

わたしは今までたたされたことはない。でもたたされたときのはずかしさは、みんなもわかると思う。それは自分がわるいのだけれども、みんなのなかにたたすことはないと思う。たとえばもう一時間やらせるとか、紙に「もうしません」などと書いてださせる。

小四　女子

うるさい人はたたせたほうがいい。あまりやさしくきょういくすると、あまえるからだ。

小五　女子

わたしたちがいっしょうけんめいのときにうるさい人がいる。そういうとき先生が「立ってなさい」という。でもたたされた子がわらっている。たたされてもはずかしくないのかなと思う。先生はたたすだけでなく、二回めぐらいからは、まえにださしてせいざをさせたほうがいいと思う。

小五　男子

はずかしくてカッコわるい。

先生にたたされるとあたまにきて、そろばんがもういやになってしまう。あの先生はすこしのことでたたせるからなまいきだと思っている。

（編者より）

これは、三十名ばかりの小学生だけのクラスでしらべてみた。たたせることに賛成は＝男6、女13＝反対は＝男7、女4＝だった。

「らくがき」

（一九七三・一〇）

山崎　茂男

この珠算学校の教室には、落書はほとんどない。ちっともないといっていいくらいだ。教室の壁には油絵なども飾ってあるが、それへのいたずらも無いのを、私はあたりまえと思っている。が、これだけ大勢の子どもが集まる所では珍しいことではないだろうか。子どもの質が良いせいもあるだろうが。

壁面や窓ガラスには、ときに小さな落書を発見することがある。私は、すぐにその犯人(?)を追跡する。そして同時に生徒には、そんな小さなイタズラも見逃していくと、次つぎ大きなイタズラになっていき、外国の旅行先にまで落書を残してくることになるからなどと、注意を伝える。

机の落書は、本当に無意識でやっていることがある。話を聞きながら机の上に鉛筆を動かしている。気付くとすぐにそれは消させる。果して、こんな細かいことを珠算学校で言ってみて、生徒たちに何かのプラスになるのだろうか、と考えることもある。でもこれをほうっておいていいことにはなるまい。

●こんな文章を生徒に聞かせた上で「どうだろう、こういう教室などでの落書を、どう思う」と意見を書かせてみた。

三小　寿崎かすみ

壁や机に落書がいくらあっても、べつにソロバンができなくなるわけではない。でも、真白な壁に落書がいっぱいあったりしたら、なんかきたない感じがする。林間学校へ行った時も、バンガローの壁にいっぱい落書があった。それがとてもいやだった。あとでそれを使う人はだれもいやになると思う。また、へいなどに落書があるとその家がなんだかだらしなく見える。落書はぜったい反対です。

三小　細田かをる

落書はいやです。いつか給食のおぼんに書いてあるのを見たとき、給食がまずかった。

一中　小窪　政三

見たところ、いけない、きたないと思っても、つい書いてしまうこともある。家でも自分の机には書かないで、妹の机などに書くことがある。

三小　手塚　孝夫

よその学校の階段の所に、三人ぐらいで三月二十五日と書いてあった。卒業記念の落書だと思う。おれも卒業の時に、やってみようと思ったりする。

＝おとなの意見＝

「話しあおうよ」　（一九七〇・二）

子どものしつけ

おとなが五人で話をしました。これをよく読んで、次にこの話について、子どもの考え方を聞かせてください。

出席者　Aさん（四十五才・勤人）
　小・中・高校生の三児の父
Bさん（四十四才・主婦）
　高・大生の四児の母
Cさん（四十三才・勤人）
　中・高校生の二児の父
Dさん（四十才・商業）
　中・高校生の二児の母

司会と記録　山崎茂男

掃除

司　この珠算学校の教室掃除をやってもらって気付くことですが。ホウキで掃いたあと、みんなで床を拭きますね。ところがホウキをもった子はその間、つっ立ってそれを見てることがあるんです。いっしょに拭くんだ、といわれて雑布を持つ。だまっていればそのままです。

C　家でやりつけないからですね。

司　皆さんの家ではやらせますか。

B　うちは農家づくりで広いから、日曜日にはみんなでやります。ガラスふきや庭はきなどなんでも電気掃除機でやろうとするんですね。やってみて座敷のすみやお勝手のような狭い所は、やっぱりホウキでなければだめだなんて、ホウキの良さ、掃除機の使いみちなどわかるようです。

司　その時、男の子も手伝いますか。

B　やりませんね。掃除の始まるころになると、いつの間にかいなくなってしまいます。もっと小さい時は少しは手伝ったんですがね。

A　私は小さいころ、両親のもとを離れて親戚の世話になったものですから、その家で掃除はもちろん、炊事も手伝いました。はじめは泣くほどいやだった。けれども仕方なしにやりまし

た。毎日やらされてるうちに、きのうは十分かかった、きょうは八分でそれでなおきれいにしようなんて苦心するわけです。そのうちに、こんなことでも一つの考え方をもってやれば自分のために生きてくる、と感じるようになりました。そしてその経験が、社会で働くようになってその仕ごとの中でも役立ちました。いまも私は家の中で、夕食のあと片付けの時など、子どもたちと一しょにやっています。妻が洗って、私がふいて、子どもにしまわせる。そんな時、今の話をしてやると、すなおに手伝っています。先ほどの教室掃除のことでも、雑布をもってということは知っているんですよ。ただその時その動作にうつれない。小さい時からしつけられて、体で覚えていなくてはだめなんだ。

家ではこのごろ、上の子どもは私がいないとき、母親がそれをやらせない傾向です。「掃除、あと片付け、いいわよそれより勉強しなさい」ということになりがちですね。

D　子どもはわざとだらだらしている。母親はじれったいといって自分でやってしまう。子どもはあとから、「わかってます、私はやるつもりだったよ」なんてすましています。

C　私は軍隊でやってきたことを習慣づけてきたのです。だから、結婚してからもしばらくは下着は自分で洗いました。子どもにも、下着ぐらいは自分で洗うようにしつけているのです。やっぱり男の子は、だんだんやらなくなりますね。

きびしかった父親

司　昔は、親のしつけがきびしかったですね。

C　私は子どもの時、風呂の水くみを毎日やらされました。井戸と風呂場がかなりはなれていたんです。バケツに十二杯はこぶと風呂が一杯になる。ポンプに背がとどかなくて醤油だるを台にしてくみました。遊びでやらなかったりすると、ずいぶんひどく叱られましたから、とにかくよくやりました。

A　私は朝起きると、家の庭とその前の道をはくんです。それをさぼって学校へいこうとすると父にげんこつでなぐられた。そして、学校へおくれると言ったってそれをやらなければ許されないんです。それで学校へ何回か遅刻しました。今は、交通事情なんかで、こんなわけにいかないかもしれないけど、こんなきびしさは必要ですね。

B　私も遊び過ぎで暗くなって帰って、晩飯を食わせられないことがよくありました。あとから母親がそっとにぎり飯をわたしてくれて、それを父にかくれて食べました。

子どもをなぐったこと

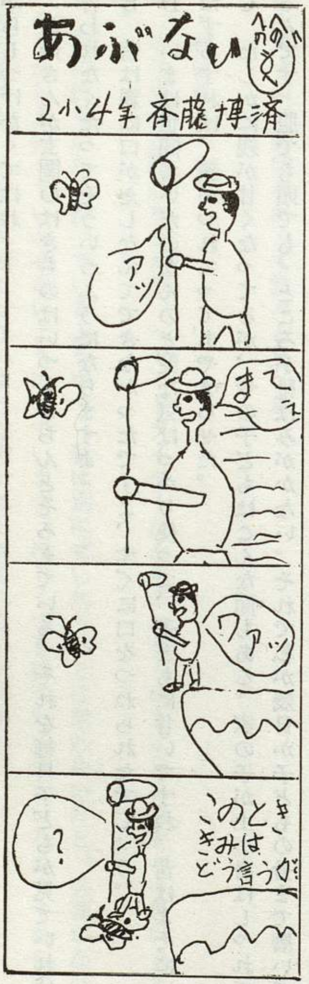
司　いま、皆さんは子どもさんにきびしいですか。

C　私はいままで二回ぐらい子どもに手をあげました。

最近では、一年ぐらい前ですが、中学生の兄妹が口げんかしてたんです。やめろといってもきかずにやってるんで二人のホッペタにやったんです。それきり兄妹げんかはやりません。

こういう時、こんちくしょうという気持でやったらだめですね。

A　掃除のことでも、ほかのしつけでも、よそではああやっている。それじゃあうちでも、というようなつけ焼刃では、中学生などには反抗されこそすれ、効果はありませんよ。小さい時



からしつけなくてはね。

お母さんが玄関のはきものはいつもきちんとそろえている。それを毎日子どもが見ていれば言われなくたってそういうふうになりますよ。

B　昔は親に口がえしなんてできなかったですよ。すぐに口をつねられたでしょう。昔はよそにいたずらすれば、親がつれてってあやまらせた。

D　いまは世間ていだのなんのと変な気ばっかり使って、子どもに甘いですね。

C　たしかに親が甘くなってるが、今の子どもはこんな面もある。家の子が上半身はしゃれてるんです。服でも頭でも。ところが靴はみがかない。それで私が幾日か子どもの分まで磨いておいたんです。それを、お父さんありがとう、といってはいていく。日曜日になってさすがに自分で磨きはじめた。ところがそれが自分のだけなんです。

目から耳から

司　大きくなった子どもには、異性とのこと、テレビ、週刊紙の影響など心配が多いでしょう。

A　高校生ともなると電話が多くなります。子ども専用をひくようだなというんですが。そして、異性との電話でも乱暴な口をきいてね。テレビなどの影響でしょう。でもそれについては、私は干渉しません。

D　夜もおそくまで起きているね。ラジオの深夜放送を夜中に聞いている。それが一度でいいから、ラジオから自分の名前を呼ばれてみたいんだって。この間、福生のだれとかさんがよばれたなんていってたね。

週刊紙やテレビもしょうがないでしょう。子どものマンガだってエッチなのが喜ばれているそうだ。永井豪とかいう人のマンガなんてひどいものですよ。子どもはいまそんなもの、平気なんですね。野球拳だって堂々と見てる。

ぜいたく

司　中学生が腕時計をしたり、ヘヤードライヤーなんかのおしゃれをすることをどう思いますか。

C　腕時計もかなり持っているようです。私は別にぜいたくだとは思わないけど、必要がないだろうからと持っていかせないようにしています。ほしくても持てない子もいるのですから。学校の方でも、一せいに持たせないような方針にしてくれないですかね。

（編者より　中学校では特別の時を除いては持たせない方向がうち出されているようです。）

A　ヘヤードライヤーだって身だしなみとして使ってもいいじゃないですか。むかし、テレビはぜいたくだった。でもいまはあたりまえでしょ。そういう子どもの社会を親が知らないで、ただ、昔はこうだったなんてガチガチ言っていると断絶になるんですね。さりとて言わなければ野放図になる。中学生ともなると自分のことを主張してきますよ。考え方がちがってもぶっかってもいい、何かいいあっているうちは心配ないと思うんです。

大学生ともなるとだまりこくってしまうときがくるといいます。それがこわいですね。

子どもからおとなの人たちへ

この〝おとなの意見〟に対して、中学生十数人の、おとなへの率直な意見です。

所　福生珠算学校にて

記録　山崎茂男

〝人のふり見てわがふりなおせ〟

○おとなはすぐに自分の自慢話をする。

○おとうさんは言いつけられたらさからわないですぐ言いつけを守ったのに、今の子どもは目上の人に対する態度じゃない、なんていう。でも、もとはといえば、大人が悪いと思います。子どもがそういうことで悪いことをするのも、家の人のまねやテレビのまねをしているのだと思います。〝人のふり見てわがふり直せ〟という諺があるそうですから。

○おとなは自分でまちがえたことした時だってちっともすなおじゃないもの。おとうさんやおかあさんだって、学校の先生だって、なんとかかとか言ってごまかすけど、そんな時はわたしたちにもそれがわかるんです。

○それにおとなはずるい。そりゃあ、おとなになれば力もあるし働いている。だから私たちだって、働きたいけどまだ働かしてくれない。そして勉強させられるから、私たちには勉強だって仕ごとです。

○ごはんを食べたあと、「早くかたづけなさい」と言いながら自分はテレビを見たり横になっていたりする。そしてかたづけてから少しテレビを見ていると、「早く勉強しなさい」とすぐ言う。

○うちのおやじは気まぐれで始末におえない。お酒をのんでいる時は何か買ってやろうなどと

調子がいい。だけど会社から帰ってきてすぐ「おふろに入れ」「テレビをけせ」なんてみんなにやつあたりする。そんなに自分勝手ばかりしていて、子どもにはなんでもハイハイとやれなんていったってやれるもんじゃない。

○うちではおとうさんやおかあさんはすぐよその子とくらべて「あの子は、毎日学校へいく前に自分の使ったごはんのちゃわんを洗ったり、掃除していくのよ」とか、「あの子はすごく頭がいいでしょ」とか言う。おかあさんだって、私たちが、「Aちゃんのおばさんすごく理解があるのよ」って言うと、「あそこは暇だから」とか、「金持ちだから」なんていやそうな顔をするの。

○夜はわたしたちに「早く寝なさい」といつもお母さんがいうけど、そのお母さんが朝おそい時、もんくをいうと、「そんなに早く起きられるはずないじゃない」なんていう。それならお母さんも早く寝ればいいのに。

そんな時は、とてもぶじょくされたみたいでいやな気持。

○わたしはいま覚えているかぎり、自分やうちの兄弟の人の誕生日を、祝ってもらったり贈り物をもらったりしたことがない。おかあさんは「うちの子どもが大勢だからいちいちやっていられないよ」っていう。うちでは子どもはたいせつじゃないんだな、ってみんなで言っている。

○通信簿が悪いとおこったりする親がいるが、それもおとなのわがままだ。自分がよくできなくていい学校へもいけなかった。そのかわりに自分の子を偉くしたい。だからおとうさんは一生懸命働いている、おまえは勉強しろなんて。そんなおかしなりくつはないと思う。

○家では父と母が弟をあまやかしています。弟が悪いことをしてもわたしや姉のせいにすることが多いのです。それでは弟がおとなになった時困ると思うのです。将来のことも考えて弟をしつけてもらいたいのです。

感じわるい

○中学になるからなのか、このごろ父母たちは勉強のことばかり言う。私たちは学校で六時間も勉強してきて、家へ帰ればすぐ勉強なんてうんざりする。おとなだって仕ごとから帰ってくればテレビのプロレスを見たりお酒のんだりしているじゃない。少しぐらいテレビ見てたってほっといてくれればいいのに。だからだんだんガミガミ言われるまでテレビ見ているようになってくるんだ。

○夜おとなはこたつでテレビ見ておやつ食べたりしている。私たちは宿題をフウフウいいなが

ら仕上げる。そして疲れて話でもしたいとこたつへいく。そうすると「早く寝なさい」とすぐ言う。

○友だちの家へいって遊んでいると、おこったりしておいだす家がある。わざとその家の子に、「おまえはだらしがない」なんてその日のことでないことなんかでもんくを言っている。とてもいやな気持。

子どももあきれる

○わたしたちもボーリングやパチンコをやってみたい。どうして子どもだけのボーリング場ができないのだろう。なんだか、おとなの方がおもしろいあそびがたくさんあるみたい。

○いまのおとなは、自分で育てた子を殺したりするんだから、子どもはあきれてしまうよ。

○ゆうかい魔だっておとな。三億円犯人も、どろぼうもみんなおとなじゃない。

○立川のデパートへいくのさえ、なんやかやいうの。なぜデパートはいけないのというと、へんな人がいるからという。それもおとな。交通事故をおこすのもおとな。

○私がスケートに行こうと友だちを誘ったら、おかあさんに、「ふんい気が悪いから行かせない」といわれてことわってきた。そりゃあ、悪いふんい気があっても、ふんい気にまきこまれない子どもだと信じられないのかしら。

ハレンチおとな

○このごろテレビでハレンチな番組やコマーシャルが多い。こういうものもみんなおとなが作っている。マンガ家だけせめたってしようがない。

○うちの人は週刊紙をよく読んでいる。私たちも学校の勉強ばかりしてりこうになるわけじゃないと思う。ときにはハレンチマンガもよいと思う。

古くさくって

○おとなのやることでたらめだと思うことが多いんだけど、選挙であれだけさわいで、投票率などを見ると無責任な人が多いんだなと思います。

○どうしてあんな年よりが当選してくるのかな。

○何か恩きせがましくいわれるのはいやです。親切にされたりした時、こちらもそう思って感謝してるけど、そのままだとあとで何かいわれたりする。ありがとうをいえばいいんだろうけど。

○家の中で話しあいといっても何かいうとすぐ「ダメ」「子どもじゃないか」なんていう。

○私たちがいつか調理実習の材料をお店へ買いにいったの。

○そのお店でこの品のバラはありますかと聞いたら、「今はバラ売りしてませんよ、みな袋づめだよ」とあてつけるように言った。私はこの態度なんだろうと思った。私たちもお客様なのよ、それがケンカみたいな口調。でもがまんした。それからやさしい口調で、それが百グラムほしいのですが、と言った。そしたら中の一つをとって、「これで二百グラムだ」なんてまたあてつけを言われちゃった。

○私は病院で番号札をもらうため、朝早くからならんで待っていました。そしたら横から割りこみの手を出す。「ニャロメ」と思いながら横目でにらみつけてやりました。それでもすずしい顔している。まわりの大人も知っていて知らぬふり。ああなさけない。

　おとなも常識ということを知ってもらいたいと思いました。

ピーターはわかいから

○家の父はテレビで自分の好きな古い歌手など出てくるととてもほめる。そして私たち向きの若い歌手が出てくると「こんなのすぐおちぶれちまわあ」とすぐ悪口を言います。私たちは、

やっぱり年をとっている人よりも若い人にあこがれる。それぞれのこのみがあるのだからもんくを言わないでほしい。ピーターだって、私はあまり好きではないけど、魅力のあるところは、ひびきのある声、きれいな口もと、若々しいこと、そしてスマートだなということはいつも思います。

　おとなだって、そんなところをテレビなんかから感じるようなおとなら、すばらしいのにと思っています。

＝昔ばなし＝

むかしは多摩川で泳げたのダ！

　むかしの子どもは、夏ともなれば朝から晩まで、清き流れの多摩川で泳いでいた。今の多摩川を見ては、本当とは思えまいが。

　さて、ではこの多摩川で泳いで遊べたのはいつごろまでのことだったのだろう。

○二十五年（昭和）ごろ、毎日泳いでいってました。水がきれいでしたよ。（熊川・森田佳男）

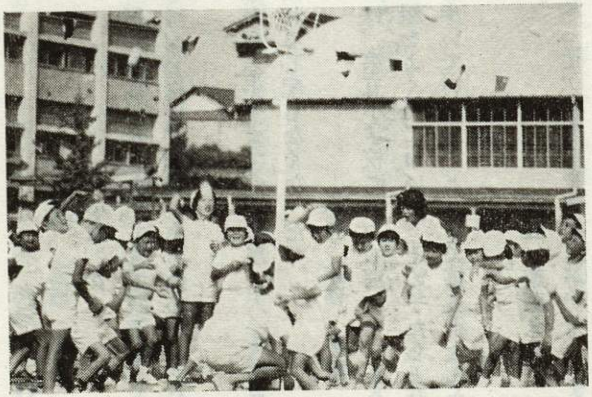
○三十五年ごろまでだと思います。場所は鉄橋（五日市線）から、その下流五百米ぐらいの間が主でした。（同、森田敏雄）○多摩橋の下や柳山辺で、三十六年ごろまで泳ぎました。しか

しそのころから、秋川の方へ泳ぎに行く者が多くなりました。向うの方が水がきれいだということでです。（中福生・村野弘一）

このころ、三十五年の第一小学校はじめとして、市内の各校にプールが造られ、子どもたちの水泳はプールで、ということに変わっていった。

○多摩川の水泳がダメだと決定的な理由になったのは、加美の辺からの、下水汚水の流入からでしょう。小河内ダムの影響で、水がつめたくなったことも、多摩川の危険性の一つの理由になったと思います。まあ、三十五六年までは泳げたということになるでしょう。（永田・高崎勇作）

学校で



赤勝て、白勝て（第3小学校にて）

新設福生第五小学校

（一九六九・五）

小五　女　子

第二より校庭が広くてまわりはたんぼばかりです。家からボールをもってきてゆうゆうとできるのでうれしい。まだ遊ぶものがぜんぜんないからつまらない。水道の水も飲めない。だから水とうをもっていく。

教室もできたてだからへんなにおいがする。一年生から六年生まで、みんな一人一人のスチールの机なのでうれしい。机の線から出て男子にぶたれる心配もなくなった。

小五　女　子

三月の終業式の日の帰り、団地、内出、南の子たちは、第五小学校にいって別れてしまうので、私たちのクラスの第五小へ行ってしまう子たちの顔をよく見ておいた。その子たちと話をしていたらかなしくなってきた。別れて家の帰り道を歩いていたら、どうして第五小なんかつくるんだろうと思った。

小五　斎藤久美子

こんど第五小学校ができたので第二小学校の人数がへって、図工室や理化室が使えるようになったけれど、なかよしの友だちと別れてしまいました。第二でも、組がえがあって、クラスは別々になったりしたが休み時間にはいつもあえます。

「給食とお弁当」

（一九七〇・五）

●学校給食と、おかあさんのつくってくれるお弁当を持っていくのと、どちらがいいですか。

小五　村野　秀穂

やっぱり、おふくろの味が一番！

おにぎり、タマゴやきにサンドイッチ、すきなものなんでもつくってくれる。ぼくのおこのみどうりだ。

それに、日本人なら、日本人らしく米を食べるべきだ。給食はアメリカ人が食べるようなパンなんかで、まずくて食えん。それに、このあいだのブタのえさみたいの、気もち悪くてゲロがでそうだった。だから弁当の方がいい。

小四　河西　和子

わたしの家は、子どもが三人も学校へいっている。だから、お弁当になると、朝お母さんが

たいへんだ。お金はよけいかかっても、給食のほうがいい。

小五　前田　和子

お弁当がいい。給食には、あぶら肉、にんじん、しいたけなどきらいなものがいっぱい。それにくらべて、お弁当は自由だから、だんぜんいい。

小六　内田　義明

やっぱりお弁当がいい。

おっかないお母さん、教育ママゴンなどのお母さんでも、お弁当を食べれば、そのお母さんの心の中がよくわかると思う。

小五　女　子

お弁当になったらこまるわ。うちではだれがお弁当をつくってくれるの。

小五　男　子

弁当の方がいい。

給食費はだんだん高くなってくるし、給食当番でかっぽうぎを着たり、いちいちくばったりさせられるからめんどうだ。

中一　女　子

わたしは給食のとき、きらいなものが多かった。中学へいってお弁当になってせいせいしている。

小五　男　子

給食はまずいなんていえないと思うな。りょうりをしてくれる人は、ぼくたちにおいしく食べさせようと、苦心しているんだから。

「生徒会会長選挙」

（一九七一・六）

●生徒会長に次のような人が立候補した。

A　私のしんせきだし、ふだん一番の仲良し。家の人も、Aに投票してやれよ、と言う。

B　クラスの人たちにおされて立候補した。みんながBの当選のために力になることを誓った。

C　自分から名のり出たCは、AとBにくらべたら、生徒会長として一番適していると思える。さて、君はだれに投票する。

Aに

中一　女　子

私だったらAがよい。だってしんせきの人が会長なら、私も鼻が高いしいいきもちだから。

Bに

小六　女　子

もし組の子がおちたらかわいそうだし、おちた子にはじをかかせたくない。組の名にもかかわるからです。

中二　男　子

会長としての仕事を責任をもってやりとげてくれるよう、クラスの中でよく討議してから、すいせんする。そしてその人をみんなでおしてあげる。

Cに

中一　女　子

かクラスすいせんとか、しんせきだとか、人のことばにふりまわされるなんておかしい。そんなこと聞かずに自分の考えで書く。

中二　女　子

会長になる人は「どの人の意見もよく理解してくれてその方向に努力する人」という事を一番のねらいにしています。Cが私のこの考えにあてはまっていれば私はCに投票します。

中一　女　子

しんせきに入れろなんていう家の人には、Aに入れたよ、と口でいっておけばいい。この場合Cと考えるのがきわめて当然なことだと思う。

中一　男　子

Cを選ぶと思う。でもぼくから見れば、ひまつぶしでめんどうくさい生徒会長なんてやるのはいやだ。

中二　女　子

会長に一番適していない人が出たら、学校にとってもよくないと思う。AやBが、Cより適任者ならいいが、そうでなかったら感情で投票していることになる。私たちは、中学生らしくいい選挙をしたい。

？？？

中二　女　子

私もCを入れるように思う。けれどいざ選挙となると、友達同志相談したりしてAに入れるかBになるか自分でもはっきりしなくなる。しんせきの義理なんてよくないと思うし、クラスのすいせんもその人をきらいならやっぱりいやだ。だれを入れるかめんどうです。

さて、これをまとめてみたら次のようになった。

総数　四十八名中

A（三）　B（十一）　C（三十三）　疑問（一）

「学級委員のバッチ」　（一九七二・二）

●〝学級委員のバッチなんてつけさせない方がいい〟という「大人の意見」が新聞に出ていたことがある。

皆さんはどうですか。

さんせい

小六　女　子

カッコいいと思う。つけるのが少しめんどうなことはあるけれど。あれをつけると〝かんろく〟がつく。それに、自分はこんなにえらいんだぞと、みせびらかすマークみたいだ。

小四　女　子

おとなのえらい人がバッチをつけるのだから、子どもだって委員になったらバッチをつけたほうがいい。

小六　男　子

つけているとカッコがいいしみんなも「あ、あの子は学級委員だ」とおもってくれるよ。

小六　女　子

代表委員にえらばれて、バッチを見て、自分でもうれしかった。代表になっても、代表の目じるしがないと、カッコがつかないと思う。

小五　女　子

学級委員だけがつけているバッチをみると、ときどき自分もつけたくなる。いつになったらつけられるかな。

小六　女　子

やっぱりつけたほうがいい。だってバッチを見るたびに、「そうだ、私は委員なのだからみんなのことを考えて、しっかりやらなけりゃ」という気がわいてくる。それにみんなでえらぶ委員なのだから、じまんするような人などえらばなければいいんだ。またつけたがっている人には、「私はじまんのためにつけてるんじゃないんだ」というしっかりしたところをみせてあ

げればいいんだ。

はんたい

私はつけない方がいいと思う。わたしたちのクラス委員は、バッチをつけていばっているのでしゃくにさわる。

小四　女　子

ある人だけが委員だからとバッチをつけていると、その人だけが目立つように思える。特別の人だけそんなことになるから私としては反対だ。

中一　女　子

学級委員になったら、いままで名ふだをつけてこなかった人が、急にバッチと名ふだをつけてきた。何んとなくいやな気もちだった。

中一　女　子

バッチをつけていればカッコいいが、なくしたりしたら大変だ。私も一度なくしてしまって学校へいきたくなくなったことがあった。

中一　女　子

委員のバッチをつけていてもその役わりをきちんとはたさなければ、そのバッチの価値はないと思います。

中二　女　子

私は小学六年生のころそのバッチをつけた。そのころはバッチをつけてうれしくて人にも見せびらかしたかった。でもいま思い出すと、みっともなかったしあんなことでいばったんだなあと思うととてもいやだ。

中二　女　子

私も小学校の時よく学級委員になった。別に特別うれしくはなかったけど「胸をはって歩ける」という感じだった。でも今になってみればバッチで得意になるより、バッチなしでいて皆んなと仲良しで尊敬もされるような人であったらなあ、と思っている。

中一　女　子

「よごれた海と臨海学校」（一九六九・八）

●海がきたなくなったので臨海学校をやめようか。というところが出てきましたが。

小六　女　子

わたしは六年生だ。だからはじめての臨海学校を、とても楽しみにしている。それなのに、八王子ではそれを中止にしたそうだ。海に大腸きんがたくさんいるからだという。でもわたしは行きたい。五年生も、六年のことだと思わないで真剣に考えてほしい。

　福生でも中止になったら、校長室の前ですわりこみしてやろうかと思っている。でも、海にいって病気になったら困るし、ふくざつな問題だ。

小五　島田　純子

　もし福生が臨海をやめるとしたら、わたしはとても悲しい。臨海をやめるとしたら、おとながきめるでしょ。そのとき、子どものみになって考えてほしい。子どもの夢をおとながこわすことは悪いことだ。海へはいれなくても、砂浜で、貝ひろい、すいかわりなどのあそびかたもある。

中三　女　子

海にはばいきんがあるから、臨海学校は中止なんて、大人たちはナンセンスだ。そんなことをいっていたら、プールだって同じようなものだ。バイキンがどうのこうのと言うまえに、抵抗力のある体をつくっておけばいいじゃないか。

中二　女　子

私は臨海ぐらいあったほうがいいと思う。いくら海がよごれていても、海の空気、海の風景ぐらい素晴らしいものはないと思う。私は、あまり海は好きでなかったが、夕方の海の風景を見た時、あまりの美しさにただうっとりした。

それと、みんなとの協同生活は、やってみなければわからない楽しい日々だった。

中二　男　子

先生を海でいじめてもおこられない。こんないいことやった方がいい。

中一　女　子

私は臨海学校はもうすんでしまったけれども、やっぱりやった方がいいと思う。

私たちは、両親と三泊四日もはなれてくらすのははじめてなので、ちょっぴりさびしくなったこともある。でも、自分のことは自分でするように心がけたりもするし、みんなとたのしくくらした。

小五　男　子

ぼくは臨海に一人だっていく。ぜったいにいく。いままでの六年はみんないったんだから、ぼくたちだっていかなきゃあ、いまの小学校の子がかわいそうだ。

小五　女　子

臨海は六年生です。私たちにはかんけいのないことです。でも六年生になったらいきたい。ことしはだめでもよい。来年いければよい。六年の人にはかわいそうだが、ことしは臨海はやめればいいと思う。

小六　女　子

臨海はつまらない。海でなん回も泳ぐのが主だからつまらない。友だちは臨海のことをうれしがって聞いているが、私は、深いところ、浅いところのわからない、あんなおそろしい海は、こわいなあと思う。

小五　水口まゆみ

やったらいいか、やめたらいいか、私にはわかりません。

でも、海の水がきたないからやめるでは、子どもはなっとくできないと思います。その海の近くの人たちは、海をプールのかわりに使っているでしょう。それなら私たちが、二日や三日泳いだって害はないと思います。ですが、そのよごれぐあいが問題です。害はないにしても、あまりよごれていてはいやです。サテ、私はどっちに賛成なのかしら。

「なつやすみの宿題」

（一九七〇・七）

●先生「この夏休みの宿題は……」

児童「いやだなぁー、先生。

宿題はいしにしようよ。」

ガヤガヤガヤガヤ

さあ、この時あなたが先生だったら、児童たちに、どう言いますか。

小四　太田　徳行

そんなこと言ってもしようがない。四十日も勉強しないであそんでいたらどうなる。それに夏休みのひまつぶしにもなる。がまんしなさい。

小四　橋本かなえ

夏休みはあそびのためにあるのじゃないから、すこしは勉強しないと夏ぼけになります。みんなもすこしは学校にきていると思って、勉強をしてください。

小四　高橋　章太

宿題をしないとバカになってしまうぞ。おとなになってこまってしまうから宿題というものがあるんだ。一週間もあればできるだろう。

小四　細谷　美幸

宿題がなくて外であそんでばかりいると、にっしゃびょうになってしまいますよ。病気になってしまったら、プールにはいれなくなってしまいますよ。

小四　高橋　義行

そんなに夏休みの宿題がいやか。なさけないやつだ。それなら夏休みはゆっくりあそばしてやる。ただしだ、夏休みがおわったら毎日かかさず宿題を出して、びしびしきたえてやるぞ。

小四　金子　和枝

夏休みにだすのはやめてあげます。そのかわり冬休みは、夏休みの分も両方だす。そうしないとほかの組においつきませんよ。

小四　力石　輝雄

夏休みはとても暑くて頭がボーとしちまう。それで一学期にならったことをわすれちゃう。そうならないように夏休みの宿題を出さなければならないんだ。

小五　内藤　稿一

むかしぼくたちが子どもの時宿題をさんざん出されたんだ。それでもみんなやったんだ。だから先生もださなきゃあそんだ。だれだ「出すな」なんて言ったやつは。ぶんなぐるぞ、ちくしょう！

小五　田中　貴

宿題やって、おまえらが頭がよくなるとこまるので出さない。できるだけ勉強をやらないで

うんとあそべ。

小五　山崎　義浩

宿題がいやなやつは、夏休みをしないで学校にこい。うんとしごいてやる。

小六　雨宮　洋子

夏休みはじゅうぶんあそべ。

一にあそび、二にあそび、三に勉強だ。子どもはあそびがだいじ。あまり勉強するとひょろひょろのもやしになっちゃうからね。だから夏休みはぜったいに宿題を出しませんよ。

小五　佐藤　光雄

先生はみんなのためをおもって宿題をうんと出してんだぞおー。これでありがたいと思わないやつはバチがあたるぞおー。

おとうさんやおかあさんにも毎日すこしずつやらせてみればおもしろいぞー。

（一九七〇・九）

＝おとなの意見＝

「子どもの宿題で、親、おや？……」

●夏休みも残り少なくなったある日。A君のおかあさんはカッカッとして、「まだ宿題ができてないの。どうして早くにやっておかなかったの」A君は「だって、おかあさんはおとうさんにあとでおそわりなさいって言ってたじゃない。それなのにおとうさんが見てくれなかったからだよ。」おかあさん「おとうさん、あなたにも少し責任あるのよ。一生懸命手伝ってやってくださいね」おとうさん「?………」以下その返答。

……独り言……

島　貞二

子どもの教育より、まずおかあさんの教育からやり直さなくちゃな……

父（三十九才）

……ブーブー文句言いながら……仕方ない手伝うよ。

父（四十五才）

しようがない、どれ見せなさい。これなら百科辞典やいろいろな事典もっているんだから、あとすこししらべなさい。ふうん、とてもむずかしいな、今の子どもは大変だねえ……

原島　勝次

少しずつ毎日やってれば、そんなにあわてなくてすむのに。なるべく自分で努力してみて、

わからないところを聞きなさい。

父（三十九才）

宿題は子どものためにあるもので、親のものではないだろう。おとうさんにも責任があるなどもってのほかだ。学校で勉強すると同じに、宿題は子どもが自分でやるもの。それをこんないいぶんで、腹がたつね。

有野　哲雄

見てやらない訳ではないけど、お父さんには一日がかりの仕事があるし、夏休みがある訳じゃあないんだから。お母さんだって少しは見てやる時間はあるだろう。それに、人を頼るというのでなくまず自分でやってみて、それでなおわからなかったら、お母さんやお父さんに聞くんだ。

父（四十才）

小学校のうちは、みんなお母さんにまかせてあるでしょう？もっと責任をもって見てあげなさい。

込山　長人

夏休みは、長い間勉強を休んでいると、忘れたりきらいになったりするから、宿題を毎日少しずつやることに意味がある。宿題がたまってしまったら無理にやってもしかたがない。二学期がはじまったら、その分まで一生懸命やりなさい。

鈴木　利二

夏休みの宿題は、その学年で消化できる問題だから、親が教えることはない。量の多少は別だけど、子どもが努力することに意義があるんだ。

小林　豊

はじめからむずかしいと言って、やらないのは口実なんだ。夏休みの宿題は、一学期中のおさらいだから自分で考えるんだな。親が正解を教えて書かせても何にもならんよ。

山本　完治

見てやりたかったけど、毎日の仕ごとで疲れているんだよ。でも「日」がないなあー、よし、きょうは見てやるからな。

武田　正雄

お母さんも少し考えて発言して貰いたいね。子どももおとうさんをあてにして、自分の宿題は自分自身で解決するという自主性がないね。他力本願は良くないぞ。

おとうさんもすべてノータッチではないが、そのアドバイスは個々の問題によりけりだ。

「くさったバナナと給食当番」（一九六九・七）

●給食当番のA君は、給食のバナナを配っている時くさっている一本のバナナを、だれにやったらいいかまよってしまった。

中一　男　子

ぼくだったら、先生に「バナナが一本くさっているのでどうしよう」と言う。ぼくの考えでは、先生が何か言ってくれると思うからだ。先生はこういうと思う。

「このバナナは、しょうがないから先生がもらいます」

どうしてかというと、生徒にあげるわけにいかないからだと思う。だからこういう時は、先生に言った方がいい。

小六　男　子

ぼくだったら、自分の所へおく。先生は、いつも苦労しながら勉強をおしえていて、目上の人だから悪いし、友だちにやれば、「友だち」のえんを切られてしまうから。

中一　女　子

私は、友だちの所に持っていく。先生にあげるのは失礼だし、だからといって、自分でとるのもばからしい。くさったバナナをおいた友だちを覚えておいて、あとでなにかのきかいに、返せばすむことと思う。

小六　女　子

給食当番の人で、くさったバナナがあるんだけれどどうしたらいいか話しあう。もし、くさったのでもいいと言う人がいたら、その人にやって、いなかったらジャンケンをする。

小六　男　子

ぼくだったら、自分だけしかしらない場合だったら、自分でたべる。それは、自分しかしらないでおわることだから。

小六　女　子

わたしは自分の所におくと思う。だっていつも家では、おかあさんがくさったのをたべ、わたしはいいものをたべている。そういうときおかあさんはとてもかわいそうに思えるので、先生やほかの人に、いやな思いをさせたくない。

小六　男　子

もんくをいわれないような気の小さい友だちにやる。

小六　女　子

給食当番は責任があるので先生にわたす。先生は私たちをうけもっているので、くさったバナナを食べるのはとうぜんだと思う。先生は、自分のバナナがくさっていればどうにかしてくれるだろうから、これでバンジO・K

中一　男　子

先生にやるべきだ。(先生にわるいけど)だって、先生はぼくたちよりとしをとっている。だからなにをたべてももう成長しない。それにくらべて、ぼくたちはこれから成長していくんだから、よいものを食べていくんだ。

中二　女　子

先生にやるのはたいへん失礼だと思う。だから先生に、どうしたらいいですかという。そうすれば「先生はいいですから」というと思う。

中一　男　子

先生にくさったのをあげるのはたいへん悪いことだ。先生がいなければ、一生なんにも覚えなかったり、知識も身につかない。そんなたいせつな先生に、くさったバナナをやるのはいけない。むしろ自分で食べるべきだと思う。

中二　女　子

ふつう先生は尊敬すべき人間ですが、何も給食の時まで、そういうふうにやる必要はないように思います。

授業は授業。給食は給食で引き離して、先生にくさったバナナが行っても、それを食べてもらいます。

中一　女　子

先生の所に、一番先に上等なのを置く。悪いバナナは給食当番がもらう。そうすると、みんなはきのどくがって少しずつ当番の人にやった。私たちの時はいつもそうやった。

中一　女　子

私は自分のとりかえる。そこを見て、知っていた人がいればしめたもの。「あの人やさしい」っていわれいい気持になれる。

そのかわり、家でどっさり食べるからいいさ。

小六　女　子

わたしは、いつもいじわるしている人に、だまっておく。いつもいじわるな人には、わたしからもいじわるをする。

(編者注)

新聞の意見欄にいつか出ていた、ある先生からの投書をもとに、子どもたちに質問してみた。

先生にやるというのは、五%ぐらいで、自分でとる、が約七〇%、あとは、いじ悪の友だちにくばる、などだった。

「かけっこの組分け」　（一九七一・一二）

●『せいの順だとのろい子がかわいそうです。』『予選でタイムをとって、それで組分けしたらいい』などと、新聞におとなの意見が出ていた。みんなの声を聞かせてください。

タイムによる組分け賛成

小四　三輪　輝美

いつもおそい人と走っていてあいてにならないから、せいの順ではつまらない。

中一　角田　光隆

せいの順だと早いとかおそいのがわかりきっている。「どうせびりだ」とわかっている人はやる気をなくしている。

中一　男子

早い順でやってください。予選でだらだらした人は、去年の運動会の順位をしらべればいいんです。むずかしいかもしれないがやってみてください。

小五　藤森　好子

せっかく父や母がみているまえでびりなんてかっこわるくてこまる。たまには一等をとっていばりたい。

身長順に賛成

中一　女子

タイム別になったら、身長の高い人が小さい子に負けて走るなんてこともある。そんな時はなおさらカッコわるい。

小五　森田　繁

いまのやり方なら、ぼくの組にはやい人がいなくて一番だったからです。

中一　女子

一度だけタイム順でやった経験があるが身長順の方がしぜんだ。タイム順だとあとで不平が多くなった気がする。

中一　女子

一人とび出てかけたり、太った子がのろのろかけたりするのもおもしろい。親は自分の子がおそいからそういうんだが、もし速い子だったら言わないだろう、そんなの自分かってだ。

どちらでも

中一　男子

そんな組分けはかんけいないと思うな。徒競走で一番だってビリだってその日だけだよ。いくらビケでもけんめいに自分の力を出していればいいんだよ。どちらの組分けでもだれかしらビリの役をかわなくてはいけないのだ。

「つうしんぼがさがったばあい……」

（一九七〇・三）

●〃つうしんぼ〃をもらってきた。上の子も下の子も成績がさがっている。その時、きみがその子たちの親だったら、子どもたちにどう言いますか。

小四　安川　稔

「こんな点とっちゃだめだぞ、こんどはがんばれよ。5も一つぐらいとれよ。」

「だけどもう気にしなくていいよ」

小三　清水　早苗

バカね、こんな点とってきて、こんどのつうしんぼがこんなふうだったら、おしおきですよ。こんどはがんばりなさい。いいわね。

小四　本間　紀元

カエルの子はカエルだからな、またこんどガンバレ。まあ人なみだからいいや、子供は外で元気にあそべ。

小四　谷津　智之

おまえはもっと勉強していたら、つうしんぼだっていますこしあがったかもしれないのに。

小四　角張　久美

さがったのだから、こんどはがんばらなくちゃあね。笑われてはじをかくのなら、勉強したほうがいいでしょ。

小四　力石　広志

よ習、ふく習を毎日、三十分ぐらいやりなさい。どんな人でも、そういうにすれば、点があ

がるよ。

「ま、いい、これじつりょくなんだから。らいねんはがんばれよ。宿題のほか、よ習、ふく習もやりなさい」と言う。

小四　持田　宗春

だってガミガミ言ったってりこうになるわけはない。すこしずつやればよくなると思う。

小四　平原　進

またこんな点とってきた。こんどのときはいい点とらないとしょうちしないぞ。よくおぼえておけ。またどうせわすれるんだろう。

小四　糖信　孝一

「来学期がんばればいいよ、そのかわりに、なにも買ってあげないよ、ほんとうに。来学期はいい点を持ってきなさいよ。」

小五　佐藤　努

「こらっ」とどなりつけるがしかし、ぶちはしない。一日に勉強を何時間もやるというようにさせる。頭をぶつとますますバカになるから。でもやさしくばかりしているとつけあがるから、子どもはやかましくやらせるのが一ばん。

小四　木村　幸生

おまえの頭の毛をつみとって、ぼうずにしてしまうよ。

小三　山下　幸子

じぶんでつうしんぼを見てがっかりしているところへ、またしかったりしたらよけいがっかりするだけだ。しかるより、はげましてあげたほうが、子どもは、こんどはがんばるぞ、という気もちになる。

「成績表オール3のこと」（一九七二・一一）

●どこかの中学校で、成績表の音楽科が全員3であったとか、また大阪の方で全部が3だけの所もあったとかの話を聞いているだろう。そのことについて、皆さんの感じたことを言ってみてよ。

成績の良い人と悪い人がいて全員3ときまっていれば、ふざけていても3とれると思って、良くやった人はふんまんを感じるのではないか。先生はみんな3の所に印をすればいいから、考えずにすんでいいかもしれないが生徒は怒るだろう。

二小六　山口　裕代

学校は教育の場であるということはもちろんだが、努力の場でもあると思う。自分自身一生懸命がんばったのが認められないのは、勉強意欲を大いにそがれる。生徒の努力する心は、先生は認めるべきだと思う。

高一　小俣　恵子

全員オール3なんてバカみたいだ。そんなに自分の教えたことに自信がないのかな。

中二　高崎　里江

小六　河西　和子

通信簿をもらって胸をはずませて開く。あんなにがんばった音楽が3の人も、授業中まともでなかった人も、みんな3とわかったら、みんな同じようにがんばったと言われてもオール3は賛成できない。

中一　町田久美子

みんなが同じにがんばったからと言っても、少しぐらいは差があると思う。その差を考えて成績がつけられないのかな。どうせみんな同じにするなら、オール5にすればよかったのに。みんなに3をつけたのは、生徒をばかにしているように思える。

中二　早川　智男

事件のくわしいことは知らないが、せっかく一生懸命やったのにかんたんに3なんてつけられちゃがっかりする。しかしいいかげんにやっていて3ならばこれはしめたものである。さてそこが問題である。だからやっぱりもっとしっかり考えてもらいたい。

中一　細谷　敦代

天才も低能もみんな同じ3なんて不公平だ。高校進学をひかえているのに、そんなあまい考えをもつ先生など、先生になる資格がない。もしその通信簿のために天才的な人がいい高校に入れなかったら、その先生は死刑なのだ!!

あの先生以外にも、生徒が全員よくやっていながら五段階で評価することをやめようとしている先生もいると思う。そう思ってもやれないわけ、そんなことをすればPTAや教育委員会がだまっていないもんね。それでも実行した音楽教師は、えらい人だと思う。

中二　森田　光代

そういうばあいは通信簿にこだわらないで、自分の実力をのばしていけばいいと思う。

小五　鳥山　淑子

人の能力はかんたんに評価できないと思う。全員に3というのは絶対に良いとはいえないが、はじめにみんなにその評価のつけ方を説明しといてやるのならいいと思う。父兄の人は、学校のことは先生にまかしておいてほしい。

中三　黒沢　孝恵

「セビロを着ると、〝アッとオドロク〟とみんなが言うだろう」（一九七〇・二）

●中学生になると、黒っぽいつめえりの制服を着るようになる。これを背広の制服にしたら、という学校もあるようだが。

ぼくはまだ小学生だけど、中学生になったらせびろを着たい。なぜかというと、今の服は、古くさくってかっこわるい。

小六　男　子

私はつめえりの方がいい。つめえりは学生らしい服だ。それに背広は大人になれば着れるけど、つめえりは学生だから着れるもので大人になって着たらおかしい。それに、私のすきな子は、つめえりが良くにあっている。もしその子がせびろなんか着たらゲンメツ。

中一　女　子

やはり中学生というのは、気をひきしめて学問をし、将来に道を切り開くのだから、つめえりの学生服で気をひきしめていた方がよいと思いますよ。

中二　男　子

セビロは見た目も悪くはないしツメエリより活動しやすいと思います。男子がよく「首のところがキツイ」と言ってかぎホックをはずしているのを見かけます。確かにきつそうです。どうせはずしておくのなら、セビロの方がきちんとして見えます。

小五　女　子

中学生がセビロを着るなんて少しきざだと思うな。高校生がきるならいいけどさ。

現代の子どもは少しぜいたくすぎるよ、むかしの子どもは洋服なんか買ってもらえなかったそうだから。

現代の子どもの諸君。反省しろ。　　中一　女　子

私はセビロに賛成。今の服はなんだかやぼったい。首のまわりがかくれているより、セビロの方が見かけがよくてサッパリする。勉強のノーリツもあがると思う。　　中一　男　子

今のほうが中学生らしく見えていい。もしセビロになったら〝アットオドロク、タメゴロー〟なんてみんながいうだろう。　　中一　男　子

つめえりの服では、まだ子どもっぽいという感じがでて、いたずらやケンカなどしてしまう。セビロならそれと対照的に、なんとなくおとなになった感じになると思う。だから、中学校じたいも、みんなのためになると思う。　　小六　女　子

なんとなくセビロをかっこよく感じて、女子にもてると思っている男子もいるらしいけど、セビロはキザでいやらしい。やっぱり男らしくみえる、今の学生服がいい。

それよりも、女子のあのながーいスカートを、ミニにしてもらえないかな?　　小六　男　子

外国の男の子はかなり小さい子でもセビロを着てにあう。日本の子もスタイルがよくなったので、セビロでもにあうと思う。　　小六　男　子

中学生のうちからセビロなんかきたら、高校や大学を出て社会人になったときの楽しみがへっちゃうから、セビロ反対!　　小六　男　子

みんなセビロをきたら、きどっちゃって運動会などやらなくなるんじゃないかなあ。みためやカッコなんかもんだいじゃないのに。

そんなことにお金をかけることを考えるより、教室の窓がわにカーテンをつけるようなことを考えてもらいたいなあ。子どもにとっては、勉強が頭にはいるようなことを考えてもらいたいんだなあ。

小六　女　子

中学生はとしごろだから、なるべく自由にするのがいいと思う。だからといってあまりはですぎてもよくない。だから布の色だけきめておいて制服のかたちは自分のすきなようにすればよい。そうすると、パンタロンや、マキシで学校にくる子ができるかな。

「小・中学校の〝五日制〟問題を論ずる」（一九七三・八）

〝五日制〟賛成

まず土曜日は思いっきり遊ぶ。そして遊びつかれても日曜日はゆっくり休める。寝坊もできる。

中二　森田　圭子

今の中学はいそがしすぎてもうがまんができない。だから一週間に二日の休みは必要だ。

中二　島田　洋子

本もたくさん読みたいし、テニスもしたいし、レコードも聞きたいし、買物にもいきたいし、もちろん勉強だってやります。なによりも朝早く起きる日が一日でも少なくなることで、

五日制に大賛成です。

中一　高木　良治

クラブでへとへと、勉強にも追われて、ぼくらは大変なんだから。「一日だけでは体がやすまれぬ」と田中角栄も言った。

小五　設楽　幸

月〜金まではふつうに勉強をして、土曜日はおたのしみ会やスポーツ大会など、みんながすきなことを相談してやるようにすればいいと思う。

三小五　田中　結花

六日の方がいい

なるべくいままでのようにしたい。だって五日制にしたら、家にいてやることないもの。それより学校に行って、遊んだり勉強したりの方がよっぽどいい。

中二　木村　慶子

六日間でもやっとの勉強を、五日でやれっていうの……。

中一　鈴木　千穂

休みが多くなるのはいいけれど、一日の授業が六時間から七時間になったり、宿題ばかり出るようになるんだったら今のままが良いです。

どっちでもいいや

小六　二宮　博美

どちらかといえば五日制に反対したい。今の学校の制度では五日制は無理らしい。三学期の終わるころになって、時間が足りなくなるようなことになったら困る。でもやっぱり一日多く休めるのはいいとも思う。

どうかなあ

中二　中野せい子

五日制は賛成だけど、でも二日間の休みを何をしたらいいだろう？　この年で外へ出て子どもみたいに、ギャーギャーできないし、ボケッとして過ごすのかな。

中一　森　ひろみ

五日制になると夏休みが短かくなる、とだれかに聞いたことがあるけれど、ほんとですか。

中一　A　男

〃五日制〃になったら先生の給与はどうなるのかな。ぼくたちはどうだっていいけれど、先生はどうなるの。

まじめにやれ！

小六　笹本美枝子

あれほど勉強のことさわぎながら、よく〃五日制〃なんて考えられる世の中になったヨ。まったく今の世の中どうなるの。

中一　清水　富男

勉強は自分で一生懸命やらなくちゃだめなんだ。学校へいく日が一日少なくなったって、どっちだって、ぼくには変わりはないのである。

（一九七二・七）

＝おとなの意見＝

「馬乗りあそび」

●子どもたちがよくやる遊びに馬乗り（馬とび）がある。珠算学校の庭でもよくやっているが、この遊

びはかなり危険でもあるということで、学校でも禁止のおふれが出ることもある。

だが、危いからと言って、子どもの遊びをつぎつぎとりあげていいものか、という意見もある。あなたはどちらですか。

父（四十三歳）

わたしなんかも子どもの時によくやりました。ケガをしたということにあったことはなかった。体と体をぶっつけあって遊びながらつくりあげる子どもどうしの人間関係は、すてがたいものだと思う。ただ、おたがいに十分気をつけて、という注意はしてあげたい。

田代

私の子どものころを思い出して、どうしても忘れられない遊びです。今から二十数年前、たしか六年生の時でした。雨の降る日に教室の中で、十人ぐらいで馬乗りをしました。私も仲間の一人でした。私は二番目に乗り、三人、四人と乗った時でした。馬になっていた人の足が「ギクッ」と音がして、一番、二番とつぎつぎに馬がつぶれました。一番前の馬になった人の、ももの太い骨が折れました。あのころ、村山には接骨院がなかったので、その人は福生の接骨院に通いました。学校を六カ月ぐらい休みました。その友だちを思い出して、この遊びは禁止を願っています。

父（四十歳）

今の子どもは、遊びに対して無鉄砲すぎるところがある。どんな遊びでも度を過ぎれば危険と紙一重なのだ。そのことをよく言い聞かせれば、子どもたちも注意をしながら遊ぶだろう。

Y・K

体力が揃っている子どうしでやるようにすればと思います。小さい子なら小さい子でグループをつくってやれば大丈夫だと思います。

細谷　一雄

やはり大勢でやっている場合は危険ですね。しかし禁止といってしまうのもかわいそうです。少人数でやるようにさせたいものです。

父（四十二歳）

子どもがみんなで仲良く遊んでいるのを見ているのはいいものだ。あぶないと思う時もあるが、そうやって子どものつきあいを覚えていくものだ。

＝昔ばなし＝

厄病神と〝ぬきなし〟

中福生・森田　惣助

この辺じゃあ、昔、十二月八日に家のじょう口にな、ぬきなし（竹細工のかご）をつるして厄病神よけをする習慣があったんだよ。

昔、竹細工を習いに支那に渡った人があったそうだ。その人がな、帰りの船の中でたまたま乗りあわしたのが厄病神だったわけだ。「おまえはなんだ」ってその人が厄病神に聞いたら「俺は厄病神でな、これから日本の国へいって厄病をはやらしてやるんだ」って言った。その人はうったまげて、「たのむから、うちの親類やいちまきにだけは、厄病をもってこねえでくろよ」って言ったそうだ。そしたら厄病神は、「そんなら、その家には何か目印をしておけ」って言った。「じゃあ、ぬきなしをじょう口に吊るしましょう」って言ったそうだ。

それいらい、この辺じゃあ、十二月八日に、ぬきなし、を吊るしたそうだよ。ほかに、ねぎなんかの臭いものを燃やして悪魔よけもしましたな。

そういうことをこの辺の農家は、やってきた。昭和の代になると、こういうことはなくなったようだね。

社　会

福生市　本町のあたり

「新しい〝市〟のよび名」（一九七〇・一）

●近いうちに、福生町は市になるという。
その時の市のよび名を、考えてください。

岩井　勲

福生町なんだから市になるんでも、福生市にきまってるよ。だれかが旅行にきた時に、名まえがかわってると、「あれ、へんなところにきた」とこまるから、福生市がいい。

神宮　茂

福生村、福生町とつづいてきているから福生市がいい。それから福生病院とか福生珠算学校とか、お店の名まえもいろいろできているから、このままがいい。

岡部　孝子

福生町を、福生市（ふくせいし）に読みなおす。幸福な人生をおくれる市といういみ。

原　一子

西多摩市がいい。西多摩郡にある市だから西多摩市が一番ふさわしい。

高崎　里美

わたしは、西東京市がいい。福生市だとよめない人がいる。ひらがなにしてもいいにくいから、西東京市がカッコいい。

田中　松男

みどり市。市になるのに私は反対だけどどうしても市になるのなら、ふつうは市になると緑がなくなってしまうから。いつまでも緑をなくさないように、みどり市がいい。

木下　雅枝

美町市がいい。（びちょう）
わけは、「美町」の美は美しい。それをつづけて「美しい町」それをちぢめて、美町市と考えた。

鈴木真由美

福生町には横田基地があるから、横田市がいいと思うな。

青柳　哲也

ぼくだったら、ダイヤモンド市にしたい。わけは、その市がダイヤモンドのようにかちのある市になり、ますます光をまし、より目立つ市になるため。

学和市　細谷三千代

化学が進歩して平和になるように。

「明るい市」がいい。　飯田あけみ

わたしは、この福生に越してきた時に、学校や近所の人がみんな親切でした。そんな、明るい感じを、市の名まえにしたい。

平和市　島田純子

なにも悪いことがおこらなくて、たのしい市になるように、平和市にした。

井上陽子

福生市というのは、あまりさっぱりしすぎる。福生ととなりの牛浜駅をヒントにして、福浜市なんてどうかな。

（編者より）

たった五分間で考えてもらったのに、こんなにいい案が出た。ゆっくり考えてもらったら、まだまだ名案がたくさん出たことだろう。

福生市はいやだ　林　康宣

ぼくたちの、このごろのあそび場所はたんぼです。もし福生町が市になったらいろいろなものができ、人口もふえることでしょう。人口がふえれば家が必要です。その家が、たんぼにたくさんできたら、ぼくたちのあそび場所がなくなってしまいます。あそび場所がなくなるなんてぼくたちはいやだ。だからぼくは福生が市になるのはいやだ。

岡野　浩幸

やっと市になる人口になっただけではものたりない感じがする。ほかの市のようになにもないしつまらない。それにもう「福生町」というよび方になれてしまっているので、やっぱり福生町のままの方がいい。

「おとなよ、結束してお年玉インフレを防ごう」　（一九七三・一二）

●お金の値打ちはさがるばっかり。やがてくるお正月のかかりも大変だ。そしてこわいのはお年玉のインフレ。なんとかしないとお正月のお酒を節約するようだ。子どもにむしられっぱなしを防ぐために、お年玉の金額申し合せはできないものか。たとえば、小学生以下は五百円、中学生は千円に、とか。そのことで皆さんの意見はどうですか。

＝おとなから＝

大さんせいですドー

志茂　田中

毎年お年玉を出す時思うのだが、大人は、たとえ少しでも子どもに喜こんでもらおうと思って出すのだから、たとえ三百円でもありがたくもらうべきだ。それなのに、なあんだというような顔をする子がいる。ときには出そうとしていると、あと二千円で自転車が買えるね、なんて一人言している子がいる。そうすると五百円と思っていたのに二千円出しちゃったりする。みんなで金額をきめておけば安心していられる。このような提案に大賛成であります。

町田

私も賛成です。スーパーにお使いにいくたびに、なにかしら値上りしているほんとうにいやな時代。もし家にお金の成る木があったら、陽の良くあたる所におき、毎日水をあげ、早く大きくして一杯お金を成らせて、困っている人にも、子どものお年玉にもたくさんあげます。

＝子どもから＝

はんたいだドー

小四　森田　恵子

お年玉はまい年もらう金がくがちがうから楽しい。きめられるとつまらない。

小五　五位野政彦

ぜったい大反対！まずみんなで話しあうのが気にくわない。一人一人ちがうのをうけとる時にはスリルがある。いくら物が高くなっているといっても、もっと子どもを愛してほしいな。
ぼくはお年玉をぜんぶためている。結婚資金にためているのだ。

小五　森田　幸枝

毎月のおこづかいが少ないのにがまんしているのは、お年玉でやりくりしているからです。

それが少なくなっては困ります。

ことしと同じなら　小五　森田　裕巳

ことしもらったと同じならまだまし。おかげで自分の買いたいものも買えた。それから母の日や父の日のプレゼントもそのお金がつかえた。来年少なくなったら、母や父のプレゼントをやめなくちゃあ。

なぜ小学生は　小六　増田　里子

中学生は勉強だなんていってなにもやらないでいて、小学生がおてつだいをやったりしているのに、お年玉は中学生の方が多いなんてずるいや。

ことしあったこと　小六　森田登美子

ことしのお正月、しんせきのおばさんが皆に千円ずつといって袋に入れてきたのに、そこにいたおじさんが、五百円ときまっているんだよ、なんて言って半分になっちゃった。しんせきみんなで決めたらしいけど、あの時おじさんがだまっていれば千円もらえたのに。くやしい。

小五　木崎　茂生

〃今年はお年玉でリールのさおを買ってもらった。来年はヘラざおを買いたいのに、下げられちゃったらどうにもしようがない。ぼくの来年の計画はめちゃめちゃになる。おとなの皆さんへんなことをきめないで下さい。

「一日で千円のつかいかた」（一九七四・一）

●お年玉でもらったお金のうち『千円だけ、思いきって一日でつかっちゃっていい』と言われたら、どんなつかい方をしますか。それと、このごろ高くなったなあと思うものを一つ書いてください。

小四　五十嵐　修

本（二〇〇）チャーシューメン（二〇〇）まんじゅう（二〇〇）せんべい（一〇〇）プラモ

デル（三〇〇）

○二十五円で十三糎ぐらい大きかったパンが三十円で九糎ぐらいになった。

小三　藤沢　洋子

スケートで（五〇〇）本（二〇〇）ラーメン（一〇〇）リボンを一米（二〇〇）

○パンが十円ねあがりした。

小三　加治　誠司

クイズの本（二八〇）つりざお（五五〇）ガム（二〇）ソフト下敷（一五〇）

○七十円だった庭球ボールが百円になった。

小四　西尾　勝文

プラモデル（四五〇）チャーシューメン（三五〇）アイスクリーム（八〇）ガム（二〇）クリームパン（五〇）ジュース（五〇）

○アイスクリームが高くなった。

小三　式田　祐子

人形（七〇〇）人形の洋服（一五〇）を二コ買う。

○このまえまで三十円のパンがあったのにこのごろはない。

小四　森田　紋子

ハンドバック（五〇〇）チョコレート（五〇）ハンカチ（一〇〇）ノート（五〇）ふでばこ（三〇〇）

○このごろ十円のアイスがない。

小三　岩崎　和昭

プラモデル（二五〇）下じき（一五〇）コマ（二五〇）を友だちのと二コ。パン（一〇〇）

小四　圷　由美子

父と母に手ぶくろプレゼント（六〇〇）カルタ（三〇〇）リボン（一〇〇）

○ケシゴムがまえ二十円だったのが三十円になった。

小四　清水　辰章

リールざお（六〇〇）リール（四〇〇）＝つりのどうぐ＝

○まえは四十円で糸が買えたのに今は六十円です。

小四　斎藤　絹枝

ふで箱（四〇〇）えんぴつを三ダース（四〇〇）チョコレート（二〇〇）

○五十円のノートが八十円になった。

ヘリコバギーというプラモデル（八〇〇）アイスクリーム（二〇〇）

小三　村野　忠浩

○五百円だった筆箱がいまは七〇〇円になった。

チャックの筆箱（三〇〇）マンガ（二六〇）鉛筆（一九〇）ケシゴム（二五）

小四　内野　直子

○パンが三十五円だったのに、七〇円になった。

パーフェクションゲーム（一〇〇〇）

小三　寿崎ひとみ

「成人式の晴着」

●成人式には、女の人はほとんどが新調の晴着で出席するようだ。何年か先の成人式の時、皆さんもそのようにするだろうか？（一九七一・一）

○むだなことだと思うけれど、成人式は二度とないし、女だったらやっぱり和服を着て記念写真をうつしておいて、自分が年をとった時に、若く美しかった頃を思い出すのもいいんじゃないかな。ふだん着じゃあ、成人式という感じもしないと思う。

中三　女　子

中一　男　子

①このごろの女性はかっぱつだから、成人式の時ぐらい、かっこだけでも女らしくすべきだ。

②だけど、成人式の日だけビューティフルにしたって、ふだんが悪ければしょうがない。だからふだんがだいじ！

斎藤真貴子

私としては、やはり一生に一度のことだから、ふりそでぐらいはねだってみるつもりだ。親だって、子どもにきれいにさせたいんじゃないかと思う。『馬子にもいしょう』だ。

小五　女　子

私は成人式には着物をきたい。なぜかというと、着物を着ると女らしくなるし、おとなしくなる。それに美人に見える。

中一　女　子

もったいない、と思うけど、どうせ親に買ってもらうんだから、高くったってかまうもんか。だれだって女のコなら、すごくカッコいいのを着て見たいもんだ。将来は紙の着物の安い

物ができるだろうから、そうなったらどうするかわかんない。　小六　女　子

よくよく考えてみれば、成人式なんてよくないと思う。女の子だけにすごく高い着物を着させて、男の子はそれにくらべて、かわいそうだと思わない？　中二　女　子

和服だけにそんなにお金をかけるぐらいなら、パンタロンかミニスカートですませて、その分だけ外国旅行にでもかけたい。大人になるんだもの。外国などにどんどん出かけて、二十才のお祝いを意義あるものにする。　小五　女　子

あまり着るものでないだけに、もったいないけど、だからよけいに着てみたくなる。　小六　女　子

せっかく買ってもらって「これじゃ、いや」なんていう、親の苦労を知らないオタンチン娘もいる。成人式を祝ってもらえるだけでも幸せと思わなきゃあ。歌にもあるじゃん。〝ぼろは着てても心は錦、どんな花よりきれいだぜ〟だって。　小五　女　子

だって、女だと「だれだれさんは、とてもきれいな和服をつくっているよ」っていわれた場合、私がふつうの服だったらはずかしいから、成人式があれば、むりしても和服を着たい。でも、和服を着たからって楽しい成人式になるのかな。だから、成人式ってなんのことだろう。

「誕生いわいのプレゼント」（一九六九・六）

●友だちの誕生日によばれました。

その子のおかあさんから、「贈物などもたないできてね」といわれました。　小四　女　子

「プレゼントなどしんぱいしないでね」と言われても、よばれたんだから何か持っていく。お店では買わないで、自分で作ったぬいぐるみやおさいふなど、心のこもった物をもっていく。

ぼくはいつも、いっぱいごちそうを食べるほうです。それでたべっぱなしではわるいので、なにかプレゼントを買っていく。　小五　男　子

小六　女　子

こじんこじんでもっていくより、よばれたみんなでそうだんして少しずつお金をだしあってもっていった方がいいと思う。一人一人でもっていくと、金の高いものと安いものとの差がつくからだ。

小五　男　子

ぼくが友だちをよんだ時いつも「なにも持ってこないで」と言うけど、みんなプレゼントを持ってくる。だから、ぜったいにぼくももっていく。

小六　女　子

一月に友だちの誕生日によばれました。その時に、みんなが五百円以上もプレゼントを買ってきたのに、私だけ、百円と少しだけだったので、はずかしかった。

中一　男　子

ぼくが誕生日によばれたら、父にそうだんする。もっていったほうがいいといったらもっていく。そして、ぼくのお金でもっていくんならもっていかない。おとうさんやおかあさんのお金なら、えんりょなく持っていく。

小六　女　子

わたしは、よその人にもらったもので、まだつかってないものを、おかあさんにきいて、いいといったらプレゼントしてやる。お金ではプレゼントにしない。

小五　男　子

もし、その家で、プレゼントを受けとってくれなかったら、帰りにそっと、玄関の所において帰る。そのいえの人は、よろこぶと思う。

●ところで、「まごころをこめた絵や作文を、またはぬいぐるみなど工作品を届けて、お祝いする」という人もあったが、受けるたちばでは、買ってきた高価なものと、どちらがいいですか。

小六　女　子

お金でよいものを買ってきてくれても、心の中でお祝いをしていないのは、あまりうれしくありません。わたしは、真心のこもったおくり物がよいと思います。

小五　女　子

わたしは、心のこもったプレゼントもよいが、一年一度のお誕生日だから、買ってくれたプレゼントの方がよいと思う。その方が、あとで学校でもつかえるし、よろこんでもらえるともいます。

やっぱり買った品物がいいと思う。絵などだと、真心はこもっていていいけど、少しはずかしい気がする。

小六　女　子

「うさぎとかめ」

（一九七〇・一）

●昔話に、兎と亀の競走の話があります。

あの話を聞いて、今の子どもは、

「なぜ亀は兎をおこしてやらなかったのだろう」といったそうです。

皆さんが亀だったら、どうしますか。

私が亀だったら、れっきとした競走をするんだもの、兎なんかおこしていかないわ。ねてしまうのが悪いんだもの、おこしっこないじゃない。

小五　女　子

第一に、競技中にねちゃうなんてバカだわ。

小五　女　子

私は兎をおこしてあげる。どうせ競走するのなら、せいせい堂々と勝負したい。亀が負けたって、全力出してたたかえば、それがいいと思う。

小六　女　子

おこせば、兎はまた特別のことがないかぎり勝つし、いつも負けてばかりの亀もたまには勝ちたい。バカにされたのに、その兎をおこしてはやれない。競走だから、どちらかが勝ってどちらかが負ける。だからかってに昼ねしたほうがいけないしおこさなくて当然だと思う。

小六　女　子

私だったらぜったいに兎をおこさないな。「なぜ兎をおこさなかったのか」なんていう子もいるそうだが、それはたんなるうわべだけのせいぎかん、だと思う。もし自分が亀だったら、おこすことはないだろう。そのうえ兎は亀をさんざんバカにしたのだからじごうじとくだ。

小六　女　子

私もおこしていかない。だって、これは自分で勝つと思いこんでゆだんをしていた兎が悪いと思う。何でもゆだんをしないで、最後まで自分の力を出して競走すればよいと思う。

小六　男　子

おれがもし亀なら、おこしていかない。兎のしっぽに糸をしばりつけて、ゴール直前になっ

たら、思いっきり引く。兎があわてできたってもうおそい。なまけ者は負けるいいれいだといって、兎をしかりつける。

自分はいくらのろまでもがんばったのだと、みんなにそれを教えてやる。イイキモチ。

小五　女　子

兎はあとでこういったかもしれない。おこしてくれなかったからずるいよ、もう一回競走しなおそうよ。

だけどいまいちどやったら亀はぜったい負ける。どっちがずるいのだろう。

（編者注）

小学生ばかり五十人のクラスで書いてもらった。兎をおこしてやるという考え方は、そのうち五人だった。

「神様を信じますか？」

（一九七四・七）

●この世に、神様なんているのかなあ？きみは、神様を信じているかい。

私は神様を信じます

四小六年　設楽るり子

私は信じます。たまに、手を合わせて何かをおがむことがあります。思うとおりにはならないけど、神様を信じるから、手を合せておがむのです。

一中二年　小野　勝美

願いを聞いてくれてもくれなくても、神様を信じます。神様はみんなの心にいつもいます。悲しいことも慰めてくれます。私はそう信じています。

四小五年　柴　満代

こういう時に、私は神様を信じておがみます。1、遠くへいくとき。2、テストの点数を見るとき。3、いい夢が本当になるようにと思う時。4、ことし一年をいのるとき。

一小五年　奈良　示子

毎日、わたしたちが楽しくくらしている。たまには思いがけないいやなニュースをテレビなどで見る。お父さんは毎日仏様をおがんで、そんなことがおきないように、いのっている。

六小五年　佐藤　晃美

水泳で級をとるとき、そろばんで四級をうけるとき、おちゃわんなんかわっておこられそう

な時、私は神様においのりしています。

七小六年　岡野　麻理

ある国の教会の屋根の上に、マリアさまがイエスキリストをだいている姿が見えて何人もの目げき者がいて、写真もとれたと本で見たことがある。よく人の「れい」の話も本で見たりします。「れい」があるのなら神様もいると思います。

一中一年　斎藤　佳子

飛行機が落ちた時助かった人は、日ごろからいいことをしていた人だろう。そういう人は、いざとなった時、神様が助けてくれるのだと思う。

二小六年　関谷　浩美

私が生まれて八か月ぐらいの時、風邪がひどくて死にそうになった時、母が神様においのりしてなおったと言います。だから私は、毎月神様のところへいって、おいのりをしています。

二小六年　島田　俊昭

姉はことし高校に入った。姉はぼくのお守りを持って、神様に祈っていたら合格したのだと思う。神様とは、命をささげるようなものでなく、自分をきよめるものじゃないかな。一心になれば、なにごともかなえてもらえるんだ、ね、神様。

一中一年　増田　里子

父のいなかにお地蔵さんがある。お願いする時はその前の石をお地蔵さんにあげておいのりします。そしてみんなが祈っています。

三小五年　田子　美幸

すこし信じます

神様がいないと思う時は、神社などで願いごとを祈ったのにそれがかなわなかった時。いる

と思うのは、お母さんに叱られたあと、ころんだりして「ばちがあたったんだよ」と母に言われた時。

四小六年　秋山　浩一

ぼくもときどき試験の時に、「ああ神様」なんて言っているようだ。おとなの人も、石油さわぎの時、「ああ紙、紙」と言っていたなあ。

五小六年　小田辺　将

神様を実さいに見たことはないが、ぼくも高校を受ける時など、神様にお願いすると思う。神様、信じてあげるから、高校受験の時はおねがいします。

信じません

三小六年　浄法寺静江

おくれている、おくれているなあ。いまはもっと現代的なことを考えなくてはならないのに！

一小六年　平井五葉子

受験の時、神様に祈っても落ちる時はおちるし、合格する子は合格します。自分で努力した

かしないかで、いや実力できまってしまうのです。

二中一年　鈴木智恵子

だいたい神様なんて人間が考えだした空想のものであると思う。その神様が、どこの国のもさまざまだし、本ものかニセモノかもわからない。もし実物（ほんもの）を見せられたら、信じるかも……。

五小六年　吉田　祐一

はつまいりにいった時、ことしはテストの点数がよくなりますようにと、毎年ていねいにお祈りしているのに、いつもあまりよくならない。だから、ぼくは神様など信じないのである。

一中一年　野島　勝巳

この前の検定試験の時、青梅と福生と両方を受けた。その時、青梅の方に合格するように神様に祈ったら、青梅は受からないで福生に受かってしまったから、ぼくは神様は信じない。

かみさまなんて？

一中一年　森田とみ子

神様を信じたい。だけどこの前の検定試験の時、一生懸命お祈りしたのにだめだった。もっ

と努力しないとだめなのかなあ。それにこの物価高なのに、一円しかあげなかったからかな？

―中二年　嶋崎　絹

運がよければ「神様がしてくれた……」と思い、よくなかったら「神様なんて」と思う。私は、神様なんてそのときの運だと思う。

―小六年　山田　洋子

私もやっぱり何かがおこった時は「神様」って言っちゃうな。ふだんは信じていないのに、ずいぶん私はずうずうしい人みたいだ。でも、これを書いているうちに、なんだか神様を信じるようになったみたい。

中一年　市川　恵子

神様は本当に存在していなくても「苦しい時の神だのみ」とかいう。だからそういう、おまじないのような気休めにあるんでしょ。私も今は信じていないけど、苦しい時は信じると思う。

「くだらない、マンガざっし」（一九七〇・一〇）

●父「なんだ、またそんなくだらない雑誌なんか読んで。それより、学校の図書室にあるような本を読みなさい、と、いつも言ってるじゃないか。しょうがない奴だ。」

子「ぶつぶつぶつ……」以下にその声々。

中三　女　子

三年にもなると、親の意見なんかぶっとばして読んじゃう。親なんか、こわがることたあねえよ。読んでみりゃあ、国語の読みのたしぐらいにならあ。ざまあみろってんだ。〃ギャー、ハッハッハー〃

中二　女　子

私たちの読んでいるのがいけないなんて、大人の好む週刊誌はどうなのかな。私自身、こういう本読んで悪いと思わないの。だから今だって平気で読めるんだわ。

大人は悪い本だと思ってるから、かくれて楽しんだあとは、駅の「読まない、見せない、売らない」のポストへ、ポイ。けっきょく、悪い本だということを認めているんでしょ。この間、ポストをのぞいたらどっさりつまっていた。それなのに、こんなこと言っていいの。

小六　女　子

「ハーイやめます」といって、ほかの本を読むふりしておいて、いってしまったらまたさっ

きの続きを読む。たしかに今の本はくだらないものがあると思う。こんなのを作ったり書いたりする人は、お金がはいるし有名になるからいいけど、子どもにはよくない。こんな本があることで、ち漢もふえたりする。

中一　女　子

おとうさんだって、中学生のころどうだったの。とにかくこんな本を考えだした人イヤラシイ。この世の男はみんなイヤラシイ。

小六　女　子

いくらくだらないって言ったって買ったもの読まなきゃあ、そんじゃない。それとも、このマンガを本屋さんにかえして、八十円もらってきてくれる。

中一　男　子

昔はそういうものがなかったから見なかっただけ、今の時代はマンガ、マンガ時代だ。

小六　女　子

少しはそういうもの見ないと、学校で友だちと話をしている時にも意味が通じないの。

中二　女　子

そういう本を読んで悪いのなら、なぜそれがよくないのか、きちんとした理由があるだろうから、それをはっきりと言ってくれるべきだ。ただ、頭ごなしに良くないときめつけるのは横暴であると思う。そういうマンガがよく売れていることも、なぜかということを、大人はもっと考えてください。

小六　女　子

マンガは、勉強の息ぬきぐらいに考えればいいじゃないかな。いくら見るなと言っても、子どもは親の知らないところで読んでるよ。

小六　男　子

学校の本よりくだらないだろうが、たまにはいいだろう。もんくがあるなら、大人が電車の中などで読んでいるくだらない本を、ぜんぶやめてから言ってもらいたい。

小六　男　子

ぼくはときどきハレンチ学園を見るけど、すこしマンガてきだ。このごろたしかにマンガは悪くなっている。だけどそのことを知るのもだいじだよ。大人だって、ときどきバーにいったりするじゃないか。大人だけ楽しんで子どもはいけない、なんてない。だからそんなに気にするな。

中二　女　子

「ひょうたんからこま」って諺があるでしょ。くだらない雑誌から勉強することも多いのよ。一日に昼と夜があるように。

小六　女　子

図書室の本って、字ばかりです。マンガは絵ばかりです。絵ばかりのほうがおもしろいの。たとえばおしゃれとか、異性との交際についてとか、……そういう勉強は雑誌のほうがよくわかります。

中一　女　子

見たいやつには見せればいい。子どもは、見るなと言われると、いやしいまねをしても見たがるもの。そんなこと言うかんじんの大人は、テレビだって本なんかだって、もっとエッチなものを見たりしていて話にならない。

小六　内田　義明

ぼくはハレンチマンガをすこし見たことがある。見るときはすぐにちがうページをめくって、おもしろいところを見る。だれかに、おい、エッチなのがあるなんて、むりに見せられる時は目をつぶる。

小四　男　子

ぼくたちのクラスでは、ハレンチマンガを見るのはきんしされている。でもたまに女の子が見る。そういうのはずるい。みんな見たいのをがまんしているにちがいないのだ。

小四　井上　秀明

〝八時だよ、全員集合〟のことで　（一九七四・二）

●新聞で見たのだが、ある婦人団体でしらべたら、このごろのテレビのワースト番組トップが〝八時だよ、全員集合〟だとあった。みんなから見て、あの番組をどう思う。

ぼくはとてもおもしろい、と思う。ぼくの気にいっているのは加藤茶で、「ちょっとだけよっ」が気にいっている。あれは加藤が、前にどこかのステージでころんだりしてあのまねをした。全員集合が悪いというのなら「ちょっとだけよ」を早くやめさせればよかった。

平井　市郎

おとなは、「ちょっとだけよっ」がいけないというのかな。だけど、あの番組でこれが一番おもしろいんじゃないかな。それに、あれもへんなことじゃないと思っています。

安藤　鈴子

原島　浩子

母たちは、あたまからくだらない、バカらしいと言うが、私にはてんでわからない。それに父や母も、見れば大笑いする。それと土曜日だからつい心がはずみ、楽しいテレビを見る。

大内　豊

国会議員をえらぶような大人がそういうことをすると、全員集合がだめになるのだ。

田嶋多香子

おもしろいと思うけれど、タブーというおどりは、あまりよくないと思う。みんながまねをするから、あれはやめたらいい。

中一　女　子

おもしろくていいんじゃないかな。くだらないっていうけど近ごろはコントの始めに英語を教えてくれるし、それにああいう劇をやるには「演技力」も必要だと思う。でも、とうふなんかをぶっつけたりむだにするのはよくないと思う。今「物価」が高いから。

その時「テレビをけしなさい」と言われたら……

さあ「全員集合」と、テレビを見ていたら、お父さん（お母さん）がきて、「すぐけしなさい」「ほかにまわしなさい」と言った。あなたならどうする。

以下、中学生三十二人の回答は。

（すぐけす）

父に言われたら（七）母だったら（一）―以下・父母に略

（ぶつぶついいながらけす）

父（一八）　母（七）

（しらぬふりして見ている）

父（三）　母（九）

（りくつをこねて見てしまう）

父（四）　母（七）

○これを二つにまとめて

（とにかくけします、は）

父（二五）　母（八）

（けさないで見てしまう、は）

父（七）　母（一六）

というようなことで、やっぱり父親に言われた方が効くようだ。ちょっぴり、父親の貫禄がうかがえる。

父にも母にも、言われたらすぐけすの答は一名だった。

また、けさないで見ていた場合、それを強引にけさせてしまう親が各一名ずついた。

（一九七一・一二）

「エッチ？　しんせつ!!」

●トイレから出てきてズボンのチャックをしめ忘れて遊んでいた男の子に、女の子が「はずれてるわよ」と教えてやった。まわりの子が、「アーアーエッチだよ」なんてひやかした。

さて、これは〝エッチ〟であるか、はたまた〝しんせつ〟なのか。

しんせつだと思う。見ちゃったのだから言ってあげるのはあたりまえだと思う。けども、ちょっとクイズみたいにおしえてあげればよかったのに。

小四　女　子

小四　石川久美子

わたしたちの学校のクラスでもそんなことがあった。女子がそういう男子に、「社会のまどがあいてるよ」とおしえてあげると、男子は「このクラスの女はドスケベだなあ」という。でもおしえないでおいて、休み時間に外で遊んでいて、学校全体にふれわたったら、その子はいくら男子でもはずかしいと思う。

それより、男子はたまにパンツまるみえということがある。それこそ男子はドスケベだと思う。

小四　岡山直美

エッチだとは思わない。それをひやかす方が、とってもエッチだと思う。

小四　町田容子

人がみて、いやだなあと思うことをおしえてあげたのだからしんせつだと思う。

小五　河田幸盛

しんせつだと思う。どんなことでもきづいたことを教えるのはしんせつだ。エッチと思うようなことがエッチなのだ。

小四　男　子

ぼくはエッチだと思う。チャックがあいているときは、パンツが見えることがあるもの。

小四　女　子

このごろ、あまなっとうとかいって手をあわせるのがはやっている。これのほうがエッチです。

「知らない人のお迎え」

（一九七二・一〇）

●珠算の帰り、きょうは一人になってしまった。さびしいなあ、と帰りを急いでいたら、後からきた車のドアがあいて、「〇〇ちゃん、おかあさんに頼まれて迎えにきたんだよ、早く乗って」という声。

その時、あなたはどう言いますか。

いいです。自分でいそいで帰りますから。

三小四　星野　由貴

おかあさんに、いつも迎えの時は自分がいくから人の車に乗っちゃいけない、って言われているもの。

三小四　金沢　佳代

「ほんとかなあ」

三小四　安野千恵子

「おじさん、家とどういうかんけいなの」
「おじさんのなまえは？」
「じゃあ、あたしのみよじを知ってる？」
「おじさん、もしかしたらゆうかいまじゃないの？」

三小五　別所富美代

お友だちがすぐ後からくるから、二人でいっしょにかえります。ほかにようじがあったら言ってください。

三小五　村本　陽子

うちは車があるし、父はいまごろは帰っています。だから何かのまちがいだと思います。
なんにも言わないで逃げる。

三小五　岩波真由美

「なやみごとそうだん」

（一九七三・六）

●友人がとてもなやんでいる。

「男の子から手紙もらったの。こんどの日曜日に二人でどこかへ遊びにいこう、て書いてあったの」ということです。あなただったら友人のためにどんな助言をしますか。

小六　女　子

私は何回もさそわれたことがある。私の方からさそう時もある。さそわれて、はずかしいとかこまる気持は全然ない。さそわれたならよろこんでいくべきだと思う。そうしないと、あいてをきずつけることになる。男子だからいやだ、なんていったことはない。どっちかっていうと男子と行く方が楽しい。私はもうさそったりさそわれたりするのはなれている。そうして男子ともみんなが仲よくなればいい。

小五　女　子

わたしの友だちが、男の子にハイキングにさそわれてそうだんをうけたらこんなことを言う。「よろこんでひきうけて、おべんとう、男の子のぶんもつくってあげてサンドイッチがいいわ。

洋服はピンクのホットパンツに白いTシャツかブラウスをきて、くびにスカーフかなにかまいて、白いハイソックスでいくといいなあ。そして薬もよういして、ケガなどしたらパッとだしてつかえるようにしておく」というように言ってあげる。

小五　女　子

「行ってみなさいよ、あんたではこんなことと二度とないわよその顔では。歌でもあるように〝チャンスは一度〟なのよ。どおせその男の子もあんたみたいにへんな顔してるんじゃないの。おしあわせにね。」

中一　女　子

今は行動の時代、せっきょく的にアタック！　カレのハートをキャッチできるわよ。

小六　女　子

「わあー、ませてる。ゆうわくするの、わたしだったらいきっこないわよ。」でも私にきたら

心の中はうれしいかも。

小五　女　子

「そんな男の子とボーリングなんかに行ったらだめよ。もしもボーリングの所でほかの男の子にさそいを受けたら、もうことわれなくなってしまうから」

中一　男　子

ぼくがそれを聞いたら、その男の子にあって、がん面をおもいっきりぶんなぐってかえってくる。

小六　女　子

「私だったらいかない。どうしてかというと、友だちに見つかって大さわぎをされるから」

中一　女　子

「そんなさそうような子は、ふりょうみたいなんだから、絶対にいかないほうがいい」

小六　女　子

「みんなも一しょだったらいいけど、二人だけではいかないほうがいいじゃないの」

「むだづかいする友だち」

（一九七三・一一）

●「私たちは家も近いし学校でクラスも同じ仲良し三人組です。だけどこのごろ、A子ちゃんが駅のそばのデパートでラーメンなどおごってくれます。Bちゃんも、A子ちゃんにわるいからとケーキなど買ってくれます。私にはそんなおこづかいがなくて困っています。」

という人から相談をうけたらあなたはどう言いますか。

伊藤由美子

その友だちに、「わたしだけおごらないでわるいけど、そういうことはやめましょう」と言って、これからしないようにしてもらう。

田子　美幸

私なら「私の家に遊びにこない?」ってさそっちゃう。そしてお母さんにお茶がしをもらう。

大竹　康志

ぼくだったら学校づきあいだけにしてしまう。そして日曜日はその人と遊ばないくふうをする。

わざとけんかをして、ぜっこうしてしまう。

阿部　和浩

あいてがおごってくれるのだからおごりかえさない。それでもんくを言われたら「こんどからあたしにだけおごらないで」っていう。

平田　紀子

仲良しの友だちなら、じじょうを話せばわかってくれるだろうから、一週間に一回ぐらい、三十円のチョコでもおごる。

内田　勝之

私の友だちがそんなにいい人だったらかんげいしちゃう。時にはラーメン、またケーキ、私もしじゅう食べられたらいいなと思う。でも少し気になるな。私だけいつもおごってもらうのはわるいね。それならアルバイトしてでもおかえししなけりゃあ。

原島真理子

「ヘルメット・ゲバ棒の大学生・高校生のこと」（一九六九・四）

学校がつぶれれば勉強ができなくなる。大学生から高校生へふん争がつづき、その続きは中学生、そのまた続きは小学生。

こうなれば日本も終わりになってしまうかもしれない。そのようにさせているのは国がいけないのだ。もっと国がちゃんとしていれば、こんなことはおこらなかったと思う。

中学女子

せっかくの卒業式をちゅうだんさせてしまってよくないと思う。もう一度やり直してもいい気持はしない。在校生だって同じだと思う。

中学女子

でもゲバ棒をふりまわしたのは、けっして理由なくてやっているのではないと思う。何かしら事情があってやっていると思う。だから、もっと両方の人が話しあって考える必要がある。それができなければ、学問をした人間ではないと思う。

小学女子

大学生でも高校生でも、学校であばれることはおおいに賛成。

第一はカッコいい。

第二に若さがあふれている。

今の頭のこちこちな古い古いおとなたちへのちょう戦みたい。それに、一種のスポーツではないかしら。一つでも多く早く、新しい物を作り出していく今の時代にぴったりじゃないかしら?。父もいっていた。学生たちがあばれることで、今の日本が持っている大きな問題を世間にしらせることができるんだって。
もしそれが本当なら、学生たちが暴れているのは、この世の中のためになっているんではないかしら?

中学　女　子

気にくわない学校なら、さっさとやめてしまえばいいんだ。もし中学でそんなことがおきたら、私は個人で行動する。たとえば、校長先生やPTA会長にいたずらしてむこうの腹をたたせといて、こっちがいいたいことを言えば、むこうだってかってなことを言うはずだ。
それを言わせたらこっちのものだ。

小学　男　子

ぼくもやってみたいと思う。石でガラスをわったり、校舎のコンクリートをこわしても、それをなおすのは国の税金でやってくれるので、ぼくもなんとかやってみたい。

中学　男　子

ゲバ棒であばれたりしても、別に意味がないと思う。学生と学校がもっともっと話しあいをすればいいと思う。げんに東大で、あばれてもあばれるだけで、今は入学試験も中止させられたあのだらしなさ!。おとななんだから、もっとおとな的な解決方法でかたづければと思う。

中学　男　子

学生も機動隊も、同じ日本人なのに。だれのためにあんなににくみ合わなければならないのだろう。その本当のことを知りたい。

中学　男　子

全学連の、大学、高校のふん争は、ただのふん争でなく、政治的なもので、全学連は、日本を自由主義から共産主義に革命しようとしている。あの一月のふん争のとき東大にたてこもり、二日間攻防した。あのとき、ソ連の旗と、毛沢東の写真を、講堂と時計の上につるしてたてこもった。日本人だったら天皇を尊敬すべきである。毛沢東ばんざいとかいったのが気にくわない。
日本人のわるいところは、すぐみんながさわぎだしたり、いい服や変わったあそびものをもってくると自分も自分もとまねをする、こんどのふん争もそうだ。ことしになって急に高校生がのさばるようになってきた。

卒業式の時、起立といわれても立たない。もっと悪いのは校長や学長などをかんきんしたりする。これはとてもあたまにくる。先生もてぬるいと思う。ああいうのは徹底的に、ぶんなぐるのがいいと思う。

あと一番大変だと思っているのは、機動隊の人たちだと思う。けがをさせず、自分もけがをせず検挙する。これはとてもむずかしい。だいたい、機動隊一人で全学連を五人なぎたおすことはわけない。だけどけがをさせると世間がうるさいから機動隊も苦戦する。一番てっとり早いのは、自衛隊に出てもらってみなごろしにしてしまえばいい。一番きたないと思っているのは、機動隊と全学連が乱闘している時、機動隊に一般人が石をなげたりする。どさくさにまぎれて石を投げ、逃げる。こういう人間がいるからいい社会をつくれないと思う。ぼくは全学連をにくむ。

「兄（姉）がゲバ学生だとしたら？」

（一九六九・一〇）

●大学生の兄（姉）が、きょう、どうしても大学でゲバ棒をふるってくるという。父や母はそれをやめさせようとしている。

さて、君の意見は？

デモをやりたい気持はなんだかわかるような気がするけど、兄がケガをしたり、警察につかまったりしたら、父や母だけでなく私もはずかしい。

小学　女　子

私は大学へいっても、ぜったいにデモ学生にはならないようにしようと思っています。

小学　女　子

テレビにうつった、つかまった大学生のあの顔は、なにも考えずにかまわずあばれまわっているみたい。そんな人たちと、ゲバ棒持ってやるなんて大学生らしくない。もっと、大学生らしいやり方でやりなよ。小学校から高校まで学んだ知識を使ってやりなよ。自分がはじかくだけだよ。

中学　女　子

学生運動をやっている人にはその人の意見があり、それが正しいと思っているのだから、それでよい。正しいことなら、世間ていなんか考えないで、どんどんやればいい。でも私には、今の学生運動が正しいのかどうかわからない。

中学　男　子

日本のためになるのなら、ゲバ棒で暴れてもよいと思う。いまの日本は、なんとなく満足しないからだ。

それに戦争ということを考えると、まだデモのほうがましだからだ。でも、なにもかかわりのない人に迷惑をかけていることを考えると。両方五分五分だ。

中学　女　子

お兄さんたちがあばれたいのはわかるけど、そのために私まではじをかくようなことはしないで。お兄さんがテレビに出てクラスの子がカッコイイ〳なんていわれるのなら、まあいい。昔、お父さんは「お国のためだ」といって戦争にいったという。お兄さんも、学校のみんなのため（?）にゲバ棒もったっておかしくない。

そのかわり、機動隊がきたらすぐやめて家にもどってほしい。警察につかまったなんていったら、いくらクラスでカッコイイなんていわれても、近所のツンツンしたおばさんが、「あの家の教育が、どうのこうの」といって、家のお母さんを困らせるだろうから。

「世相あれこれに〝もの申す〟」　（一九七二・四）

●このごろの世の中、本当に住みにくくなったよ。おとなの皆さん、しっかりしてください。

中二　男　子

連合赤軍

小学校、中学校、高等学校、大学、みんな卒業する。そして人殺しをして、人にめいわくをかけて、どうなってんだろう。大学へいかなくても、一生けんめい生きていく人がいるのに。

中一　岡野千鶴

もし革命がおこったら、お年玉預金をまずおろす。マンガとレコードを買って、たべものをあつめて、どこかに地下室をつくってとじこもろう。

中一　比留間和代

コマーシャル

テレビのお菓子のコマーシャル。買えばおまけがついてワッペンがもらえる。小さい子はそういうものがほしくてあたるまで買う。あんなコマーシャルには賛成できない。

ふみきり

中一　伊藤令依子

ふみきりが鳴っているのに、おばさんがわたった。おばさんは「いけないんだよね」と笑いながらいってしまった。こんなことをよくみかける。子どもには、そういうことはない。

小五　池上　高行

くやしいな。ぼくもまねしてわたりたい。しかしぼくは学校で代表委員。せきにんがある。わたっている人のまねをしたいがぼくにはできない。

電車よ、早く通れ。

小六　高崎三千代

学校で、交通安全教室の映画を見た。そんな時のおとなは、きちんと交通きそくを守っている人がおおい。だけど、じっさいはちがう。信号が赤でもわたってしまう。スゴイスピードで走る。どうして、映画やテレビに出てくる人のようにやれないのだろう。

映画のポスター

小六　女　子

学校の通学路に映画のポスターがはってある。男の子は、そのポスターにらくがきしたり、みとれたりしていることがある。大人は、そんなこともよく考えてポスターをはるようにしてもらいたい。

小五　女　子

友だちなんかと一しょに帰る時、こんなポスターいやだね、なんて話をしながら帰るのはよくないから、こんどからはってほしくない。

中学生

中一　女　子

中学になると、スカートのたけが長くなる。それにしけんが多くなる。スカートはみじかくしけんは少なくしてね。

中二　女　子

こんどの一年はみんな「なまいきだ」とか言っている。たのしみだ。もしもなまいきなやつがいたらどうしようかな。

上級生はおっかないぞ。ウヒヒヒ……

中三　男子

もう三年生だ。受験がやってくる。ともかくいやだ。これから一年間、なやむことになる。

中二　女子

よく学校内で男子と女子二人が一しょに歩いたり、廊下でしゃべったりしていてあつい。いいなあーと思い、私も二人で話をしてみたい。でもそんなあいては私にはいない。

小六　わたなべ

おれは今度最上級だ。おれは最上級生としての自覚を持ちたい。Hなマンガは見ない。深夜放送は聞かない。友だちにめいわくをかけない。

おれは、「千葉真一」みたいなかっこいい男になりたい。

中一　女子

「ある外国の中学校では、週末（土・日）は休日制」というようなことを雑誌で見た。日本でも、いや福生市だけでも、小中学校は、土、日曜日の休みを実施してほしい。

「せっかくすわった席なのに……」　（一九七〇・一一）

●立川へお使いにいった。帰りはホームで一番前の方にならんでいて、電車がきたらさっと座った。ほっとしていたら前に立ったおばさんが、「坊やたち元気なんだから、おばさんを座らしてくれない……」と言った。

小五　女子

そういう人がきたら、私は窓の方をむいて知らんふりをしている。そして、「なんだ、このこんこんちきのくそババア」なんて、口をとがらして小さい声で言っちゃう。また言われたら、人がこんでいたら立ち上がって、おばさんをたたいてからあっちへいっちゃう。

小六　女子

何も言わずにすわらせてあげるけど、むこうから言うのが気にくわないなあ。よく見かけるんだけど、おしゃべりに夢中で、小さい子がほかの人にめいわくをかけていても注意しない親がいる。そんなだらしない親が、わたしも女だけど、おとなの女の人に多いみたい。

小五　男子

「うるせえ、おれだってつかれてんだ。そんななかってないよ」とにらみつける。自分から、「ゆずる」ならともかく、むこうから「ゆずれ」というんだったら、何百才の老人でもぜった

いにゆずらない。

小六　女　子
私は、どうぞと言ってゆずる。としよりでなくても、大きな荷物をもった人の時もゆずるのが、常識だと思う。

小六　女　子
その日は日曜日で、とても電車はこんでいた。私のとなりが二十糎も空いていないのに若い女の人が座ってきた。私の足の上のところまですわっていた。とてもずうずうしい人だ、と思った。

小五　男　子
しらんふりしてとぼけて、友だちと話をしてゆずらない。

小五　女　子
私も、せっかくとった席だからゆずりません。ほかのところをさがしてと、きっぱりことわる。ただし、先生とか、知っているおばさんだと、あとから何か言われる心配があるから「どうぞ」と言ってゆずる。

小五　男　子
おとなってずるいよ。子どもには、人の家へいったら礼儀よくするんですよ、というくせに。

小六　女　子
私は、言われなくても立つことがある。でも自分で早くきてとればいいのに、と思う。年よりの人はそれは無理だ。走れないから席はとれないよ。

小六　男　子
「ぼくなんかだってつかれてんだよ」
「なにへりくつ言ってんのよ。席をゆずってちょうだい」
「なにかいいものくれんなら、ゆずってもいいぜ」

小五　女　子
私たちだってつかれているんだもの。もし自分がそういう時に、どうするだろうか。おばさんたちもそれを考えてから言ってもらいたい。

小六　男　子
「おばさんはまだ若いよ。ぼくたちは、今、歩こう会へいってきて疲れているんだから」とうそをついてやる。

小六　男　子

電車の席などは、先にすわった人の方が優先だから「どいて」と言われても、立つ必要はないと思う。

小五　男　子

おとなはきたない。子どもばかりだとバカにして言うんだから。子どもだって、ちゃんと電車ちんをはらって乗ってんだぞ。

小五　男　子

そりゃあもうきまっているよ。ゆずるわけがない。人がせっかくとった席なのに、そんな人にとられてたまるか。

どんなことだって、自分で努力しなければ楽はできないんだぞ！あまったれるな。

小六　女　子

私は、赤ちゃんをつれているような人のとき、すぐにゆずろうと思うが、そういう時、とてもはずかしい。おとなは、赤ちゃんなんかがくると、すぐ寝たふりをするけど、ちょうしいいなあと思います。

「古いなあ……」と思うとき　（一九六九・三）

●〝まったくうちのお父さんやお母さんは古いんだから〟と子どもはよくいいます。その古いと思ったときの例をあげてみてください。

小六　女　子

わたしがスケートにさそわれたときに「だれとだれがいくの」と聞かれたので、行く人の名前をぜんぶ言った。するとおかあさんは、「わたしが見たこともない男の子となんかいっちゃいけません」と言った。おかあさんは古いなあと思った。

中一　女　子

私の家では、私と弟とけんかをすると必ずといっていいほど年上の私をしかる。いつも「あなたは年上でしょ……」こういうのは、私の家だけではないようだ。そこでいいたいけれど、夫婦げんかしたときは、これと反対に子どもが親に対して、「あなたは年上でしょ」って親にいってやろうかな。親のすることは子どもはいつもみているんだから。

中一　女　子

GSのテレビや人気歌手の歌を聞いている時、「こんなのどこがいいんだろ」と父が言う。
私はこのような時、父はどうして考えが古いのかなあ、時代が時代なのに、と思う。

中一　女　子

一般の家庭のお父さんに比べて、私の父は気むずかしいと思う。気楽に友だちと話すようにすると、「その言葉が父に話しかける言葉づかいか」といって叱られることがある。

中一　女　子

学校での休み時間のおしゃべり。
「ねえ、さっき○○君と目があっちゃった」
「私、きょうはまだあの人と会ってないんだ」
「ねえねえ、私、知らない男の子から年賀状もらっちゃった」
こんなようなおしゃべりに最近とても関心があります。
クラスの一部の人が、二、三年の男子にあこがれてきた。
○○さんは××君
××さんは○○君
と、私はだいたいの人のあこがれている人を知っている。でも、私にはまだそんな人はいない。家に帰って母にこんな話をすると、
「なにいってんのなまいきな」といきなり言われた。
何か言うとすぐ、昔のことをとりあげて話す。そんな母が「古いな」と思う。

中二　女　子

（一九七二・三）

税　金

●アルバイトをしてたくさんお金をもらったら、そこから税金を引かれていたとする。そういう〝税金〟というもの、どう思うかね。

小六　池田　紀子

アルバイトのなかから税金をとられたら、そんなところはすぐにやめてしまう。

小六　古谷　陽二

税金の分だけ家でまとめてはらえばいいと思う。

小六　中野　雄二

税金をなくして明かるい市をつくろう。

小四　松本　悦子

税金なんて、あっしにはかかわりのねえことでござんす。

小六　尾沢　輝美

せっかく一生けんめい働いてお金をもうけても、その中の一部は国にやるなんてもったいない。黒じ国といわれているくせに、そのうえ国民からお金をとりあげるなんて、ナンセンス！

小五　笹本美枝子

たくさんお金をためたいのにそこからとられるのだから、税金なんていやだと思う。

小四　馬場　昭江

みんなの税金でいろんな工事をして、安全な道ができて交通事故にならないからいいと思う。

小四　河西　洋子

お金をあげるのはいやだけど、そのお金で、学校や道路ができるのでしょうがないと思う。

＝座談会＝

昭和初期の〃ふっさっ子〃を語る

（出席者）
高橋弘喜（熊川・牛浜）
石川昌一（熊川・南　）
井上寅吉（福生・加美）
佐藤義和（福生・長沢）
司会と記録
山崎茂男

はじめに

司会　きょうは昔の子ども時代にかえって、当時の〝ふっさ〟ことばで話を聞かせてください。
時は昭和の初期、所は当時の福生村から熊川村にかけて、筋は当時の子どもの生活ぶりなどを、お正月を起点にして話をすすめたいと思います。

年のはじめのためしとて

司会　まず元日はみんな学校の式にいったんべえ。
佐藤　げたっぱきでかすりの着物着て、その着物のそででこれえ（鼻をこするふり）こいてよ。

洋服なんか着てったあのは級で一人か二人だったんべ。
石川　オンなんかの方はな、熊川神社で式いやって、紅白の菓子をもらってよろこんでけえったものよ。
井上　福生じゃあ、そんなこたあなかったんべえ、小学校の講堂で式いやったあのよ。オンなんかの前までは高等科のもんだけがいったけんどな、オンなんかからみんないったあだわ。式が終わんと家へけえって、たこあげやこままわしだったな。
石川　式は九時から十時までぐれえで、出席をとってな。
井上　オンなんかの方は、式が終わって教室へへえらせられて、先生が話をしたもんだ。
石川　二日は、でえし様（拝島大師）へいったんべ。

高橋弘喜

司会　あんな時、いくらぐれえこづかいもっていったもんだべえ。
石川　まあ五銭かそこらだんべえ。えらもっても十銭ってえとこだんべえな。
司会　どんなもの買ったんべえ。
高橋　おらあよくなあ、鳥の形なんかしたア飴を買ったあで、

井上寅吉

佐藤義和

このごろテレビなんかでもよく出べえ。

佐藤　ふくらまして、色をチョチョってくっつけてな。

高橋　タイコをたててタンキリ飴も売ってたんべえ。

どんど焼き

石川　あのころのオンなんかの日程はな、一日はまず式だんべえ。二日はでえし様でよ、三日にもでえし様へちょっくら行ったりもしてな。四日はそけえらの家のしめ飾りを、高等二年のてえ将（大将）に集めさせられたのよ。それから七日はおそれねえに使った半紙をもらって、それをヘエソクに切ってトシ神さめえあげんだよ。そんなのをみんなでそけえらの家へもっててな、いくらか貰って（祝儀）くんだ。「セエの神出されねえと、嫁のけつひっぱたくど」なんてみんなでいいながら、庭にしいてあったア、くずっ葉を、ひっかけっこしながら歩ったな。

十四日はそれえらを集めて、たんぼんなけえおっ立って燃しつけて、どんど焼きいすんのよ。それんとき、柳の木にめえ玉をつっさしてその火で焼いてけ（食）えば、風邪をおっぴかね

えって言ったあもんだ。

まあ、あとはもうヘエテエ（兵隊）ごっこべえよ。そうして八日から学校よ。

司会　書初めはいつやったっけか。

井上　あれは暮れのうちにやったあのよ。福生じゃあな、学校が二十四日までだったのよ。二十五日が開校記念日でな、よそより一日早く休みになったあだわ。だあから二十三日に書いただんべえ。

高橋　それで暮れのうちに書きあげたあから、あん当時は書きぞめじゃあなくって、書きあげって言ったんべえ。

佐藤　そんで書いたあのを持って、親類めえりをしてよ。持ってきゃあ、いくらかおひねりが出んから、それが正月のこずけえになったのよ。

司会　おひねりはいくらぐれえ、へえってたあかな。

佐藤　二銭か五銭だったあべ。

井上　おらあ、おふくろんとこで（母の実家）十銭もらったあのをおべえてんな。

石川　天神講の日にゃあ五目飯つくってな、子ども衆も男と女がべつべつに、おひまちをやらかしたあものよ。

司会　天神講はいつだったのよ。

高橋　あんで、十七日か十八日だんべ。

井上　福生じゃあ、やんなかったあな。

高橋　そんときゃあ、松竹梅を天神講のめえへ（前）飾んのよ。

司会　その天神講のとこ（所）は今のどけえらよ。

石川昌一

石川　内出にある真福寺のそばに、天王様が右っかたにあったのよ、そこんとこだあわ。みんなこまげたあはいて、つっころばりなあがら行ったあものよ。その日だけはな、子どももちっとんべえサケえ（酒）やれたあだで。

高橋　八日は山の神でな、その八日めえにゃあ山へは、へえらなかったあで。山の神のまつりがすめばへえっていいってわけよ。

井上　そのめえに山へへえんと、げえもねえ（つごうの悪い）ことにでっかあすって、おせえられて（おさえられて）きたあだわ。

小正月のめえ玉（繭玉）

司会　十三日はめえ玉をつくったあべ。

石川　あれは、けえこ（蚕）の神様だったのよ。

佐藤　だあからあれは百姓のもんだったあだな。それがだんだん商人の方へもへえってきて、みんながやるようになったんだんべえ。

井上　おれの本家なんかじゃあうるさかったあから、あのめえ玉に醬油をつけて食わせなかったあで。めえ玉は繭をかたどってつくったあもんだから、めえ玉に醬油をつけんと、それでめえ玉にしみが出るってゆってな。しみがついたあ繭は一等に売れねえのよ。

高橋　めえ玉を木にさして床柱に飾ったんべ。あん中ででっけえのを十六つくってな。

井上　おれんとこじゃあ、あのでっけえのはおとっちゃんしか食えねえのよ。あのころはめえ玉なんか、ええごっつおだったんべえ。子ども心にな俺も早くおとっちゃんになりてえな、なんて思ったあで。めえ玉を焼いてぶっつぶして食うとな、めえ玉がぺっちゃんこにできんからいけねえとかな。

石川　あずきげえ（かゆ）はどこでもつくったあな、十六日だんべ。七草は七日で、ななくさげえだ（七草粥）。

だるま市

佐藤　福生の方じゃ四日にだるま市がたったあべ。暮れは二十八日に市だったたな。

井上　あの市は、停車場めえのとおりだったんべ。

石川　駅が停車場とはうめえことを言ったあもんだな。

佐藤　もっと古い人は、てんしゃ場と言ったよ。

井上　福生の方じゃあ正月休みは五かんにちって言ってな、五日まで遊んで、そのかあり七草と十一日の蔵開きは遊ばなかったあもんだ。

佐藤　ふいご祭りっていうのがあったんべえ。

井上　ありゃあ十二月八日で、かじ屋のお祭りだったな。みかんを子どもにくれたりしたあだよ。あれがあんと、ああもう正月がくんなって気がしたもんだ。

（注・昔、農業がさかんな時は、農機具、車の輪の手入れ等でかじ屋が多忙であった。福生でも何軒かのかじ屋があって、ふいご祭りをやった。ふいごに花が咲いて実がなったとかいう伝説かららしい。長沢の設楽鉄工場では数年前までこの行事をやっていた。——窪田幸一氏談）

石川　ふいご祭りたあ、熊川のもんは知らねえなあ。熊川のもんは四日からもう仕事でよ。それっちゅうのが二十日のえびす講、二十八日の高幡のお不動様もあんしよ、そんな日に遊ぶからだんべ。

司会　十六日は藪入りだんべ。あん時にゃ、よそへいってたもんが帰ってきたあだな。

井上　あのなあ、おれんとこじゃあ十六日は便所へお灯明あげたあで。便所なんてえのはふだんあんにもしねえから、年に一度ぐれえは、ってえことからだんべな。

高橋　場所によっちゃあ赤ん坊のお七夜ちゅうのか、あんときに、赤っ子をでえて（だいて）便所をまわんだあで。

井上　そうよ、頭へおしめなんかのっけてな。

おしきせ

司会　正月っちゅうと新しい足袋や下駄を買ってもらえたんべ。おしきせとか言ったな。

佐藤　あんつったって盆暮れぐれえしか、新しいものは買ってもれえなかったよな。俺なんかいつだって、せなのもんの払い下げ品べえだ。大ぜな（上の兄）から中ぜなでさんざ使ったあのを俺がもらあだから、ろくなもんじゃねえわけだ。

井上　だけんどあのころは正月ったって夜なんかやるこたあねえべ。それでおとっちゃんが、肩あたたけなんていうのよ。そんで肩たたきをやんとな、いろんな話をおせえてくれたよな。いろりっぱたなんかで、みんなでそのことでしゃべってよ。

司会　だあからカルタや百人一首も家中でやれたあわな。

子守っ子

司会　ふだんは子どもは、ずいぶんてつでえなんかでこき使われたあよな。

石川　学校からけえりゃあ赤っ子をおぶわせられてよ。もんくう、こきゃあ、あにい、このよどおされ野郎、なんてどやされてよ。

佐藤　昔は道が悪かったんべ、冬のどじにゃタッペぺえ出ててよ。それで下駄で歩くだあからどうしょうもねえだあ。

高橋　下駄の歯へ、どろがつまっちゃってな。

佐藤　雪でも降ったあ日にゃあ目もあてられなかったな。

はつうま（初午）

司会　当時の子どもにゃあ、はつうまったあのは楽しかったなあ。

井上　ウラが方じゃあ、せえの神をやんなかったあからな。お正月のおかざりを稲荷さめへあげといてよ、それを初午の日におたきあげえしてよ、その火でめざし、焼いて食ったあよ。

高橋　ウラがあ方もそうだわ。ありゃ稲荷講ったなあ。

佐藤　このごろまた稲荷講は復活してきたあど、神明社んとこでやらあな。

井上　あそこへ旗あげべえ。あの色の順がな、せいおうしゃくびゃくこく（青黄赤白黒）っちゅうだあよ。

石川　黒っちゅうのは紫のことだんべえ。

豆まき

司会　節分の豆まきもどこでもやったあな。

佐藤　まいたあ豆を年の数だけけえ（食え）なんてな。うちによっちゃあ、井戸とか便所までいって豆をまいたあな。

井上　うらがじゃあ、豆まきん時は、じょうぐちや、せどに、（表口や裏口）ひいらぎの枝にいわしの頭をつっさしたのをおったってよ、豆の木もやったな。それんときおとっちゃんは、口ん中でおまじないをいいながらそれにつばあひっかけたよ。「米の虫、粟の虫」とか穀類の名あいってたと思ったあな。豆まきがはじまんと兄弟で雨戸をあけてよ、おとっちゃんは豆を家ん中へまき終わんと、トンボぐち（台所）から外へ出べえ。それでサッと戸を閉めらあ、そ

うすんとオンなんかも雨戸をサッと閉めんのよ。鬼が中へ、へえってこねえようにだな。
おとっちゃんはそれから、納屋だとか、ゆどの（風呂場）にも豆をまいてくんのよ。それから残った豆を食ったり、あとは半紙に豆をくるんでな、おかま様にそれをしばっとくのよ。そんでその年のはじめて雷様が鳴った時にな、その豆を食うとよ、雷よけになるなんてゆったよ。

司会 豆まくときは、あんってゆったんべ。

井上 〝福は内〟が二回に〝鬼は外〟一回で、それから〝鬼の目んだまぶっつぶせ〟なんてやったんべ。

それからあとは

司会 三月からはよ。

佐藤 三月はお節句にお彼岸だんべ。お彼岸はボタ餅が食えたんべえ。あんつったってガッついてえたからよ。まず食うものが、はなに（先に）出らあ。

井上 お節句の三日と四日は学芸会だったんべえ。

司会 あん当時は学芸会の日にゃあ、子どもも親も大さわぎして見に行ったあわな。講堂の板

のまに座りこんでよ。三学期にへえんと、すぐにもう役者アきめて練習だったあな。

高橋 熊川のオンなんかは福生にゃあ講堂があんからってうらやましくってよ。あのころ、熊川のもんで、わざわざ福生の学校へ通ったやつもいたあで。上の学校（中学校）へいくにゃあ、福生で勉強しねえとだめだなんていったあもんだ。

石川 四月はおしゃか様だ。四月八日は花祭りでな。

司会 花祭りに甘茶をもれえに、お寺へいったあな。

井上 春祭りが四月三日だんべえ。年番が出て、でっけえ旗立ててよ。

石川 三日は神武天皇祭だったんべ。

井上 そうだ、そんでやっぱし神社へいってよ、話を聞かされたんべ。そのあと紅白の菓子が出てよ。

佐藤 おくもつだあな。

高橋 村野さんったっけかな。陸軍の服着てよ。話をしたんべ。

井上 そりゃあ陸軍記念日だんべ、三月だったな。

高橋 軍帽の先に、とりっぱねをくっつけてな。

農繁期

司会　田植えどきになんと、みんな忙しかったあなあ。
石川　五月のお節句があってよ、それまでだ、遊べたあのは。
井上　桑っつみだんべ、麦刈りにボウチよ。
司会　そういう畑のてつでえなんかいくつぐれえから出たあのよ。
佐藤　六年生だあな、おめえ。
高橋　そうよ、高等科になりゃあ、もう、いっぱし（いちにんまえ）だったあもんよ。
井上　オンなんか六年ぐれえでよく畑へいって、麦っさく切ってんとよ、そおすんと、ここのせがれも、もう、いっぱしだあな、なんて言われたもんだ。
司会　だあから昔は農繁休暇なんてあったたな。そしてオンなんかもたんぼへいかされたあわ。
高橋　蛾の幼虫とりだんべ。いなごや尺とり虫とりだんべ。
佐藤　尺とり虫は桑の木についてえてな、あれを買いあげたんべ。
司会　それから暑くなりゃあ、川へいったあな。
佐藤　ヨウ（魚）とり、だんべ。ながしをかけて、朝っぱらくれえうちに川へいったりな。
石川　水あびをやったんべ。

司会　そうすんとお祭りがくらあ。（八月の夏祭り）
井上　お祭りせえねえど。あれをゆわれんのが、あのころの子どもにゃあ、一番こてえたなあ。
司会　お祭りについちゃ、別の機会にくわしくやってもらうべえや。

手製おもちゃ

司会　遊び道具は、てめえたちで作ったよな。
高橋　そうよ、竹馬なんか屋根から乗るようなやつをな。
石川　こまだってつくったよな。
佐藤　おれんとこでな、よく作らせられた。こおば（呑口工場）やってたあべ。べェゾっこまだ。
井上　オンのは五十米ぐれえぶっ飛ばしたもんだ。そんでブウーってうなってたあな。
司会　それも自分で作ったあのかよ。
井上　そうよ、先をなたでこうけずってよ。あとをカンナをかけたり茶わんのぶっかけなんかで、まるいとこをけずったりしてたな。

石川　凧だって、てめえで作ったんべ。あんまり買ったあもんで遊んだおべえ（覚え）がねえな。ぜにがなかったあ、せえもあんべえな。

井上　おらあ、暮れにゃあおとっちゃんが障子はりすんのが待ちらんねえようだったわ。障子はりのたちくず紙でよ。そんで凧を作ったあもんだ。

石川　竹トンボも作ったんべ。

高橋　兵てえごっこの機関銃も竹で作ったんべ。手でくるくるまわしたり、おっぱなしたりすんと、カタカタ音がすんだあよな。

井上　台風がおっぱしたあ（去った）あとで畑のへりにドンドン川作ってよ、水車をまわしたんべ。（台風のあと、湧水で畑のへりに流れができた）

佐藤　台風で多摩川に大水が出て、こっちから向う岸まで水がいっぺえになった時に、向うまで泳ぎっこをしたあな。濁って真黒くなってる水ん中を流されてな。

石川　親は子どもをおっぽりぱなしだあ。暗くなってけえんと、こんな夜っ暗がりまで、ほっつきゃあがって、このバチあたりめ、なんてな。

井上　あげくにゃあ、〝おまんまけえねえど〟だ。腹あ、くちいいから（いっぱい）いいやなんて、やせがまんこいてな。

ひまあ、もらってこお

司会　こづけえかせぎに、多摩川で砂利っぷるいも、はやったんべえ。

高橋　学校をサボっていったあのもいたな。

佐藤　学校なんて、オンなんかもよく休ませられたあで。

井上　けえこ（蚕）が忙しいから、行って暇もらってこう、ってな。

佐藤　そうよ、一時間で、けえってこうだ。俺がな、家で仕ごとを手伝ってん時なんか、一年間で休めんのわな。正月の三ヵ日。七草、小正月の十五と六日。二月は無しだ。三月もなし。四月は花見に一日だけ。五月、六月もなし。七月がおぼん、だんべ。八月はお祭り。九月は中の九日。十月、十一月はなし。十二月は暮れだあからなし。ひでえもんだったあよ。

ひきわり飯

井上　いろいろこき使われたあけんどよ。けえこの、ひきりひろい、ときなんか楽しみだったあよ。近所の、てえ（人たち）にも手伝ってもらあから、ごっつお（ごちそう）をつくるわけだ。それが食えんからな。

石川　毎月、ついたち、十五日、二十八日は米の飯かうどんが食えてな。ふだんは、ひきわりだあもの。おし麦だと食いこんじまうちゅうだあからな。
（麦の皮をむいたばかりのものを、バクという。バク飯だ。バクを臼でひいてくだいたのが、ひきわり。バクをつぶしたものが、おし麦。）
井上　おこじょ（おやつ）だって、さつまだんご、たらしもち、さつま芋のふかしたもの。うちいれ（手打ちうどんの煮こみ）なんかなら、おとっとき（特別の）のごっつおだ。

変わった食物

司会　テレビのようにみんなで楽しむものがなかったから、食いもんで楽しんだあだな。一年のもの日ん時は特別なごちそうも、出ただんべ。
井上　うらがじゃあ元日から三日まで、芋ずいものを食わされたよ。いもと大根をぶったぎったのを煮てよ。そんなけえ、サンショの実やゆずの皮を少し入れんだあわ、それにな、でっけえねぎもへえってんだ。おらあそのねぎがきれえでよ、目えくっつぶってかっこむのよ。せながな、俺の代になったらこんな吸物はやらねえってゆってたけんどよ。おやじが死んで、せなもそんな年になったら、やっぱりそんなことをやってらあなあ。

石川　おれんとこじゃあカブだんごをよくやったあわ。十二月八日につくんだけんどな。大根のしゃてえぐれえのカブをうでてよ、米の粉のちいせえだんごをつくってよ、それらんなけえ、アンコをかっこんでよ、それでカブだんごったあのよ。
高橋　麦まきが終えんと、どじょうげえ（かゆ）をやったんべ、田場所じゃあ。どじょうに作物のねっこを荒らされんからよ、そんで、どじょうてえじ（退治）をかねてやんだあよ。
井上　あずき飯んなけえ、どじょうを入れらあな。うらがあほうじゃ、どじょうなんていねえから、どじょうのかありに、手打うどんだったな。

いたずら

司会　ふだんはもう、おやつといえば、さつま芋だったんべ。
高橋　さつま芋のことだけんどな。一年生ぐれえん時に、近くの三年生で、わりいのがいてな。段上の畑のさつまの穴を掘ってこお、ちゅうだよ。もらったあもんだっていうから大八車もってって掘ってたのよ。三年生のやつが車の上でキョロキョロしてんから、へんだなと思ったのよ。そのうちに畑のおやじがきてつかまっちまってよ。これから警察まで、やあべっちゅうだよ。かんにんしてくろって泣いてなあ。

それから、森田っていうガキ大将がな、めえんち一銭もってかねえとひでえことしてよ。幸楽園のわきに両方から木がおっかぶさっておっかねえようなとこがあってな、そこで石こずきされたあよ。

佐藤　それで遊びにいかなきゃあ村八分くっちゃってな。おめえは向こうだ、ってよ。

高橋　とにかくそいつにはみんな絶対服従だ。その幸楽園のとこに分水が流れてえて、その橋の上でチャンバラごっこだ。向うは橋の上で切る役だ。橋の真中で、かかってこうちゅうべ。かかってくと切られて川へドボンだ。春先のさぶい（寒）時なんか泣くに泣けねえだよな。

おやじ

司会　そろそろこのへんでこの話もしめくくりてえな。さいごに、あのころのおやじが、いかににらみがきいてえたかを聞かしてもらうべえ。どこでも、あのころのおやじは、えばってえたなあ。

井上　ああ、えれえもんだった。えびす講のおそねえにあげたもんなんか、そっくらおやじのめえへおいてよ、おやじが手え、つけねえうちは、けえねえだから。（食えない）

佐藤　おれんとこでもな、おとっちゃんが、夜いっぺえやってよ、ガキはみんなそのめえへな

らばせられて夕飯だ。だあけんど、おやじのいっぺえが終わんまで待たされんのよ。飯いまえへおいといておあずけだあ。そのうちにゃあお説教なんかこきゃがってよ。こっちゃあ、板の間にじかに、ぶっつあってよ、足はいてえし、腹はへだるいしよ。みやあさんなかったあな。

（見ていられなかった。）

井上　火じろばただって、おとっちゃんとこはきまってえて、ほかのもんは座れねえだよな。へたな悪さあこいて、親父にどやされたらぶるっちゃたな。地震、雷、火事、親父っていったあとおりなあだよ、あのころのおやじは。それにくらべて俺たちゃあどうだい。かわいそうなおやじだよな。

司会　じゃあこのへんで、長いことめずらしい話をありがとうございました。（終）

（追記）

この座談会の対象とした時代は、福生の土方言葉と言われた荒っぽい言葉づかいをしていた。それをできるだけ、当時のままに語ってもらったものである。（山崎）

＝昔ばなし＝

土方ことば

故・細谷喜蔵氏談

昔は、川っぷちの人は言葉づけえが荒いと言われたもんです。きたがた（瑞穂町方面）や川向う（秋川市方面）の人なんかが福生へきて、福生の人と話をするのはおっかねえ、と言われたもんです。

こういう荒っぽい言葉を土方言葉といって、昔、この川っぷちに大勢いた土方のせいかもしれねえ。昔は、このへんの多摩川はたびたびの大水で、堤防はすぐこわされる。橋は流されるというありさまだった。その修理を個人請負で一年いくらで工事をやってた人がいた。だあから堤防工事もそうていねいな仕ごとをやってなかった、一時しのぎのようなもんだった。そんなだから大水っていえば工事があって、一年中それが絶えねえほどだったから、土方も川っぷちに住みついて、それでけっこう食っていけたあだよ。

そんな当時の人たちの言葉が、福生に残ったんじゃあねえかと思うね。

あとがき

皆さん。おかげでこのような第三集が無事刊行できました。

表紙（おもて・うらともに）は、中福生、森田崇且氏の特別のお骨折りにより、日本美術院同人・常盤大空先生（日光鳴竜復元制作画伯）に、特に揮毫を寄せていただきました。またその写真版は、第一、二集の表紙写真制作者の、森田崇且氏が仕上げられたものであります。

発刊まで、大変なご苦労を願った、武蔵書房主、桜沢一昭氏に厚くお礼申しあげます。

編者略歴

大正15年8月，福生市に生まれる．
戦後，珠算教室を経営のかたわら，この街の文化運動に微力を尽す．一時，小・中学校教員の経歴もあるが，現在は福生珠算学校経営に専念．
珠算学校月報「ふっさっ子」編者．
編書に「ふっさっ子」第1集・第2集がある．

検印省略

ふっさっ子 第3集

昭和四九年七月三一日 第一刷発行
定価 八〇〇円

編者 山崎茂男
東京都福生市志茂一九〇
電話 〇四二五・五一・〇六四六

発行所 (有)武蔵書房
東京都西多摩郡羽村町五ノ神二〇
電話 〇四二五・五四・五五四二

印刷・製本 (株)昭和印刷